

「昭島市障害者プラン」 策定基礎調査報告書

令和5年3月

昭 島 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的と方法	3
2. 調査結果の分析	4
第2章 18歳以上の方を対象にした調査	13
1. 調査票の回答者	15
2. ご本人について	15
3. 障害の状況について	20
4. 医療や介助の状況について	25
5. 相談や福祉情報について	35
6. 日中活動や仕事について	50
7. スポーツ・運動について	63
8. 住まいについて	67
9. 外出について	71
10. 福祉サービスの利用について	74
11. 権利擁護・障害理解について	88
12. 災害対策について	97
13. 昭島市の障害者施策について	104

第3章 18歳未満の方を対象にした調査…… 111

1. 調査票の回答者 ……………	113
2. ご本人について ……………	113
3. 障害の状況について ……………	116
4. 医療や介助の状況について ……………	120
5. 相談や福祉情報について ……………	127
6. 日中活動や仕事について ……………	141
7. スポーツ・運動について ……………	149
8. 保育・教育・療育について ……………	153
9. 住まいについて ……………	160
10. 外出について ……………	164
11. 福祉サービスの利用について ……………	167
12. 権利擁護・障害理解について ……………	179
13. 災害対策について ……………	186
14. 昭島市の障害者施策について ……………	191

資料（調査票） ……………	197
---------------	-----

第 1 章

調 査 の 概 要

1. 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

本調査は、令和5年度に予定されている「昭島市障害者プラン」の策定にあたって、障害のある方の生活状況やご意見・ご要望を把握し、今後の障害者施策の推進に役立てることを目的に実施しました。

(2) 調査の対象と方法

①調査の対象

本調査は、昭島市内在住の身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者の中から2,000人を無作為抽出して対象としました。

②調査の方法

本調査は、郵送配布・郵送回収方式で実施しました。

③調査の期間

令和4年11月2日（水）～11月25日（金）

(3) 配付・回収状況

配付数	回収数	白票・無効票	有効回収数	有効回収率
2,000	1,020	0	1,020	51.0%

◆ 調査結果の見方について

- ①集計した数値（％）は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値（％）を全て合計しても、四捨五入の関係で100%にならない場合があります。
- ②回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えます。
- ③表(クロス集計)では、特別の表記がない限り、上段が実数、下段が％（小数点第1位まで）を表示しています。また、「＊」はその項目に対象者がいない場合を表し、「－」はその項目に対象者がおり、回答がない場合を表しています。
- ④回答結果を見やすくするために、グラフや表等で回答のなかった選択肢や無回答など一部の項目を省略している場合があります。
- ⑤障害別の分析では、基本的に全体の傾向とは異なる特徴がある障害について記載しています。

2. 調査結果の分析

(1) 医療受診の支援

～ 医療関係者等の障害理解促進と障害特性に合わせた配慮、医療費助成制度の利用促進

- 18 歳以上、18 歳未満ともに、通院したり、訪問診療を受けるなど、医療機関を受診している方が約 8 割に上っており、障害のある方にとって、医療との関わりが重要であることが見て取れます。
- 医療を受ける際に困ることを見ると、18 歳以上では「治療により症状が改善されない」に次いで、「医療費の負担が大きい」、「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」が多くなっています。
- 18 歳未満でも「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」が最も多くなっており、経済的負担の大きさとともに、医療関係者とのコミュニケーションが大きな課題になっていると考えられます。
- 自立支援医療や難病医療費助成制度などの経済的支援に関する一層の周知を図るとともに、様々な障害の特性についての医療関係者等の理解の促進を図ることで、障害のある方が安心して医療を受診できるようにしていくことが必要です。

問 10 医療を受ける際に困ること

		全体	治療により症状が改善されない	医療機関が身近にない	軽いけがや病気の際に受診できる医療機関がない	専門的な治療を受けられる医療機関がない	休日や夜間に対応してくれる医療機関がない	通院のための介助者を確保しにくい	訪問診療を気軽に頼める医師がいない	障害のある人への配慮が不十分	受診手続きや案内など	医療や健康に関して気軽に相談できない	症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない	医療費の負担が大きい	障害を理由に診療拒否を受けたことがある	特にない	その他	無回答
18歳以上	全体	896 100.0	195 21.8	59 6.6	60 6.7	73 8.1	60 6.7	44 4.9	68 7.6	86 9.6	112 12.5	136 15.2	13 1.5	380 42.4	46 5.1	46 5.1		
	身体障害	564 100.0	120 21.3	39 6.9	33 5.9	39 6.9	44 7.8	30 5.3	35 6.2	46 8.2	47 8.3	76 13.5	7 1.2	259 45.9	25 4.4	31 5.5		
	知的障害	120 100.0	16 13.3	13 10.8	12 10.0	13 10.8	6 5.0	4 3.3	19 15.8	15 12.5	37 30.8	22 18.3	5 4.2	42 35.0	5 4.2	7 5.8		
	精神障害	221 100.0	63 28.5	12 5.4	17 7.7	23 10.4	11 5.0	10 4.5	18 8.1	32 14.5	36 16.3	42 19.0	4 1.8	81 36.7	18 8.1	4 1.8		
18歳未満	全体	103 100.0	12 11.7	8 7.8	14 13.6	8 7.8	8 7.8	5 4.9	18 17.5	11 10.7	21 20.4	16 15.5	10 9.7	39 37.9	7 6.8	3 2.9		
	身体障害	34 100.0	4 11.8	3 8.8	8 23.5	1 2.9	5 14.7	2 5.9	7 20.6	4 11.8	5 14.7	7 20.6	4 11.8	13 38.2	1 2.9	1 2.9		
	知的障害	83 100.0	8 9.6	8 9.6	10 12.0	8 9.6	6 7.2	4 4.8	18 21.7	8 9.6	18 21.7	13 15.7	10 12.0	29 34.9	6 7.2	3 3.6		

(2) 相談支援体制の充実

～ 相談窓口の一層の周知、様々な通信手段を活用した相談、窓口のワンストップ化、職員の専門性向上

- 困ったときの相談先としては、18 歳以上、18 歳未満ともに「家族や親族」は 6 ～ 7 割、「医療関係者（医師・看護師・ソーシャルワーカー）」は 3 割前後と多くなっているのに対し、「市の障害福祉課」「相談支援事業所」はいずれも 1 ～ 2 割と少なくなっています。
- 相談場所についても、18 歳以上では 13 か所の相談場所のうち 10 か所で、『知っている（「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」の合計）』という回答が 2 割以下に留まっています。相談窓口の一層の周知が必要とされています。
- 気軽に相談するために必要なことについて見ると、18 歳以上、18 歳未満ともに「電話・FAX・電子メールで相談できる」「どんな内容でも 1 つの窓口で相談できる」が 3 割前後と多くなっており、様々な通信手段を活用した相談や、ワンストップ化された窓口の整備などが求められていることがわかります。
- 18 歳未満では、「専門性の高い内容でも対応できる」も多くなっており、相談を受ける職員の専門性向上も期待されています。

問 16 気軽に相談するために必要なこと

		全体	電話・FAX・電子メールで相談できる	身近な地域で相談できる	相談員が自宅を訪問して相談できる	休日や夜間に相談できる	専門性の高い内容でも対応できる	どんな内容でも 1 つの窓口で相談できる	相談員から定期的に困り事がないか連絡をもらえる	障害のある人やその家族など同じ立場の人に相談できる	プライバシーが守られる環境になっている	相談窓口に関する情報提供体制が充実している	特にない	その他	無回答
18 歳以上	全体	896 100.0	302 33.7	128 14.3	125 14.0	102 11.4	109 12.2	234 26.1	104 11.6	46 5.1	174 19.4	127 14.2	131 14.6	17 1.9	99 11.0
	身体障害	564 100.0	185 32.8	70 12.4	84 14.9	59 10.5	54 9.6	152 27.0	54 9.6	27 4.8	86 15.2	61 10.8	94 16.7	8 1.4	69 12.2
	知的障害	120 100.0	33 27.5	26 21.7	13 10.8	14 11.7	19 15.8	44 36.7	23 19.2	11 9.2	17 14.2	25 20.8	15 12.5	2 1.7	8 6.7
	精神障害	221 100.0	88 39.8	39 17.6	28 12.7	32 14.5	42 19.0	45 20.4	32 14.5	13 5.9	76 34.4	48 21.7	18 8.1	7 3.2	18 8.1
18 歳未満	全体	103 100.0	27 26.2	11 10.7	20 19.4	16 15.5	23 22.3	25 24.3	19 18.4	20 19.4	14 13.6	19 18.4	6 5.8	2 1.9	15 14.6
	身体障害	34 100.0	12 35.3	2 5.9	6 17.6	4 11.8	8 23.5	8 23.5	7 20.6	7 20.6	5 14.7	5 14.7	1 2.9	1 2.9	6 17.6
	知的障害	83 100.0	20 24.1	10 12.0	17 20.5	15 18.1	18 21.7	23 27.7	15 18.1	15 18.1	8 9.6	15 18.1	5 6.0	1 1.2	12 14.5

(3) 就労支援の充実

～ 工賃向上など収入面の改善、総合的な相談支援、障害特性にあった職種の拡大

- 「就労している」という回答を見ると、知的障害では「福祉的就労をしている（就労移行支援・就労継続支援事業所等）」が3割弱、「正規の職員・従業員として働いている」「パート・アルバイト等で働いている」が約2割、精神障害では「福祉的就労をしている（就労移行支援・就労継続支援事業所等）」2割弱と多くなっています。身体障害ではいずれの回答も少なくなっています。
- 仕事をする上で困っていることについて見ると、「収入が少ない」が5割弱と特に多くなっています。工賃向上など収入面の改善に向けた取組が求められています。
- 働くために必要な支援について見ると、18歳以上、18歳未満ともに「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が多く、特に18歳未満ではいずれも約5割にのぼっています。就労に向けた一貫性のある相談支援の充実とともに、障害特性にあった職種の拡大に向けた企業等への働きかけが必要とされています。

問 21 働くために必要な支援

		全体	仕事探しから就労までの総合的な相談支援	働くための知識・能力を身につけるための職業・訓練	職場を理解するための就労体験	求人情報の提供等の仕事を見つけるための支援	障害の特性にあった職業・雇用の拡大	短時間勤務や在宅勤務等の柔軟な勤務体制	通勤経路のバリアフリー化	障害理解を促進するための職場への働きかけ	通勤・通学経路や勤務中の介助に対する支援	ジョブコーチなど職場に定着するための支援	職場環境のバリアフリー化	生活リズムや体調管理等の日常生活に関する支援	特にない	その他	無回答
18歳以上	全体	896 100.0	318 35.5	147 16.4	63 7.0	115 12.8	245 27.3	150 16.7	34 3.8	133 14.8	25 2.8	68 7.6	39 4.4	96 10.7	143 16.0	34 3.8	147 16.4
	身体障害	564 100.0	188 33.3	91 16.1	34 6.0	72 12.8	138 24.5	62 11.0	27 4.8	70 12.4	14 2.5	26 4.6	33 5.9	55 9.8	102 18.1	19 3.4	108 19.1
	知的障害	120 100.0	60 50.0	14 11.7	12 10.0	17 14.2	37 30.8	20 16.7	3 2.5	18 15.0	8 6.7	14 11.7	4 3.3	15 12.5	16 13.3	3 2.5	17 14.2
	精神障害	221 100.0	81 36.7	45 20.4	18 8.1	30 13.6	81 36.7	76 34.4	6 2.7	51 23.1	4 1.8	28 12.7	5 2.3	32 14.5	24 10.9	12 5.4	15 6.8
18歳未満	全体	103 100.0	58 56.3	28 27.2	21 20.4	13 12.6	52 50.5	14 13.6	2 1.9	24 23.3	9 8.7	16 15.5	1 1.0	4 3.9	2 1.9	2 1.9	12 11.7
	身体障害	34 100.0	18 52.9	4 11.8	4 11.8	7 20.6	16 47.1	7 20.6	2 5.9	8 23.5	4 11.8	5 14.7	-	1 2.9	1 2.9	1 2.9	5 14.7
	知的障害	83 100.0	46 55.4	23 27.7	18 21.7	8 9.6	44 53.0	9 10.8	1 1.2	19 22.9	8 9.6	15 18.1	1 1.2	4 4.8	2 2.4	1 1.2	9 10.8

(4) 保護者への支援及び療育・教育体制の充実

～ 子どもの成長や発達、進路や将来についての不安に配慮した情報提供や相談支援

●通園や通学、学校生活等で困っていることについて見ると、「今後の進路や将来について不安」が約8割と特に多くなっています。

●子育てで困っていることについて見ると、「子どもの成長や発達に不安がある」が6割弱と多く、次いで「子どもの進路や将来について相談できる場所がわからない」が5割弱となっています。

●子供の成長や発達、進路や将来についての保護者の不安を解消できるように、一人ひとりに配慮した情報提供や相談支援などを充実していく必要があります。

問 30 子育てで困っていること

		全体	子どもの成長や発達に不安がある	子どもへの接し方が分からない	家族や親戚の理解が得られない	近隣住民等の周囲の理解が得られない	子育てに関する悩みや不安を気軽に相談できる場所がわからない	子どもの進路や将来について相談できる場所がわからない	障害のある子どもを育てる保護者と交流する機会がない	預けられる場所がない 緊急時に子どもを預けられない	特になし	その他	無回答
18歳未満	全体	103 100.0	58 56.3	12 11.7	6 5.8	11 10.7	26 25.2	47 45.6	37 35.9	42 40.8	12 11.7	8 7.8	3 2.9
	身体障害	34 100.0	16 47.1	5 14.7	1 2.9	3 8.8	8 23.5	14 41.2	10 29.4	13 38.2	7 20.6	2 5.9	2 5.9
	知的障害	83 100.0	52 62.7	12 14.5	5 6.0	11 13.3	23 27.7	39 47.0	30 36.1	39 47.0	5 6.0	7 8.4	2 2.4

(5) 外出支援の充実

～ 建物・道路等のバリアフリー化、休憩場所の確保などの配慮、心のバリアフリーの推進

- 外出の頻度について見ると、18歳以上では「ほぼ毎日」が約3割と最も多くなっていますが、「あまり外出しない」も1割あまりとなっており、割合は少ないものの、何らかの支障があってあまり外出できていない人にも配慮する必要があると考えられます。18歳未満では「ほぼ毎日」が約6割と多くなっています。
- 外出する際困っていることについて見ると、18歳以上では「疲れたときの休憩場所がない」が約3割と最も多く、次いで「歩道の段差や建物の階段が困る」「歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる」が2割あまりと多くなっています。建物・道路等のバリアフリー化を一層推進するとともに、休憩場所の確保などの細やかな配慮も必要だと考えられます。
- 18歳未満では「困った時にどうすればよいかわからない」が5割弱と最も多く、次いで「歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる」「障害に対する理解が不足している」が3割弱となっており、建物・道路等のバリアフリー化とともに、心のバリアフリーの推進も必要とされていることを示しています。
- 障害者や障害児とその保護者が外出先で困ったときに援助を受けられるように、ヘルプカード・ヘルプマークの周知等も含めた障害理解の促進に一層力を入れていくことが必要です。

問 36 外出する際困っていること

		全体	歩道の段差や建物の 階段が困る	歩道が狭く自動車・ 自転車に危険を感じる	公共交通機関が少ない	電車やバスの乗り降りや 駅構内の移動が大変	切符や飲料等の販売機が 利用しにくい	トイレ等の設備が不便	標識・表示が わかりにくい	休憩場所がない	疲れたときの	障害に対する理解が 不足している	お金がかかる	介助者が確保できない	困った時にどうすれば よいかわからない	特 に ない	そ の 他	無 回 答
18歳以上	全体	896 100.0	213 23.8	204 22.8	79 8.8	111 12.4	24 2.7	98 10.9	45 5.0	285 31.8	137 15.3	164 18.3	55 6.1	152 17.0	247 27.6	53 5.9	58 6.5	
	身体障害	564 100.0	187 33.2	149 26.4	55 9.8	87 15.4	21 3.7	76 13.5	30 5.3	200 35.5	67 11.9	62 11.0	40 7.1	66 11.7	136 24.1	38 6.7	42 7.4	
	知的障害	120 100.0	11 9.2	15 12.5	4 3.3	7 5.8	- -	9 7.5	6 5.0	21 17.5	28 23.3	26 21.7	10 8.3	35 29.2	45 37.5	2 1.7	8 6.7	
	精神障害	221 100.0	20 9.0	44 19.9	21 9.5	21 9.5	4 1.8	16 7.2	12 5.4	71 32.1	49 22.2	81 36.7	4 1.8	56 25.3	69 31.2	12 5.4	4 1.8	
18歳未満	全体	103 100.0	11 10.7	28 27.2	2 1.9	16 15.5	5 4.9	11 10.7	7 6.8	22 21.4	28 27.2	17 16.5	17 16.5	48 46.6	27 26.2	4 3.9	1 1.0	
	身体障害	34 100.0	10 29.4	15 44.1	1 2.9	9 26.5	1 2.9	10 29.4	3 8.8	10 29.4	14 41.2	7 20.6	7 20.6	14 41.2	5 14.7	3 8.8	- -	
	知的障害	83 100.0	8 9.6	23 27.7	2 2.4	11 13.3	3 3.6	10 12.0	5 6.0	18 21.7	22 26.5	15 18.1	15 18.1	42 50.6	18 21.7	4 4.8	1 1.2	

(6) 権利擁護の推進

～ 成年後見制度の周知促進、必要な人が安心して利用できるように配慮した利用支援

- 成年後見制度の認知状況について見ると、「名前も内容も知っている」という回答は、18歳以上、18歳未満ともに約3割となっており、制度の周知がまだ十分ではないと考えられます。
- 成年後見制度の利用意向について見ると、「すでに利用している」「必要だが、利用できていない」という回答は少数にとどまっていますが、「今は必要ないが、今後必要になったら利用したい」という回答は、18歳以上では4割弱、18歳未満では約5割となっており、将来の利用を希望する方が多いことがわかります。
- 成年後見制度の利用は少数にとどまっている一方、潜在的な需要は大きいと考えられるため、制度内容の周知をさらに進めるとともに、必要な人が安心して利用できるように配慮した利用支援を行う必要があります。

問 40 成年後見制度の利用意向

		全体	すでに利用している	利用が必要だが、利用できていない	今は必要ないが、今後必要になったら利用したい	利用したいとは思わない	わからない	無回答
18歳以上	全体	896 100.0	11 1.2	13 1.5	325 36.3	169 18.9	271 30.2	107 11.9
	身体障害	564 100.0	5 0.9	7 1.2	185 32.8	119 21.1	163 28.9	85 15.1
	知的障害	120 100.0	1 0.8	3 2.5	62 51.7	8 6.7	38 31.7	8 6.7
	精神障害	221 100.0	5 2.3	3 1.4	89 40.3	42 19.0	75 33.9	7 3.2
18歳未満	全体	103 100.0	— —	3 2.9	54 52.4	4 3.9	41 39.8	1 1.0
	身体障害	34 100.0	— —	1 2.9	16 47.1	2 5.9	15 44.1	— —
	知的障害	83 100.0	— —	3 3.6	49 59.0	2 2.4	28 33.7	1 1.2

(7) 障害理解の促進 ～ 就労面・教育面など様々な分野での配慮

- 差別を受けたことがあるという回答は、18 歳以上では4 割弱、18 歳未満では約 6 割に達しており、障害理解はある程度進んできたとはいえ、なお理解不足による差別事例が少なくないことが明らかになっています。
- 障害理解を進めるために力を入れるべきことについて見ると、「障害のある人の一般企業等への就労を促進する」が 18 歳以上では約 3 割、18 歳未満では5 割弱といずれも最も多くなっており、様々な取組の中でも就労面での配慮が特に重視されていることが伺えます。
- 18 歳未満では、次いで「学校や生涯学習で障害に関する授業や講座を行う」が約 4 割と多くなっており、就労面に加えて教育面での配慮が重視されていることが伺えます。

問 43 障害理解を進めるために力を入れるべきこと

		全体	障害の内容や障害のある人の生活を伝えるパンフレットを発行する	障害に関する講演会や疑似体験会を開催する	障害のある人が作成した作品展やイベントを開催する	インクルーシブ教育を推進する	学校や生涯学習で障害に関する授業や講座を行う	地域での交流の機会を増やす	障害のある人の一般企業等への就労を促進する	特にない	その他	無回答
18 歳以上	全体	896 100.0	221 24.7	113 12.6	80 8.9	140 15.6	169 18.9	136 15.2	261 29.1	204 22.8	23 2.6	134 15.0
	身体障害	564 100.0	135 23.9	64 11.3	46 8.2	81 14.4	97 17.2	79 14.0	132 23.4	138 24.5	13 2.3	98 17.4
	知的障害	120 100.0	32 26.7	21 17.5	12 10.0	26 21.7	17 14.2	27 22.5	39 32.5	25 20.8	2 1.7	15 12.5
	精神障害	221 100.0	63 28.5	35 15.8	21 9.5	36 16.3	61 27.6	34 15.4	100 45.2	42 19.0	9 4.1	13 5.9
18 歳未満	全体	103 100.0	19 18.4	8 7.8	2 1.9	28 27.2	40 38.8	24 23.3	47 45.6	11 10.7	5 4.9	11 10.7
	身体障害	34 100.0	4 11.8	4 11.8	— —	9 26.5	14 41.2	9 26.5	14 41.2	3 8.8	1 2.9	5 14.7
	知的障害	83 100.0	14 16.9	6 7.2	2 2.4	24 28.9	32 38.6	21 25.3	34 41.0	10 12.0	2 2.4	10 12.0

(8) 災害時に必要な支援の充実

～ 薬や医療、日常生活用具等の確保、一人での避難支援、障害に対応した避難場所

- 災害時に困ることや不安なことについて見ると、18 歳以上では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が4割あまりと最も多くなっており、特に服薬や医療的ケアを必要としている方の不安が大きいことが伺えます。
- 18 歳未満では「一人では避難できない」が6割あまりと最も多くなっており、家族と一緒にいないときの避難についても配慮が必要です。
- 災害時に必要な支援について見ると、18 歳以上では「薬や日常生活用具等の備蓄」が4割弱と最も多く、薬や生活に必要な用具の確保が必要とされています。
- 18 歳未満では「障害に対応した避難場所」が5割あまりと特に多く、避難所での障害に対する配慮や支援とともに、福祉避難所の確保・充実が必要とされています。

問 47 災害時に必要な支援

		全体	避難するときの介助・支援	障害に対応した避難場所	薬や日常生活用具等の備蓄	医療的ケアの確保	障害情報に対応した災害情報の提供	コミュニケーション手段の確保	特にない	その他	無回答
18歳以上	全体	896 100.0	244 27.2	245 27.3	333 37.2	215 24.0	135 15.1	99 11.0	146 16.3	7 0.8	114 12.7
	身体障害	564 100.0	186 33.0	163 28.9	179 31.7	132 23.4	86 15.2	57 10.1	84 14.9	2 0.4	85 15.1
	知的障害	120 100.0	41 34.2	45 37.5	33 27.5	19 15.8	26 21.7	24 20.0	22 18.3	-	12 10.0
	精神障害	221 100.0	23 10.4	52 23.5	126 57.0	71 32.1	31 14.0	21 9.5	39 17.6	5 2.3	12 5.4
18歳未満	全体	103 100.0	41 39.8	55 53.4	24 23.3	12 11.7	31 30.1	24 23.3	15 14.6	-	4 3.9
	身体障害	34 100.0	17 50.0	18 52.9	15 44.1	10 29.4	13 38.2	3 8.8	2 5.9	-	1 2.9
	知的障害	83 100.0	32 38.6	49 59.0	15 18.1	8 9.6	24 28.9	23 27.7	11 13.3	-	4 4.8

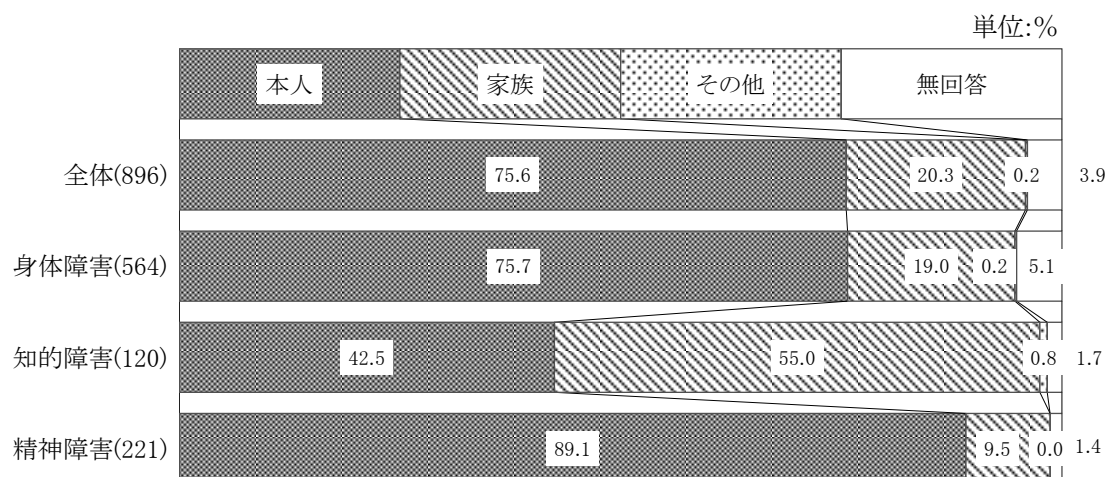
第 2 章

18 歳以上の方を対象にした調査

1. 調査票の回答者

問1 この調査票を回答していただく方は誰ですか。(○は1つ)

全体では、「本人」が75.6%、「家族」が20.3%となっています。
障害別に見ると、知的障害では「家族」が多くなっています。

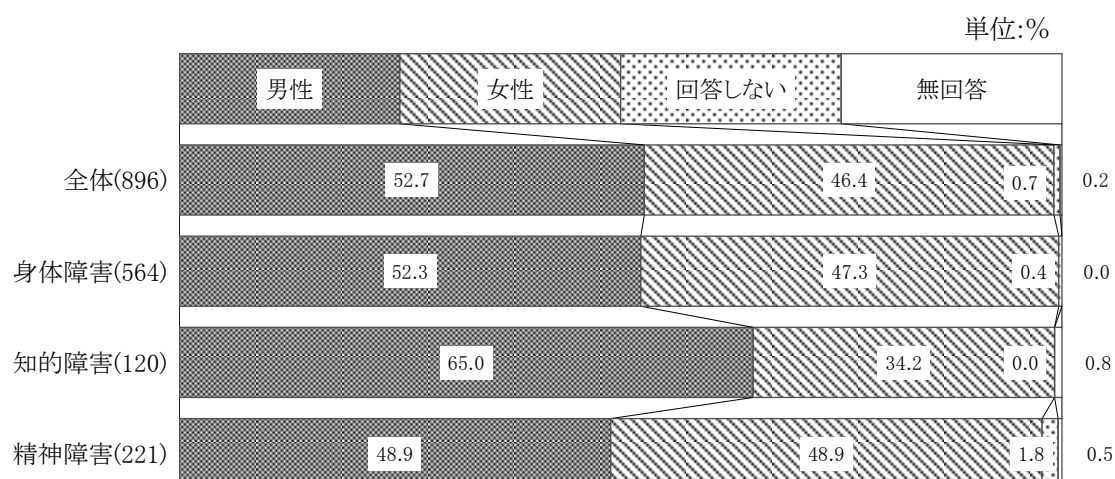


2. ご本人について

(1) 性別

問2 あなたの性別をお聞きします。(○は1つ)

全体では、「男性」が52.7%、「女性」が46.4%となっています。
障害別に見ると、知的障害では「男性」が他の障害と比較して多くなっています。

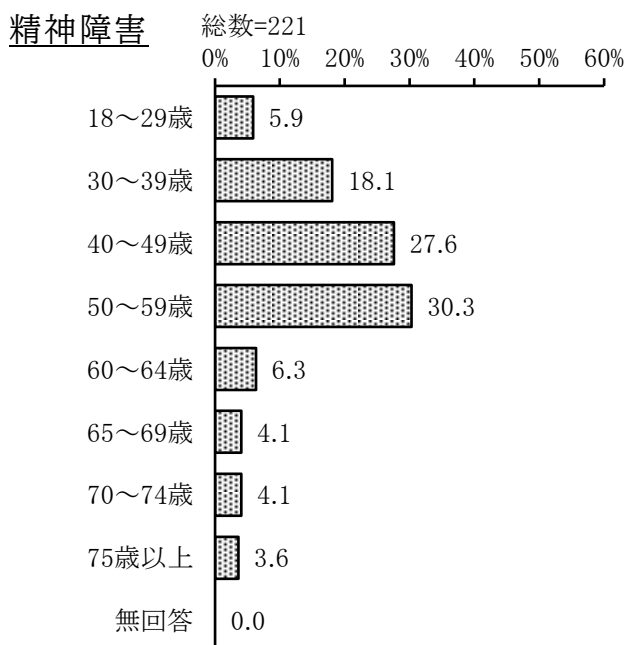
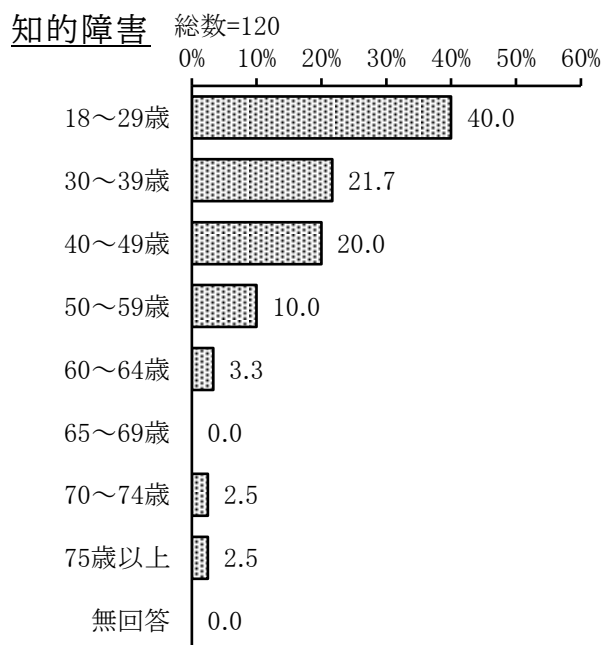
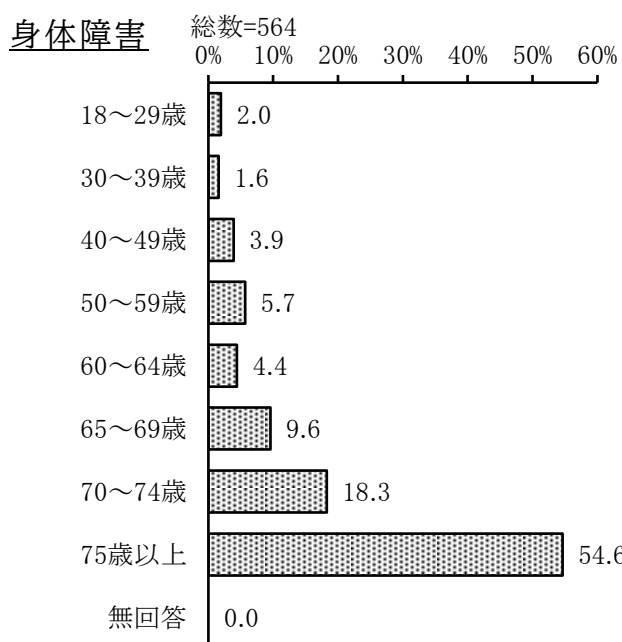
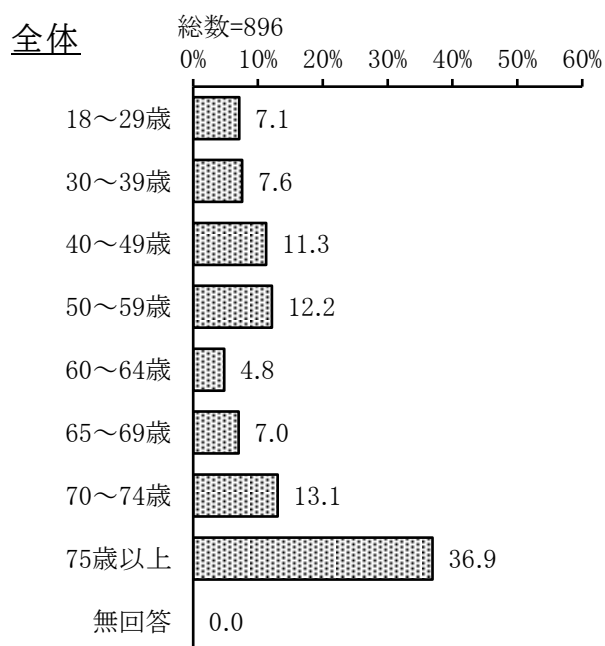


(2) 年齢

問3 あなたの年齢をお聞きます。令和4年10月1日現在の年齢をお書きください。

全体では、「75歳以上」が36.9%と最も多く、次いで「70～74歳」が13.1%、「50～59歳」が12.2%、「40～49歳」が11.3%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「18～29歳」が、精神障害では「50～59歳」が最も多くなっています。



疾患・障害の有無別に見ると、難病や慢性疾患、高次脳機能障害では「75歳以上」が、統合失調症や気分障害では「40～49歳」「50～59歳」が、知的障害や発達障害では「18～29歳」が多くなっています。

●年齢【疾患・障害の有無別】

		全体	1 8 2 9 歳	3 0 3 9 歳	4 0 4 9 歳	5 0 5 9 歳	6 0 6 4 歳	6 5 6 9 歳	7 0 7 4 歳	7 5 歳 以上	無 回 答
全体		896 100.0	64 7.1	68 7.6	101 11.3	109 12.2	43 4.8	63 7.0	117 13.1	331 36.9	— —
疾患・ 障害の 有無	難病	65 100.0	— —	4 6.2	8 12.3	7 10.8	3 4.6	9 13.8	14 21.5	20 30.8	— —
	慢性疾患（糖尿病・ 心臓疾患・脳血管疾患等）	193 100.0	3 1.6	1 0.5	6 3.1	10 5.2	7 3.6	20 10.4	34 17.6	112 58.0	— —
	統合失調症	91 100.0	3 3.3	13 14.3	25 27.5	31 34.1	6 6.6	3 3.3	7 7.7	3 3.3	— —
	気分障害 （うつ病・躁うつ病）	110 100.0	4 3.6	23 20.9	31 28.2	31 28.2	7 6.4	5 4.5	4 3.6	5 4.5	— —
	神経症	23 100.0	1 4.3	2 8.7	6 26.1	3 13.0	1 4.3	1 4.3	3 13.0	6 26.1	— —
	依存症（アルコール・ 薬物等）	5 100.0	— —	1 20.0	1 20.0	1 20.0	— —	1 20.0	1 20.0	— —	— —
	知的障害	98 100.0	39 39.8	23 23.5	18 18.4	7 7.1	2 2.0	— —	4 4.1	5 5.1	— —
	発達障害	87 100.0	37 42.5	17 19.5	14 16.1	14 16.1	2 2.3	2 2.3	1 1.1	— —	— —
	高次脳機能障害	24 100.0	— —	1 4.2	3 12.5	3 12.5	1 4.2	2 8.3	4 16.7	10 41.7	— —
	その他	214 100.0	5 2.3	5 2.3	13 6.1	12 5.6	11 5.1	20 9.3	47 22.0	101 47.2	— —
	特にない	86 100.0	7 8.1	3 3.5	8 9.3	7 8.1	5 5.8	5 5.8	5 5.8	46 53.5	— —
	無回答	70 100.0	2 2.9	— —	2 2.9	6 8.6	4 5.7	3 4.3	9 12.9	44 62.9	— —

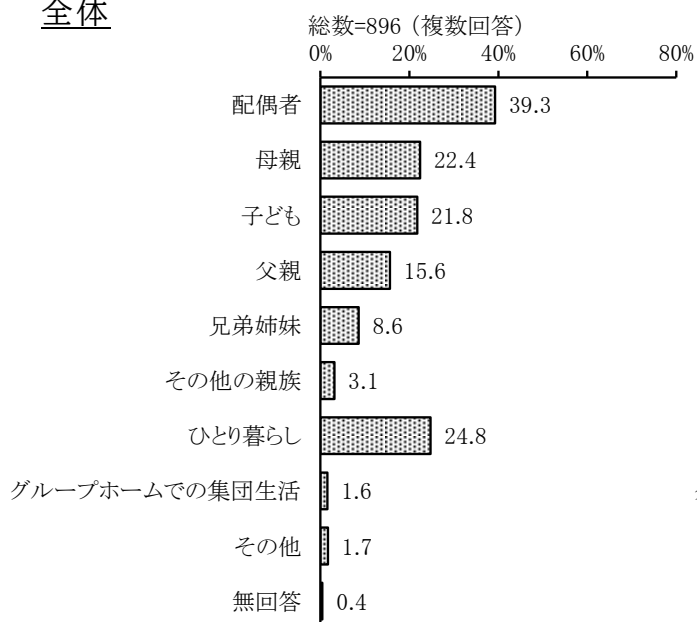
(3) 同居家族

問4 あなたと一緒に暮らしている方は誰ですか。(あてはまるもの全てに○)

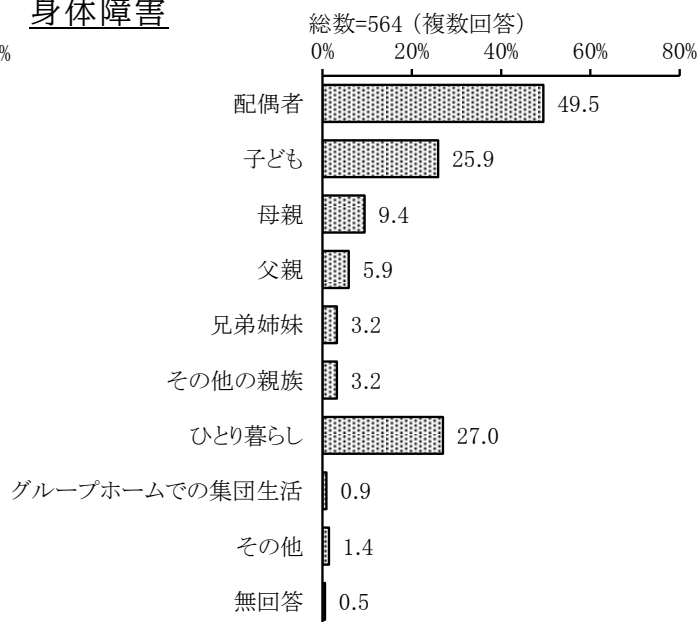
全体では、「配偶者」が39.2%と最も多く、次いで「ひとり暮らし」が24.8%、「母親」が22.4%、「子ども」が21.8%となっています。

障害別に見ると、知的障害や精神障害では「母親」が最も多くなっています。

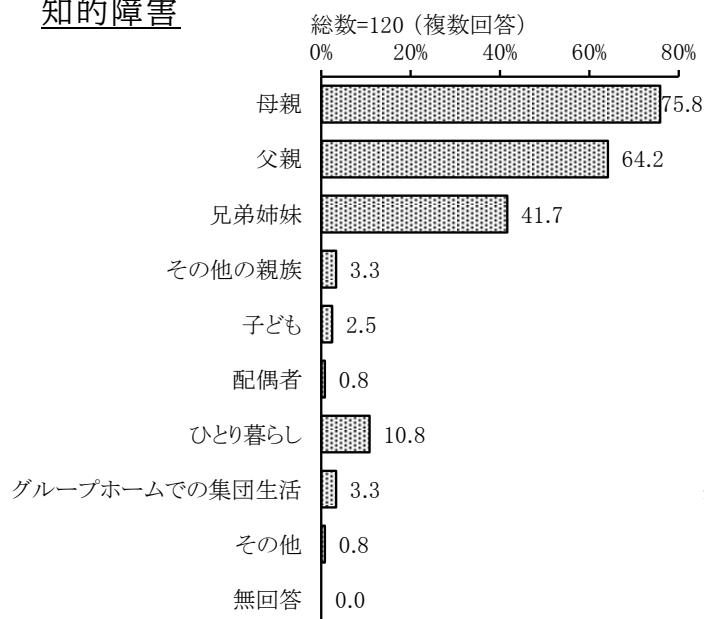
全体



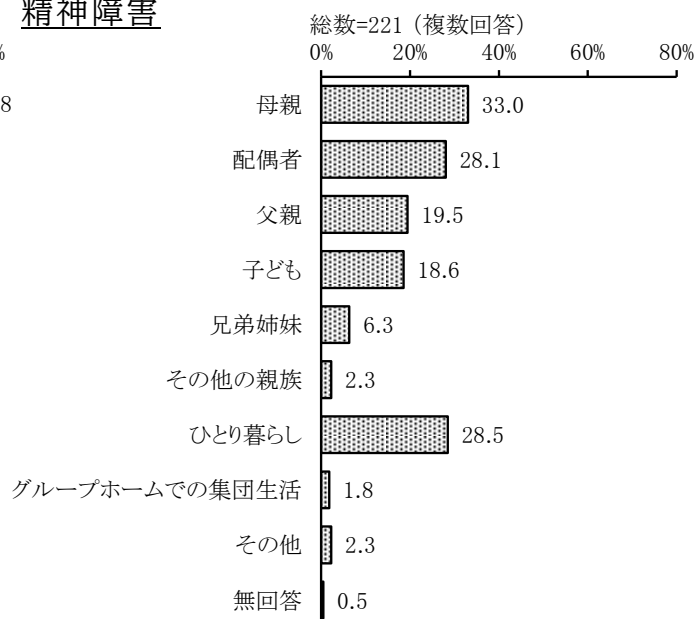
身体障害



知的障害



精神障害



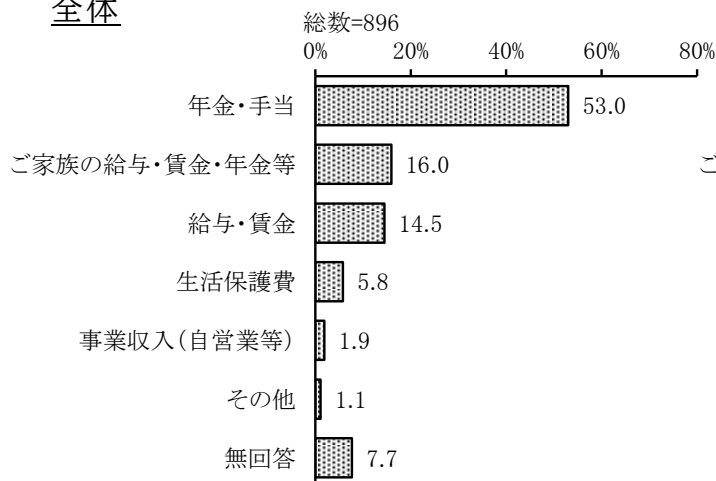
(4) 主な収入

問5 あなたの生活を支える主な収入は何ですか。(○は1つ)

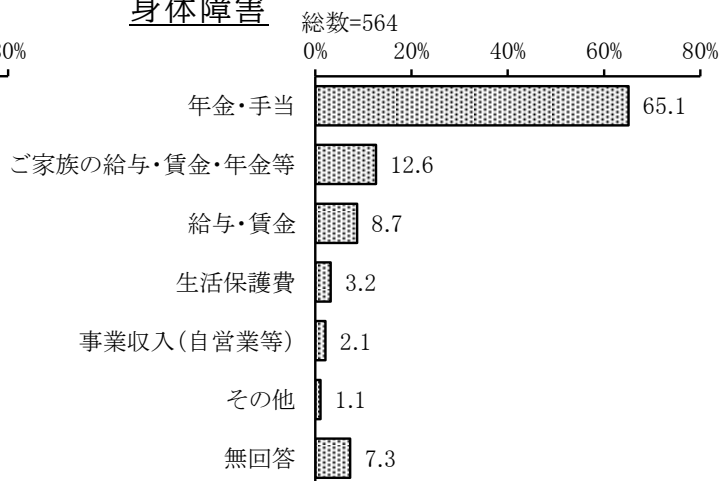
全体では、「年金・手当」が53.0%と最も多く、次いで「ご家族の給与・賃金・年金等」が16.0%、「給与・賃金」が14.5%、「生活保護費」が5.8%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「給与・賃金」が最も多くなっています。

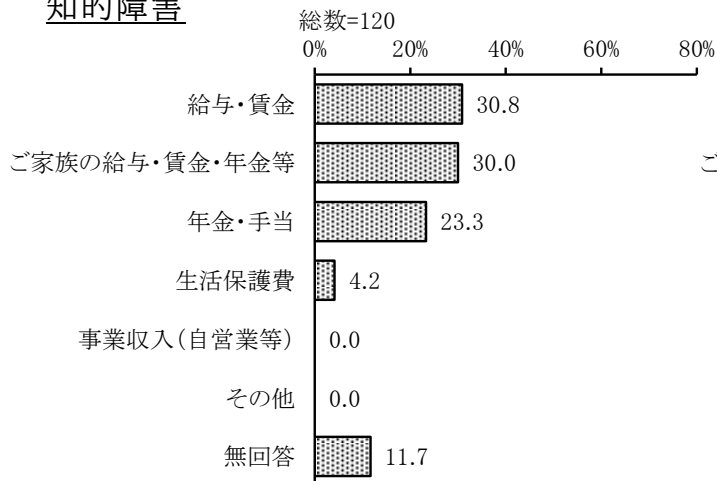
全体



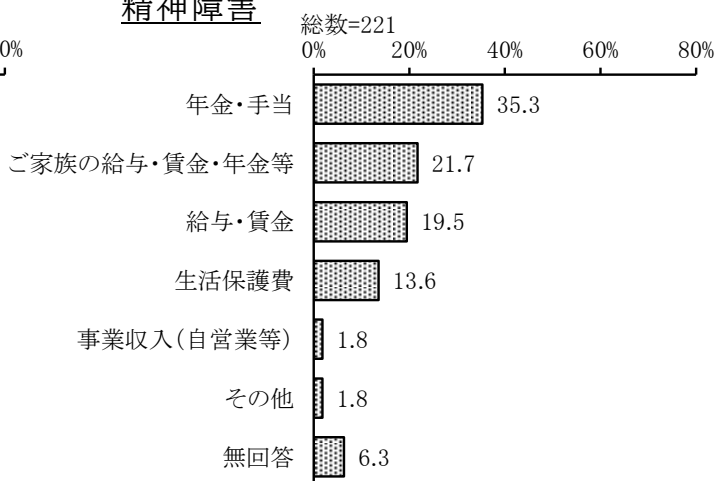
身体障害



知的障害



精神障害



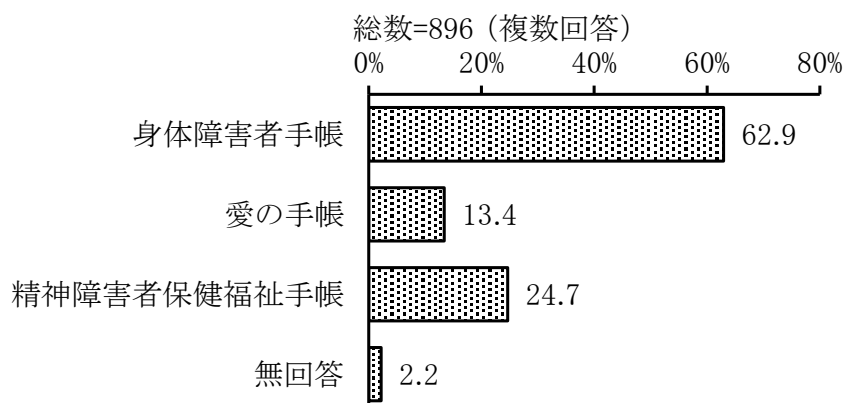
3. 障害の状況について

(1) 障害者手帳の種類

問6 あなたが持っている障害者手帳の種類をお聞きます。等級・程度にも○をつけてください。(あてはまるもの全てに○)

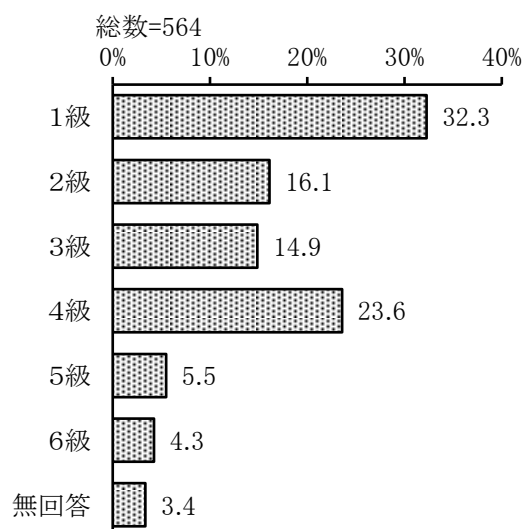
①障害者手帳の種類

「身体障害者手帳」が62.9%と最も多く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」が24.7%、「愛の手帳」が13.4%となっています。



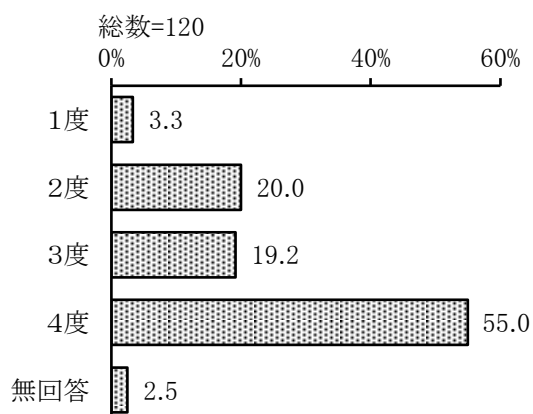
②身体障害者手帳の等級

「1級」が32.3%と最も多く、次いで「4級」が23.6%、「2級」が16.1%、「3級」が14.9%となっています。



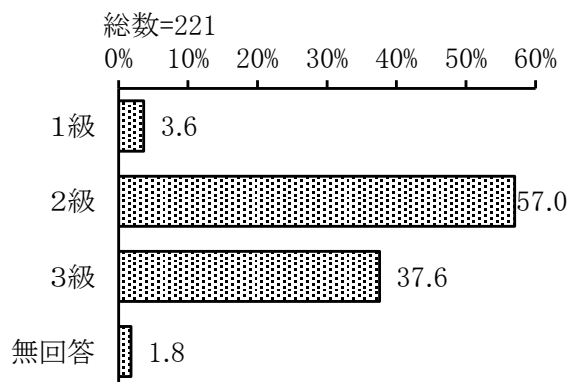
③愛の手帳の程度

「4度」が55.0%と最も多く、次いで「2度」が20.0%、「3度」が19.2%、「1度」が3.3%となっています。



④精神障害者保健福祉手帳の等級

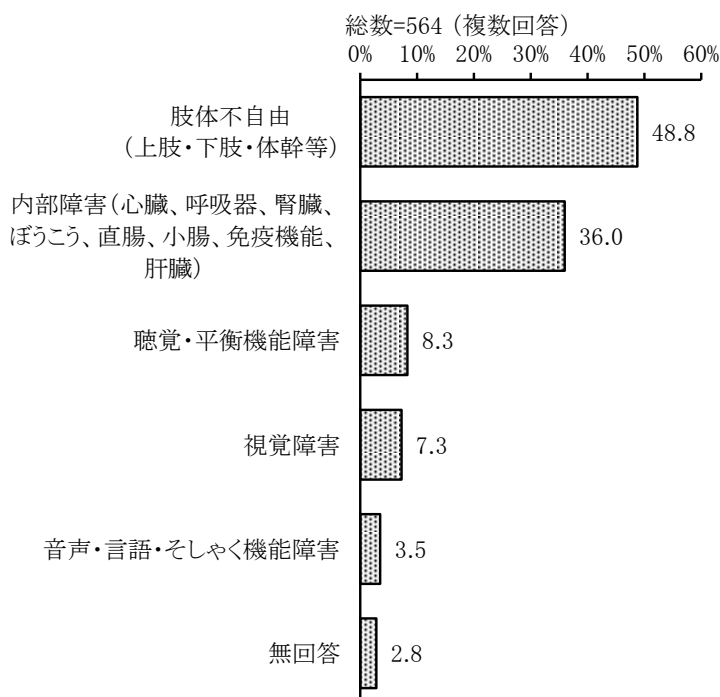
「2級」が57.0%と最も多く、次いで「3級」が37.6%、「1級」が3.6%となっています。



(2) 身体障害の種類

問7 問6で「身体障害者手帳」を所持していると回答された方にお聞きします。
障害の種類は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

「肢体不自由（上肢・下肢・体幹等）」が48.8%と最も多く、次いで「内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能、肝臓）」が36.0%、「聴覚・平衡機能障害」が8.3%、「視覚障害」が7.3%となっています。



年齢別に見ると、18～39 歳では「肢体不自由（上肢・下肢・体幹等）」が、65 歳以上では「内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能、肝臓）」が他の年代と比較して多くなっています。

●身体障害の種類【年齢別】

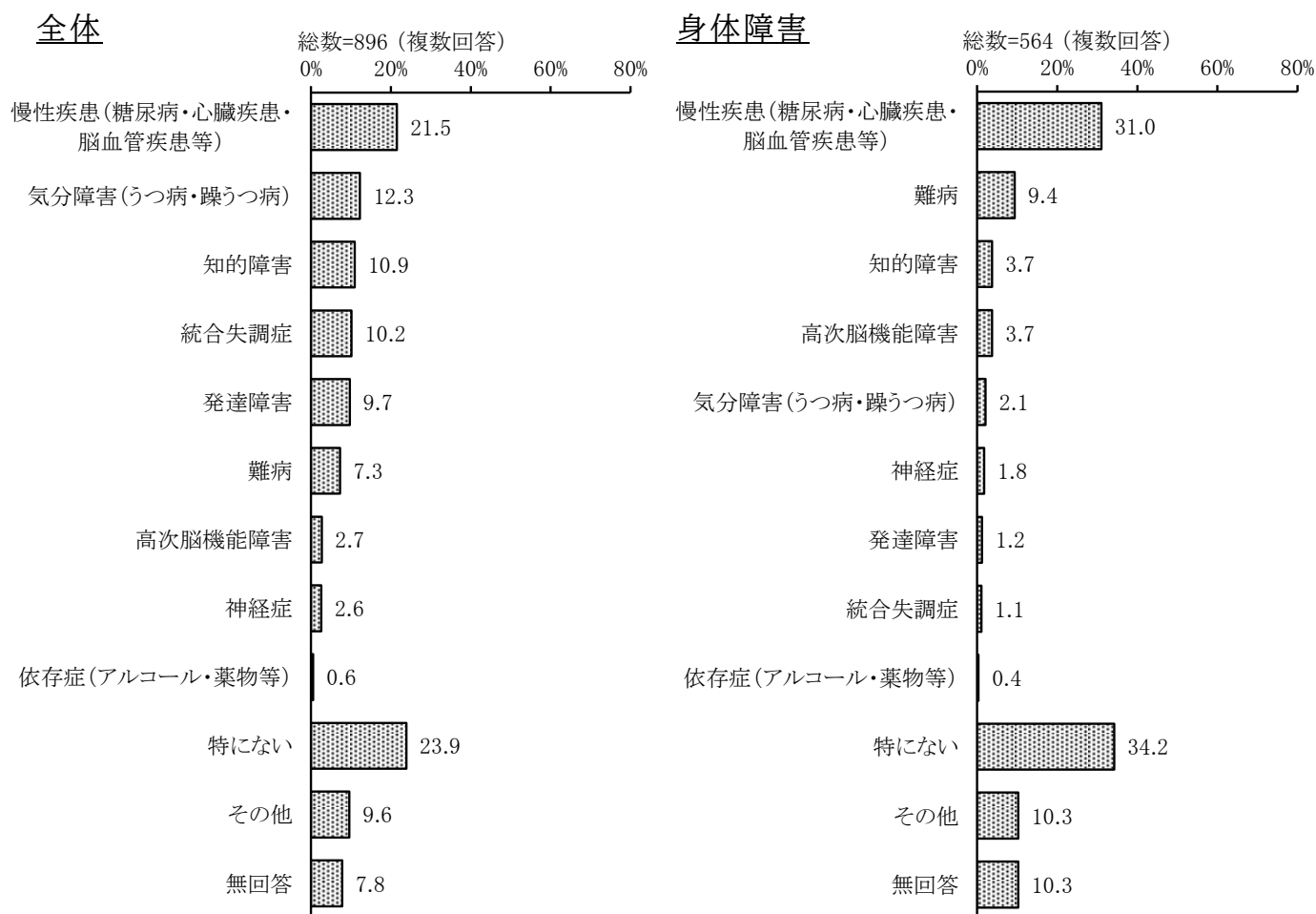
		全 体	視 覚 障 害	聴 覚 ・ 平 衡 機 能 障 害	そ し ゃ く 機 能 障 害 音 声 ・ 言 語 ・	（ 上 肢 ・ 下 肢 ・ 体 幹 等 ） 肢 体 不 自 由	内 部 障 害 （ 心 臓 、 呼 吸 器 、 腎 臓 、 ぼう こう 、 直 腸 、 小 腸 、 免 疫 機 能 、 肝 臓 ）	無 回 答
全体		564 100.0	41 7.3	47 8.3	20 3.5	275 48.8	203 36.0	16 2.8
年 齢 別	身体障害・18～39歳	20 100.0	1 5.0	2 10.0	- -	16 80.0	1 5.0	- -
	身体障害・40～64歳	79 100.0	9 11.4	9 11.4	4 5.1	46 58.2	15 19.0	5 6.3
	身体障害・65歳以上	465 100.0	31 6.7	36 7.7	16 3.4	213 45.8	187 40.2	11 2.4

(3) 疾患や障害の有無

問8 あなたは、次の疾患や障害がありますか。(あてはまるもの全てに○)

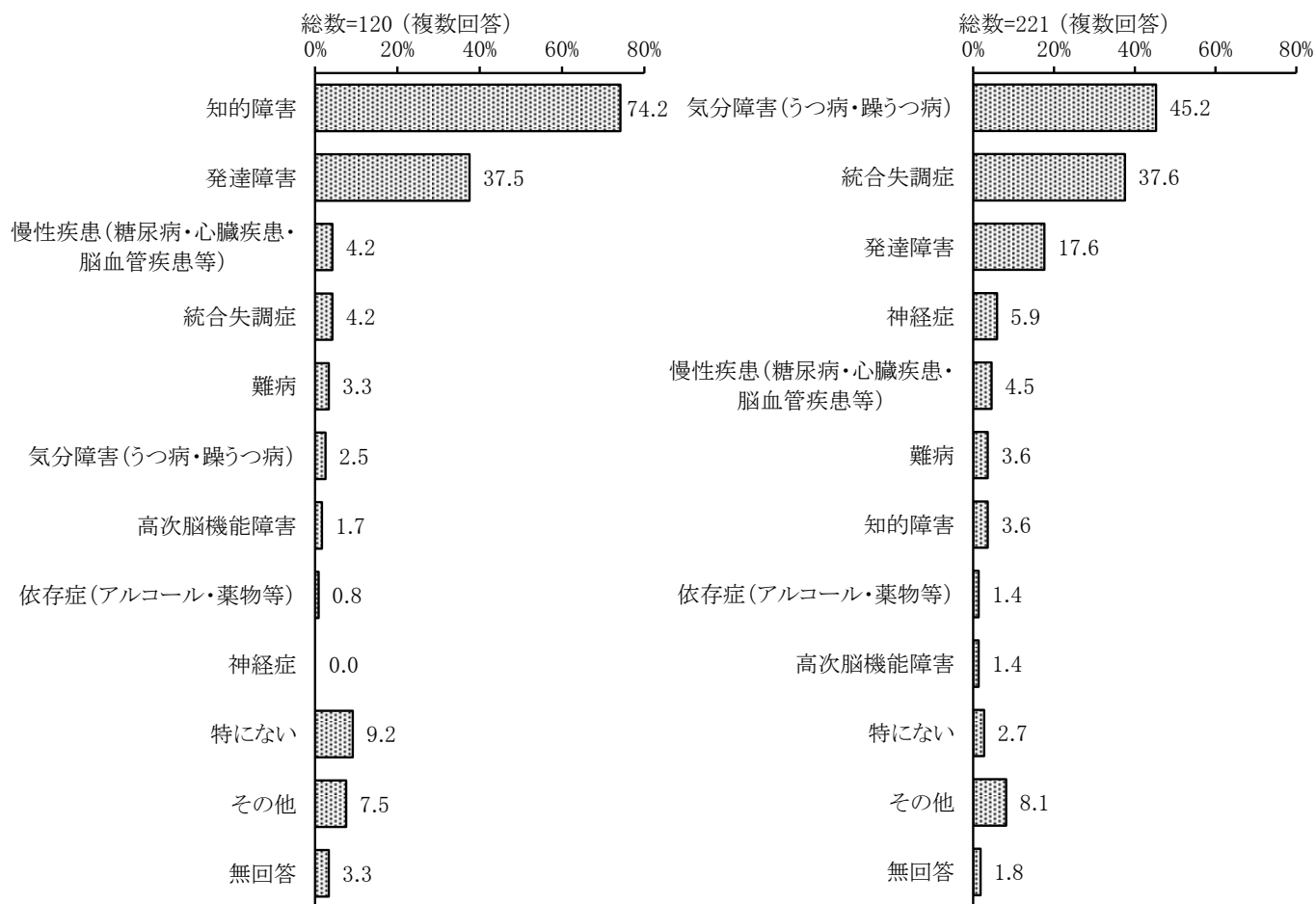
全体では、「慢性疾患（糖尿病・心臓疾患・脳血管疾患等）」が21.5%と最も多く、次いで「気分障害（うつ病・躁うつ病）」が12.3%、「知的障害」が10.9%、「統合失調症」が10.2%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「知的障害」「発達障害」が、精神障害では「気分障害（うつ病・躁うつ病）」「統合失調症」が多くなっています。



知的障害

精神障害



※発達障害とは、自閉症スペクトラム障害（自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害）、学習障害、注意欠陥多動性障害等を言います。

※高次脳機能障害とは、一般に外傷性脳損傷、脳血管障害等により脳に損傷を受け、その後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害等の認知障害等を言います。

4. 医療や介助の状況について

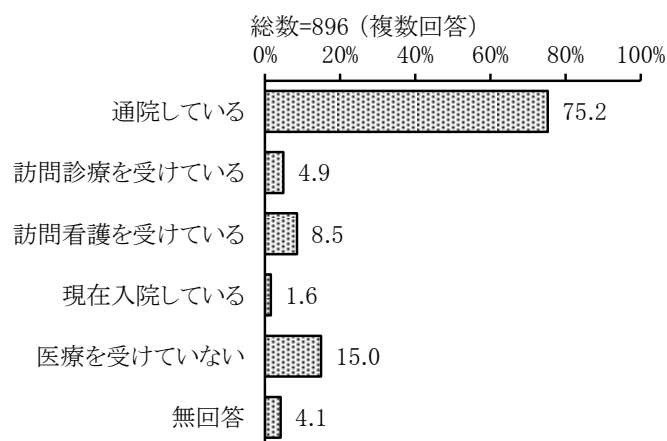
(1) 医療機関の受診状況

問9 現在、あなたはご自身の疾患や障害のために医療（リハビリを含む）を受けていますか。（あてはまるもの全てに○）

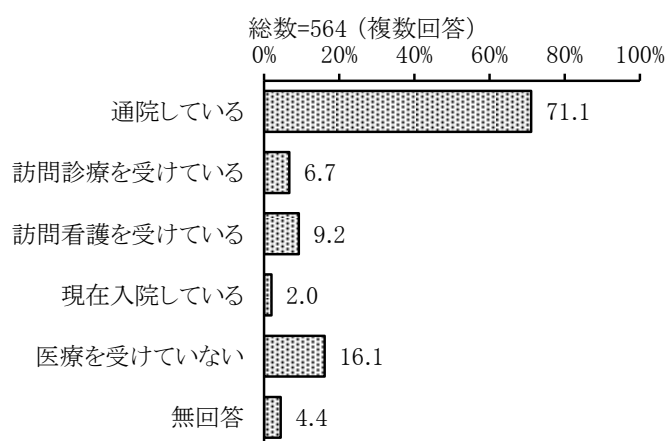
全体では、「通院している」が75.2%と最も多く、次いで「医療を受けていない」が15.0%、「訪問看護を受けている」が8.5%、「訪問診療を受けている」が4.9%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「医療を受けていない」が、精神障害では「通院している」が他の障害と比較して多くなっています。

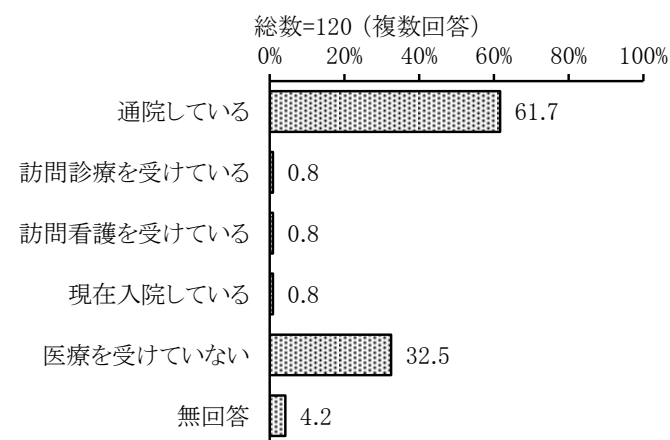
全体



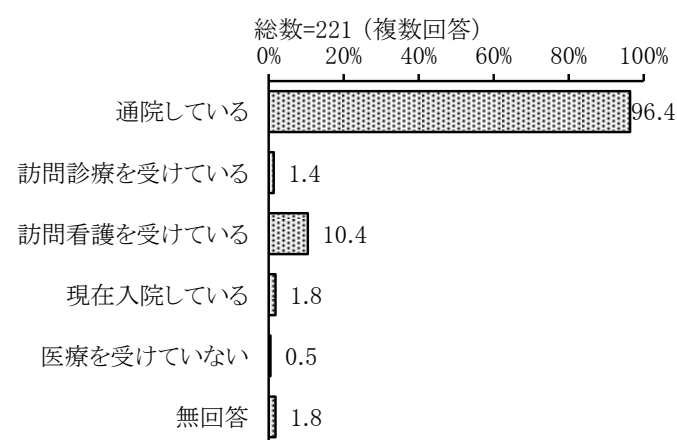
身体障害



知的障害



精神障害



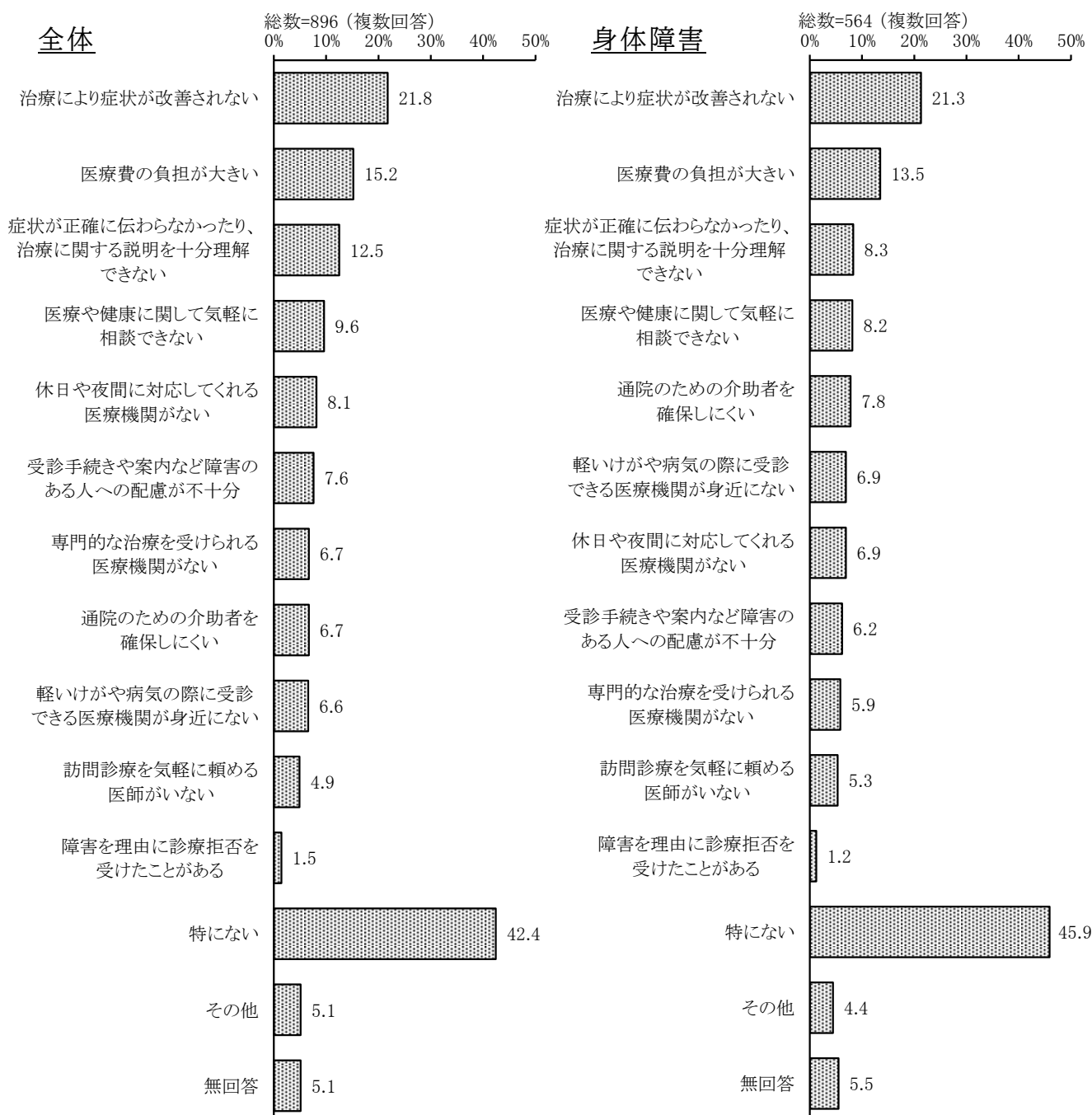
(2) 医療を受ける際に困ること

問 10 あなたが、医療を受ける際に困ることは何ですか。

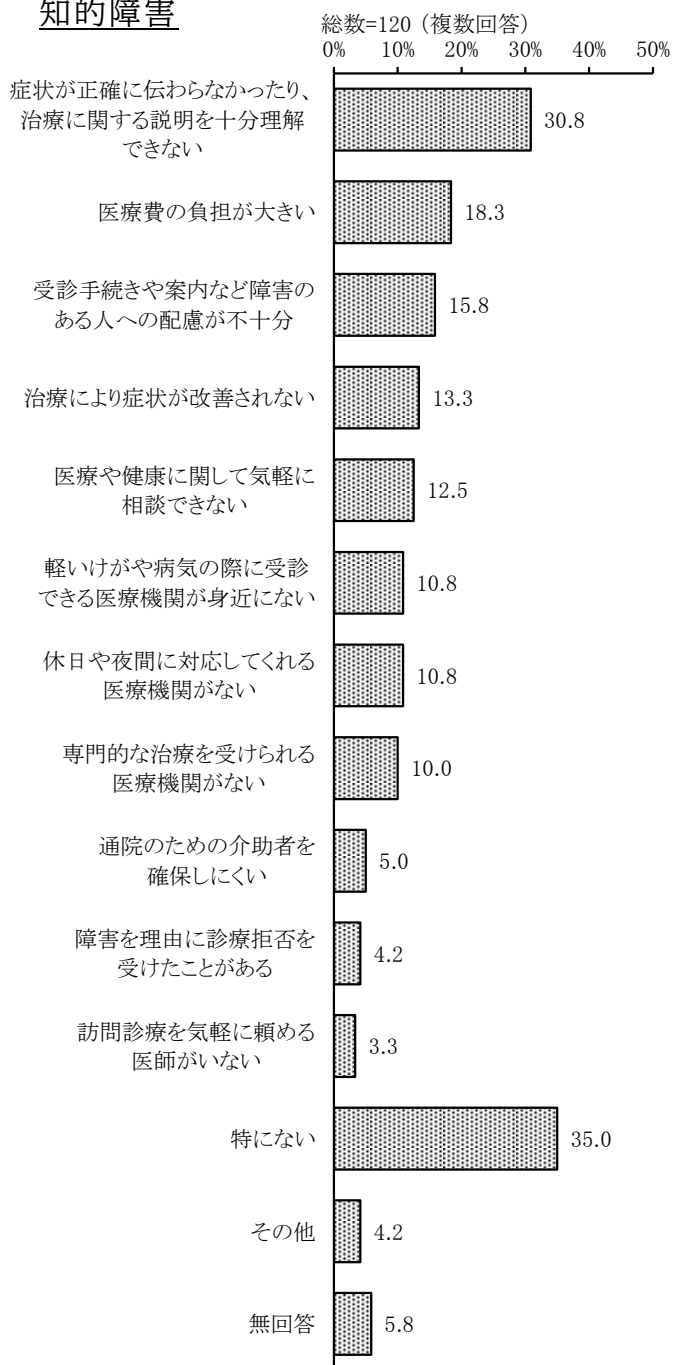
(あてはまるもの全てに○)

全体では、「治療により症状が改善されない」が 21.8%と最も多く、次いで「医療費の負担が大きい」が 15.2%、「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」が 12.5%、「医療や健康に関して気軽に相談できない」が 9.6%となっています。

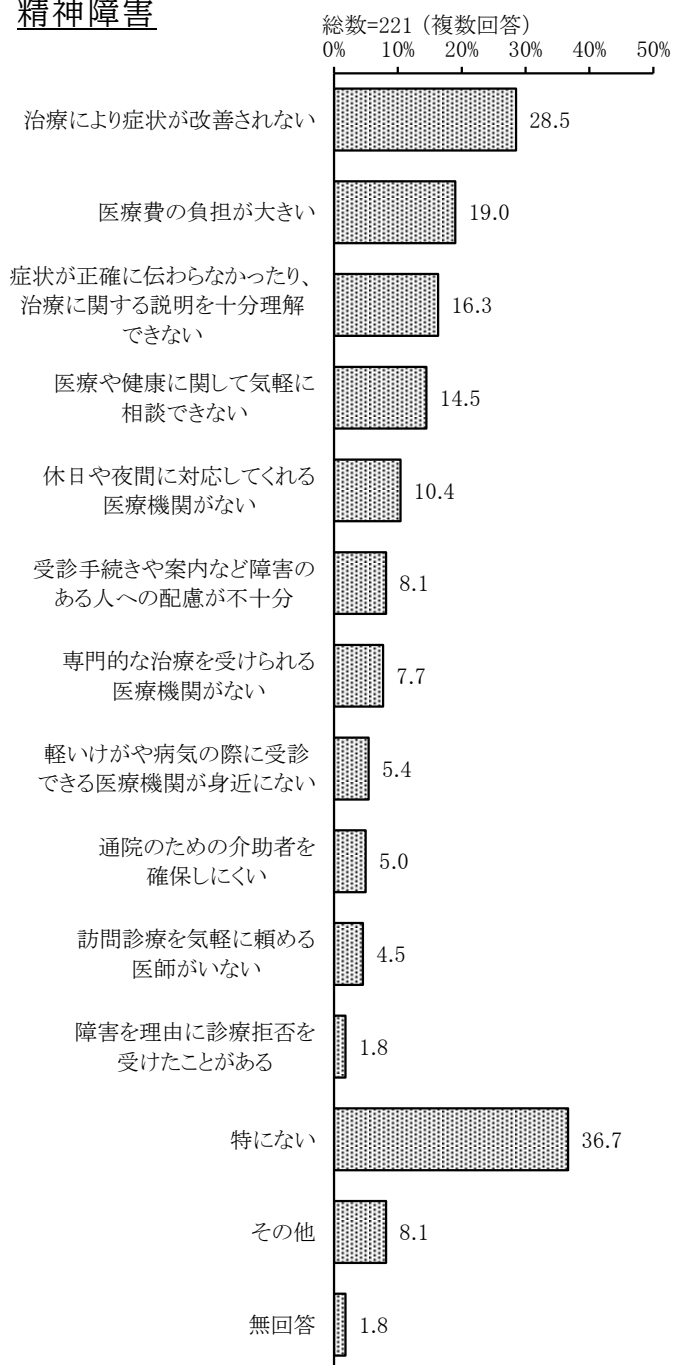
障害別に見ると、知的障害では「症状が正確に伝わらなかったり、治療に関する説明を十分理解できない」が最も多くなっています。



知的障害



精神障害



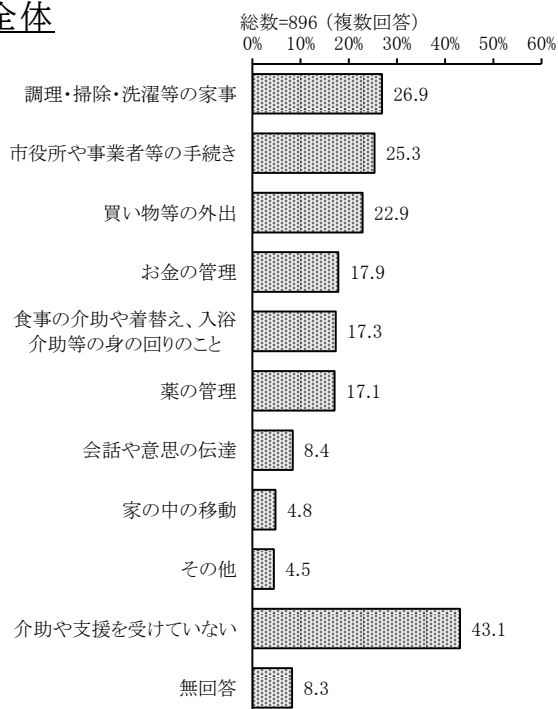
(3) 介助や支援が必要なこと

問 11 あなたは日常生活でどのような介助や支援を受けていますか。
(あてはまるもの全てに○)

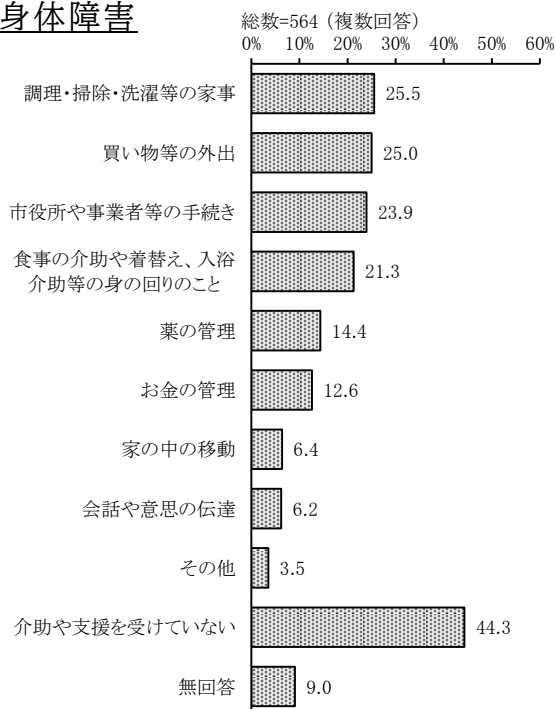
全体では、「調理・掃除・洗濯等の家事」が26.9%と最も多く、次いで「市役所や事業者等の手続き」が25.3%、「買い物等の外出」が22.9%、「お金の管理」が17.9%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「お金の管理」が最も多くなっています。

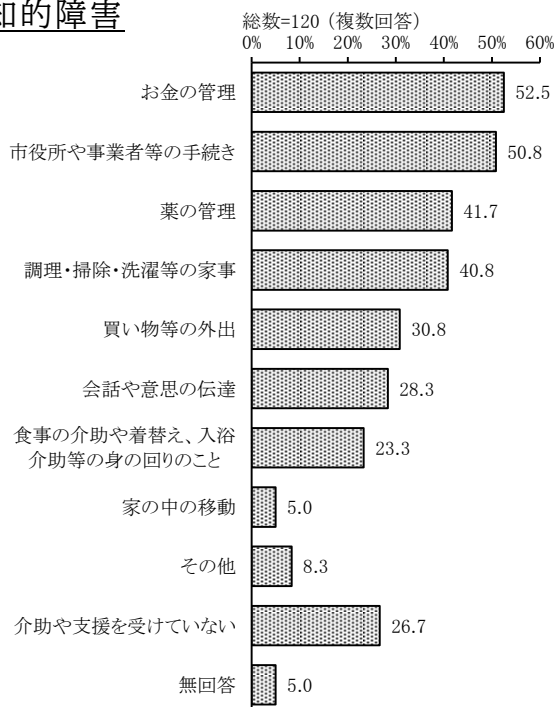
全体



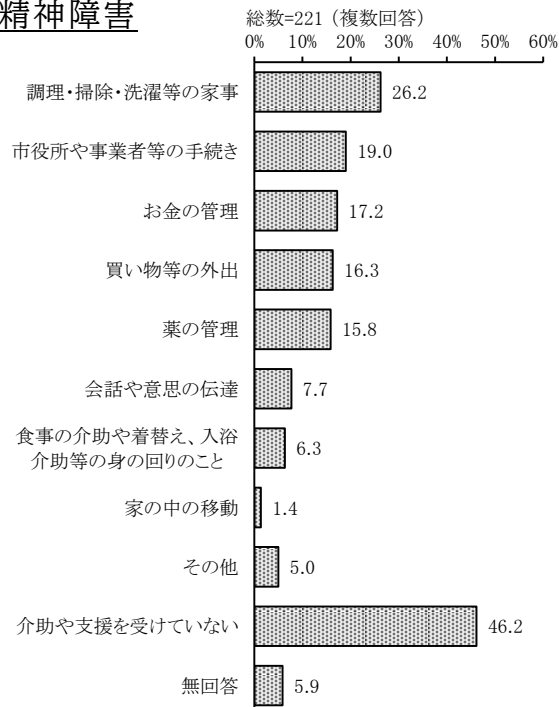
身体障害



知的障害



精神障害



性別で見ると、知的障害では男性のほうが全般に回答が多くなっています。

●介助や支援が必要なこと【性別】

		全体	食事の介助や着替え、入浴介助等の身の回りのこと	洗濯・調理等の家事	会話や意思の伝達	家の中の移動	買い物等の外出	薬の管理	お金の管理	市役所や事業者等の手続き	その他	介助や支援を受けていない	無回答
全体		896 100.0	155 17.3	241 26.9	75 8.4	43 4.8	205 22.9	153 17.1	160 17.9	227 25.3	40 4.5	386 43.1	74 8.3
性別	身体障害・男性	295 100.0	64 21.7	65 22.0	20 6.8	21 7.1	55 18.6	49 16.6	36 12.2	62 21.0	9 3.1	147 49.8	27 9.2
	身体障害・女性	267 100.0	56 21.0	78 29.2	15 5.6	15 5.6	85 31.8	31 11.6	34 12.7	72 27.0	11 4.1	102 38.2	24 9.0
	知的障害・男性	78 100.0	22 28.2	39 50.0	29 37.2	6 7.7	27 34.6	38 48.7	47 60.3	43 55.1	6 7.7	15 19.2	5 6.4
	知的障害・女性	41 100.0	6 14.6	10 24.4	5 12.2	— —	10 24.4	12 29.3	16 39.0	18 43.9	4 9.8	16 39.0	1 2.4
	精神障害・男性	108 100.0	4 3.7	30 27.8	10 9.3	1 0.9	12 11.1	15 13.9	14 13.0	18 16.7	3 2.8	53 49.1	5 4.6
	精神障害・女性	108 100.0	9 8.3	26 24.1	7 6.5	2 1.9	23 21.3	19 17.6	23 21.3	23 21.3	8 7.4	47 43.5	7 6.5

年齢別に見ると、身体障害では18～39歳で全般に回答が多くなっています。

●介助や支援が必要なこと【年齢別】

		全体	食事の介助や着替え、入浴介助等の身の回りのこと	洗濯・調理等の家事	会話や意思の伝達	家の中の移動	買い物等の外出	薬の管理	お金の管理	市役所や事業者等の手続き	その他	介助や支援を受けていない	無回答
全体		896 100.0	155 17.3	241 26.9	75 8.4	43 4.8	205 22.9	153 17.1	160 17.9	227 25.3	40 4.5	386 43.1	74 8.3
年齢別	身体障害・18～39歳	20 100.0	6 30.0	11 55.0	6 30.0	4 20.0	10 50.0	10 50.0	11 55.0	12 60.0	1 5.0	6 30.0	—
	身体障害・40～64歳	79 100.0	11 13.9	19 24.1	3 3.8	4 5.1	16 20.3	8 10.1	8 10.1	17 21.5	— —	41 51.9	6 7.6
	身体障害・65歳以上	465 100.0	103 22.2	114 24.5	26 5.6	28 6.0	115 24.7	63 13.5	52 11.2	106 22.8	19 4.1	203 43.7	45 9.7
	知的障害・18～39歳	74 100.0	21 28.4	37 50.0	24 32.4	4 5.4	30 40.5	38 51.4	41 55.4	42 56.8	6 8.1	22 29.7	1 1.4
	知的障害・40～64歳	40 100.0	7 17.5	12 30.0	10 25.0	2 5.0	7 17.5	12 30.0	20 50.0	17 42.5	3 7.5	8 20.0	4 10.0
	知的障害・65歳以上	6 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	2 33.3	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7
	精神障害・18～39歳	53 100.0	4 7.5	16 30.2	7 13.2	1 1.9	11 20.8	11 20.8	12 22.6	15 28.3	3 5.7	25 47.2	1 1.9
	精神障害・40～64歳	142 100.0	8 5.6	35 24.6	8 5.6	2 1.4	21 14.8	18 12.7	20 14.1	22 15.5	7 4.9	67 47.2	9 6.3
	精神障害・65歳以上	26 100.0	2 7.7	7 26.9	2 7.7	— —	4 15.4	6 23.1	6 23.1	5 19.2	1 3.8	10 38.5	3 11.5

身体障害の種類別に見ると、視覚障害では「調理・掃除・洗濯等の家事」「買い物等の外出」が他の種類と比較して多くなっています。

●介助や支援が必要なこと【身体障害の種類別】

		全体	食事の介助や着替え、入浴介助等の身の回りのこと	調理・掃除・洗濯等の家事	会話や意思の伝達	家の中の移動	買い物等の外出	薬の管理	お金の管理	市役所や事業者等の手続き	その他	介助や支援を受けていない	無回答
全体		564 100.0	120 21.3	144 25.5	35 6.2	36 6.4	141 25.0	81 14.4	71 12.6	135 23.9	20 3.5	250 44.3	51 9.0
身体障害の種類別	視覚障害	41 100.0	15 36.6	17 41.5	3 7.3	5 12.2	16 39.0	12 29.3	8 19.5	18 43.9	1 2.4	11 26.8	1 2.4
	聴覚・平衡機能障害	47 100.0	7 14.9	13 27.7	12 25.5	3 6.4	11 23.4	6 12.8	9 19.1	16 34.0	3 6.4	16 34.0	2 4.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	20 100.0	9 45.0	8 40.0	7 35.0	2 10.0	6 30.0	7 35.0	4 20.0	9 45.0	－	5 25.0	1 5.0
	肢体不自由（上肢・下肢・体幹等）	275 100.0	74 26.9	80 29.1	15 5.5	23 8.4	77 28.0	45 16.4	41 14.9	73 26.5	10 3.6	118 42.9	18 6.5
	内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能、肝臓）	203 100.0	30 14.8	35 17.2	6 3.0	6 3.0	38 18.7	20 9.9	15 7.4	34 16.7	6 3.0	104 51.2	28 13.8

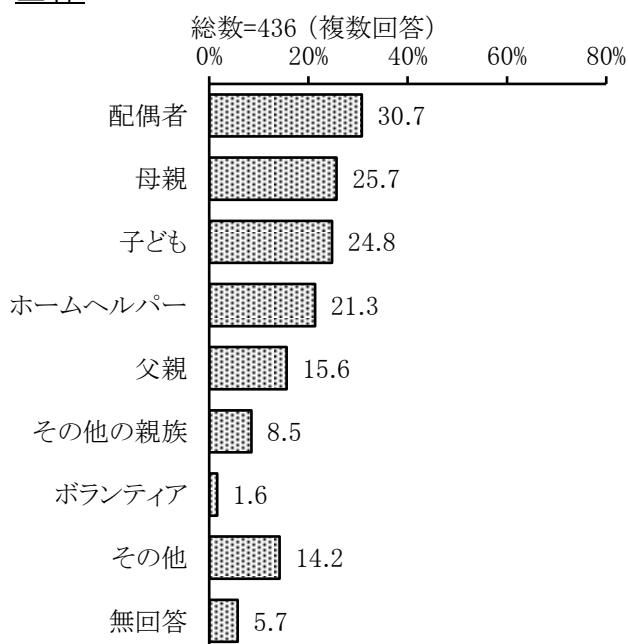
(4) 主な介助者

問 12 問 11 で「介助や支援を受けている（１～９）」と回答した方にお聞きします。あなたを介助や支援している人は誰ですか。
(あてはまるもの全てに○)

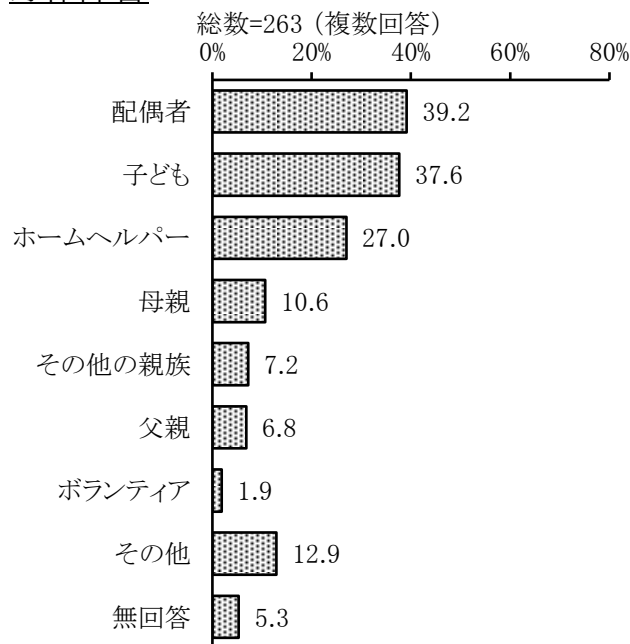
全体では、「配偶者」が 30.7% と最も多く、次いで「母親」が 25.7%、「子ども」が 24.8%、「ホームヘルパー」が 21.3% となっています。

障害別に見ると、知的障害や精神障害では「母親」が最も多くなっています。

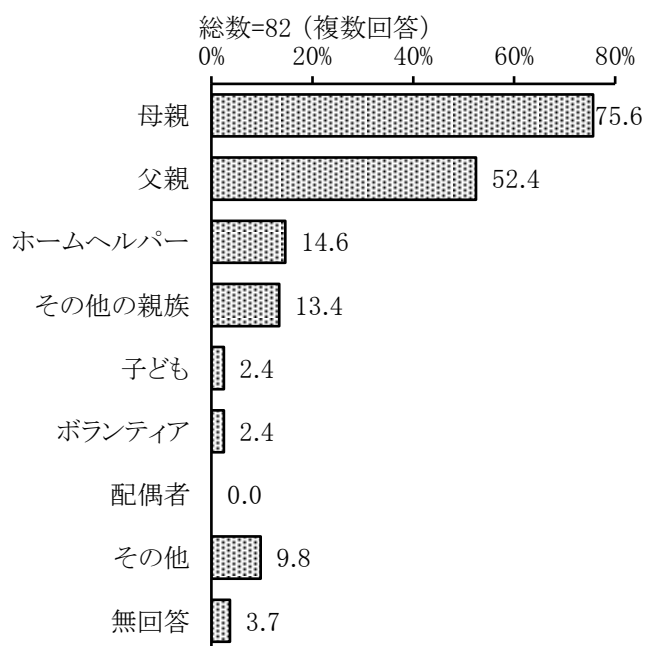
全体



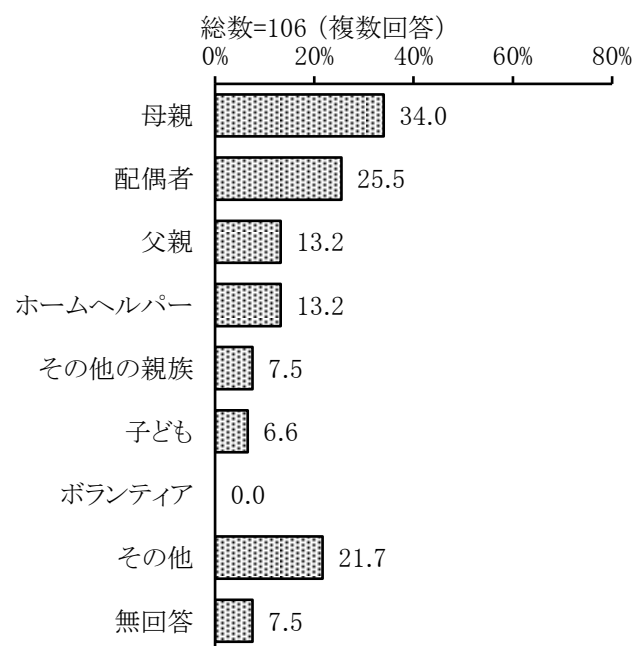
身体障害



知的障害



精神障害



性別で見ると、身体障害では男性のほうが「配偶者」が多く、女性のほうが「子ども」が多くなっています。知的障害では男性のほうが「母親」が多くなっています。

●主な介助者【性別】

		全体	父親	母親	配偶者	子ども	その他の親族	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
全体		436 100.0	68 15.6	112 25.7	134 30.7	108 24.8	37 8.5	93 21.3	7 1.6	62 14.2	25 5.7
性別	身体障害・男性	121 100.0	14 11.6	18 14.9	59 48.8	35 28.9	6 5.0	26 21.5	1 0.8	19 15.7	6 5.0
	身体障害・女性	141 100.0	4 2.8	9 6.4	44 31.2	64 45.4	13 9.2	45 31.9	4 2.8	15 10.6	8 5.7
	知的障害・男性	58 100.0	32 55.2	48 82.8	-	-	8 13.8	9 15.5	2 3.4	5 8.6	1 1.7
	知的障害・女性	24 100.0	11 45.8	14 58.3	-	2 8.3	3 12.5	3 12.5	-	3 12.5	2 8.3
	精神障害・男性	50 100.0	8 16.0	19 38.0	9 18.0	2 4.0	3 6.0	9 18.0	-	8 16.0	5 10.0
	精神障害・女性	54 100.0	6 11.1	17 31.5	17 31.5	5 9.3	5 9.3	5 9.3	-	15 27.8	2 3.7

年齢別に見ると、「母親」はいずれの障害でも18～39歳で多くなっていますが、知的障害では40～64歳でも多くなっています。身体障害では65歳以上で「配偶者」「子ども」が多くなっています。

●主な介助者【年齢別】

		全体	父親	母親	配偶者	子ども	その他の親族	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
全体		436 100.0	68 15.6	112 25.7	134 30.7	108 24.8	37 8.5	93 21.3	7 1.6	62 14.2	25 5.7
年齢別	身体障害・18～39歳	14 100.0	10 71.4	12 85.7	-	-	1 7.1	5 35.7	-	1 7.1	-
	身体障害・40～64歳	32 100.0	7 21.9	11 34.4	6 18.8	3 9.4	3 9.4	12 37.5	1 3.1	4 12.5	1 3.1
	身体障害・65歳以上	217 100.0	1 0.5	5 2.3	97 44.7	96 44.2	15 6.9	54 24.9	4 1.8	29 13.4	13 6.0
	知的障害・18～39歳	51 100.0	33 64.7	42 82.4	-	-	7 13.7	8 15.7	1 2.0	5 9.8	1 2.0
	知的障害・40～64歳	28 100.0	10 35.7	20 71.4	-	1 3.6	4 14.3	4 14.3	1 3.6	2 7.1	1 3.6
	知的障害・65歳以上	3 100.0	-	-	-	1 33.3	-	-	-	1 33.3	1 33.3
	精神障害・18～39歳	27 100.0	10 37.0	18 66.7	4 14.8	-	1 3.7	1 3.7	-	6 22.2	2 7.4
	精神障害・40～64歳	66 100.0	4 6.1	18 27.3	21 31.8	6 9.1	3 4.5	11 16.7	-	14 21.2	4 6.1
	精神障害・65歳以上	13 100.0	-	-	2 15.4	1 7.7	4 30.8	2 15.4	-	3 23.1	2 15.4

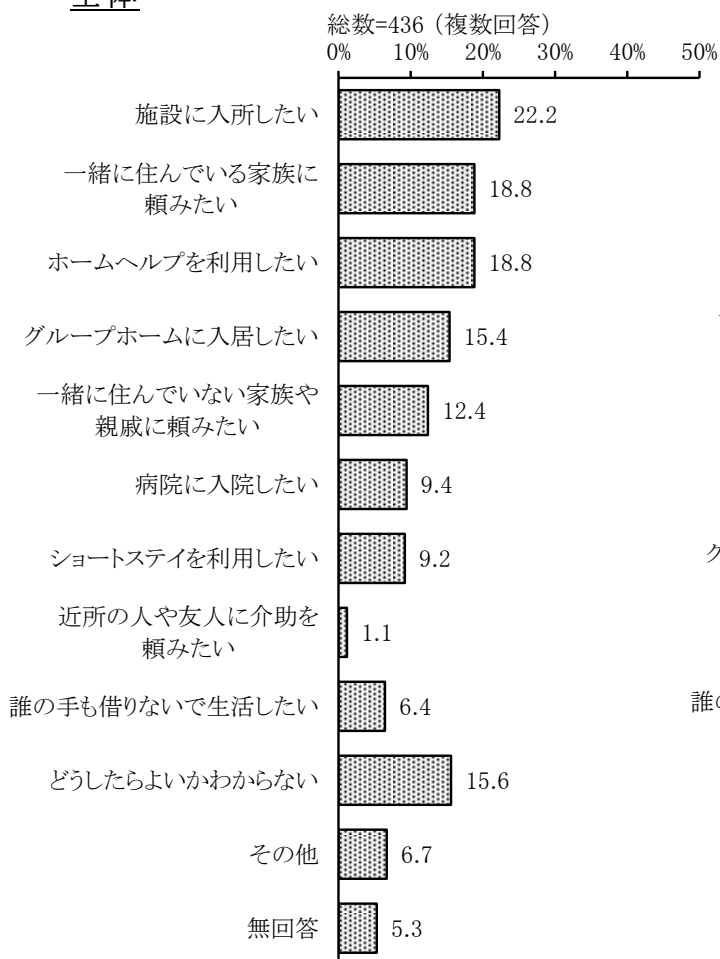
(5) 主な介助者が介助できなくなった場合の希望

問 13 問 11 で「介助や支援を受けている（１～９）」と回答した方にお聞きします。介助者があなたを介助や支援できなくなった場合は、あなたはどのようにしたいですか。（あてはまるもの全てに○）

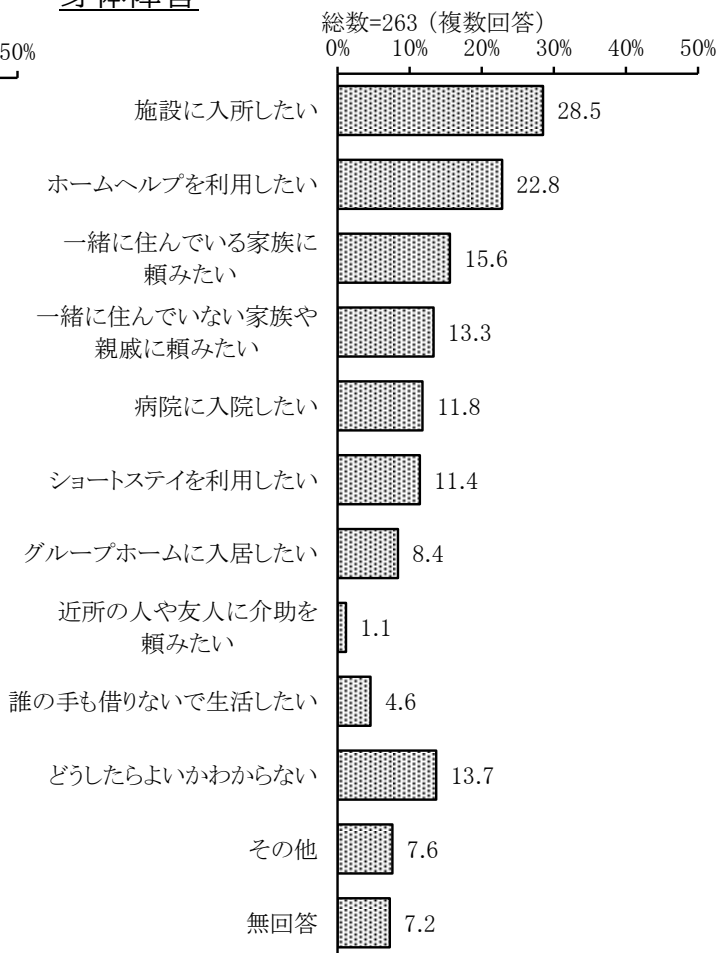
全体では、「施設に入所したい」が 22.2%と最も多く、次いで「一緒に住んでいる家族に頼みたい」「ホームヘルプを利用したい」がそれぞれ 18.8%、「グループホームに入居したい」が 15.4%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「グループホームに入居したい」が、精神障害では「一緒に住んでいる家族に頼みたい」が最も多くなっています。

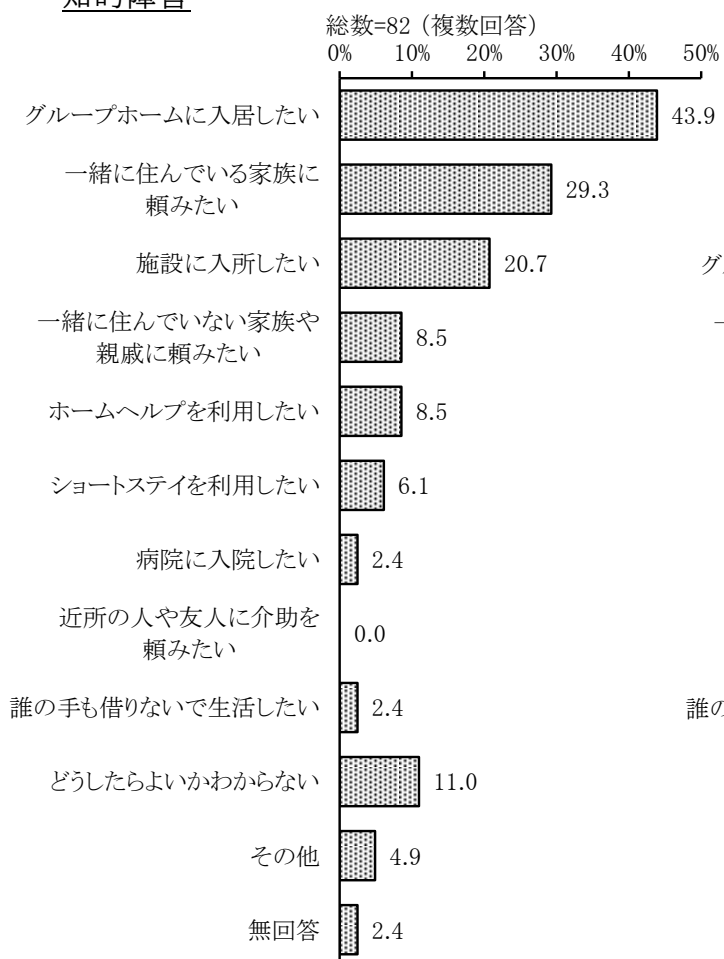
全体



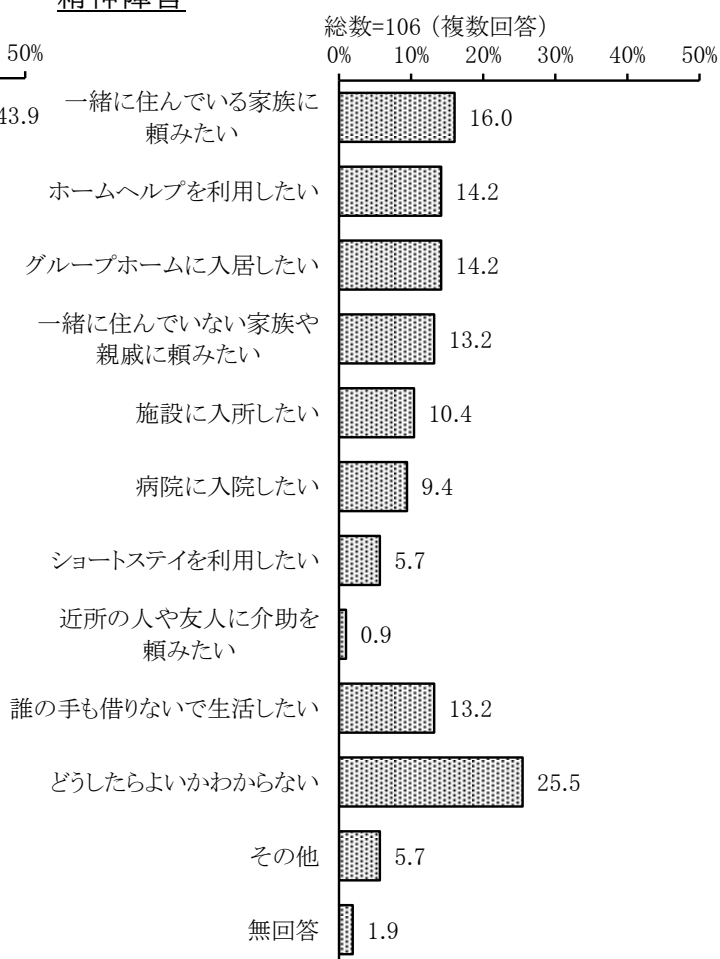
身体障害



知的障害



精神障害



年齢別に見ると、身体障害では18～39歳で「施設に入所したい」「グループホームに入居したい」が多くなっています。知的障害では18～39歳で「グループホームに入居したい」が多くなっています。

●主な介助者が介助できなくなった場合の希望【年齢別】

	全体	一緒に住んでいる家族に頼みたい	一緒に住んでいない家族や親戚に頼みたい	近所の人や友人に介助を頼みたい	ホームヘルプを利用したい	ショートステイを利用したい	施設に入所したい	グループホームに入居したい	病院に入院したい	誰の手も借りないで生活したい	どうしたらよいかわからない	その他	無回答
全体	436 100.0	82 18.8	54 12.4	5 1.1	82 18.8	40 9.2	97 22.2	67 15.4	41 9.4	28 6.4	68 15.6	29 6.7	23 5.3
年齢別	身体障害・18～39歳	14 100.0	3 21.4	2 14.3	-	2 14.3	7 50.0	6 42.9	1 7.1	-	1 7.1	-	-
	身体障害・40～64歳	32 100.0	5 15.6	5 15.6	1 3.1	12 37.5	7 21.9	2 6.3	6 18.8	1 3.1	5 15.6	2 6.3	1 3.1
	身体障害・65歳以上	217 100.0	33 15.2	28 12.9	2 0.9	46 21.2	28 12.9	61 28.1	14 6.5	24 11.1	30 13.8	18 8.3	18 8.3
	知的障害・18～39歳	51 100.0	15 29.4	3 5.9	-	4 7.8	10 19.6	28 54.9	-	1 2.0	4 7.8	4 7.8	1 2.0
	知的障害・40～64歳	28 100.0	9 32.1	3 10.7	-	3 10.7	1 3.6	7 25.0	2 7.1	-	4 14.3	-	1 3.6
	知的障害・65歳以上	3 100.0	-	1 33.3	-	-	-	-	-	1 33.3	1 33.3	-	-
	精神障害・18～39歳	27 100.0	5 18.5	6 22.2	-	3 11.1	1 3.7	2 7.4	6 22.2	4 14.8	2 7.4	2 7.4	1 3.7
	精神障害・40～64歳	66 100.0	8 12.1	5 7.6	1 1.5	12 18.2	4 6.1	7 10.6	8 12.1	5 7.6	10 15.2	20 30.3	4 6.1
	精神障害・65歳以上	13 100.0	4 30.8	3 23.1	-	-	1 7.7	2 15.4	1 7.7	2 15.4	1 7.7	-	1 7.7

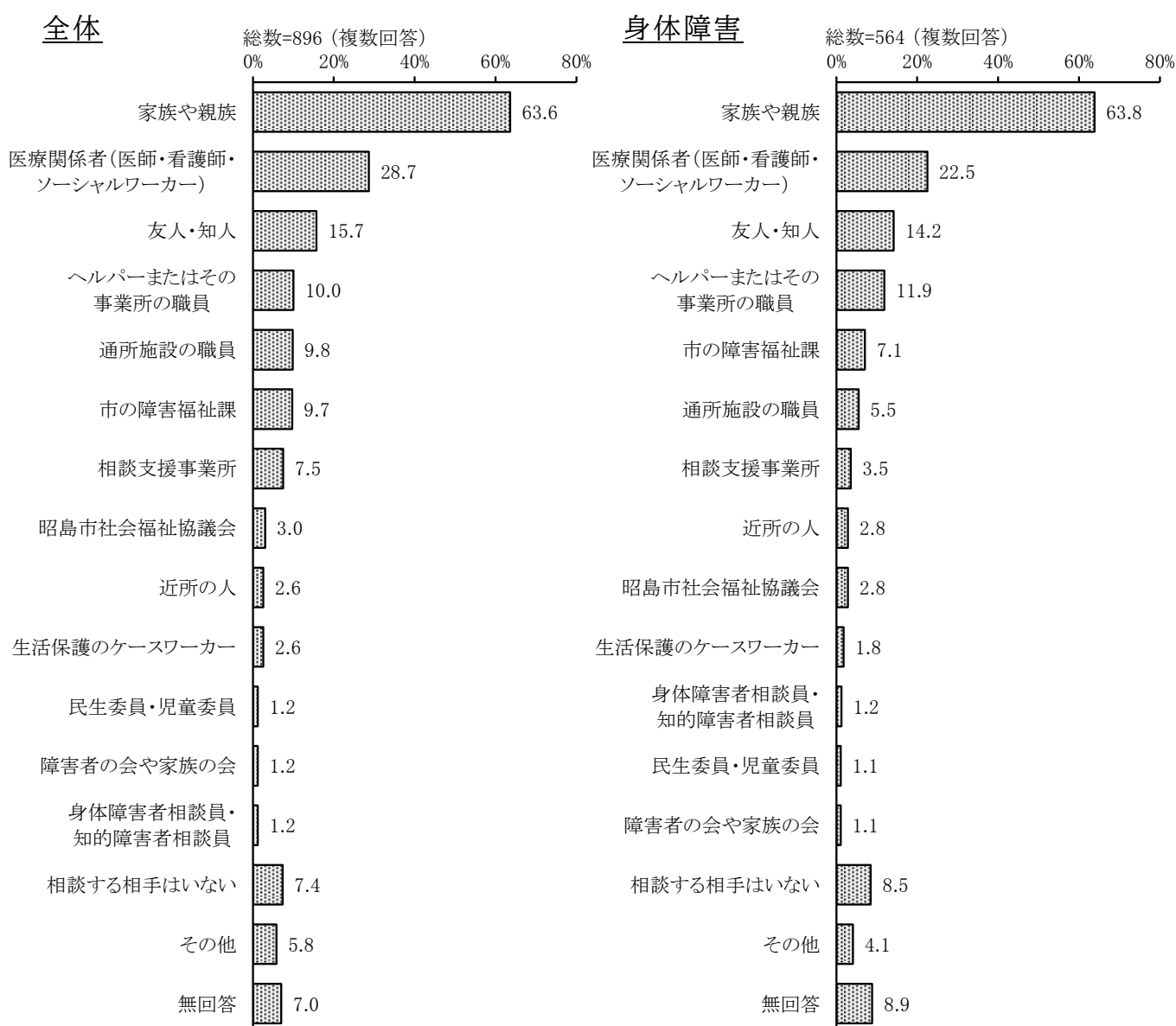
5. 相談や福祉情報について

(1) 困ったときに相談できる人や場所

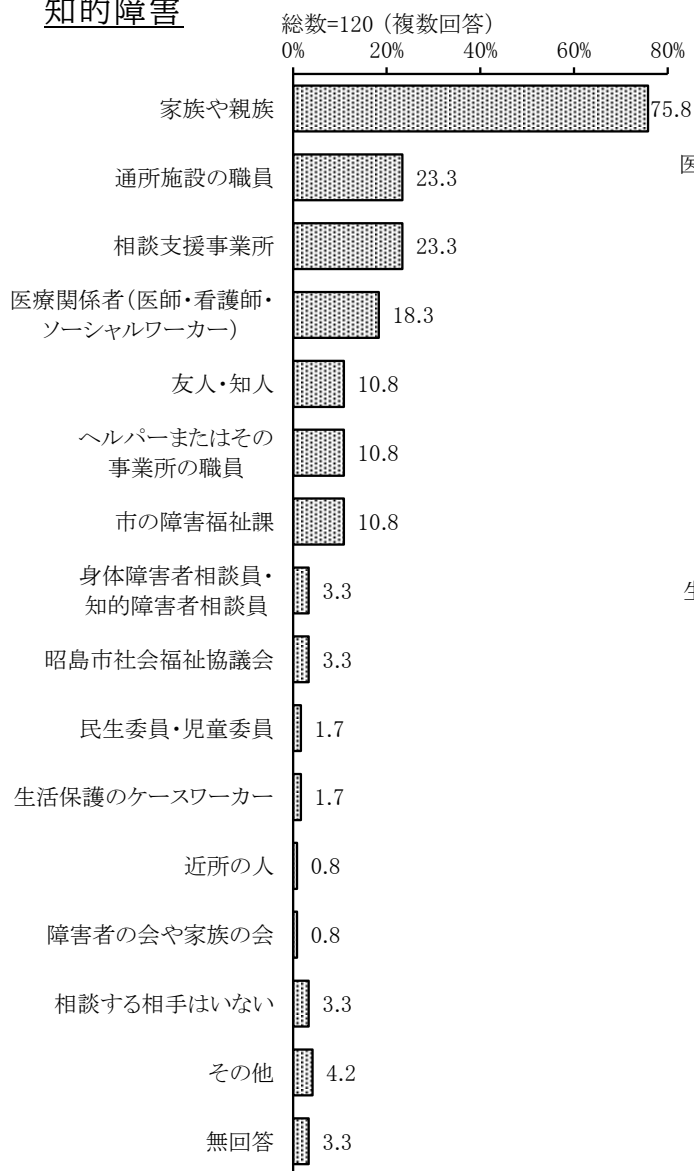
問 14 あなたは、日常生活で困ったことや悩み事について相談している人や場所はどこですか。(あてはまるもの全てに○)

全体では、「家族や親族」が 63.6%と最も多く、次いで「医療関係者（医師・看護師・ソーシャルワーカー）」が 28.7%、「友人・知人」が 15.7%、「ヘルパーまたはその事務所の職員」が 10.0%となっています。

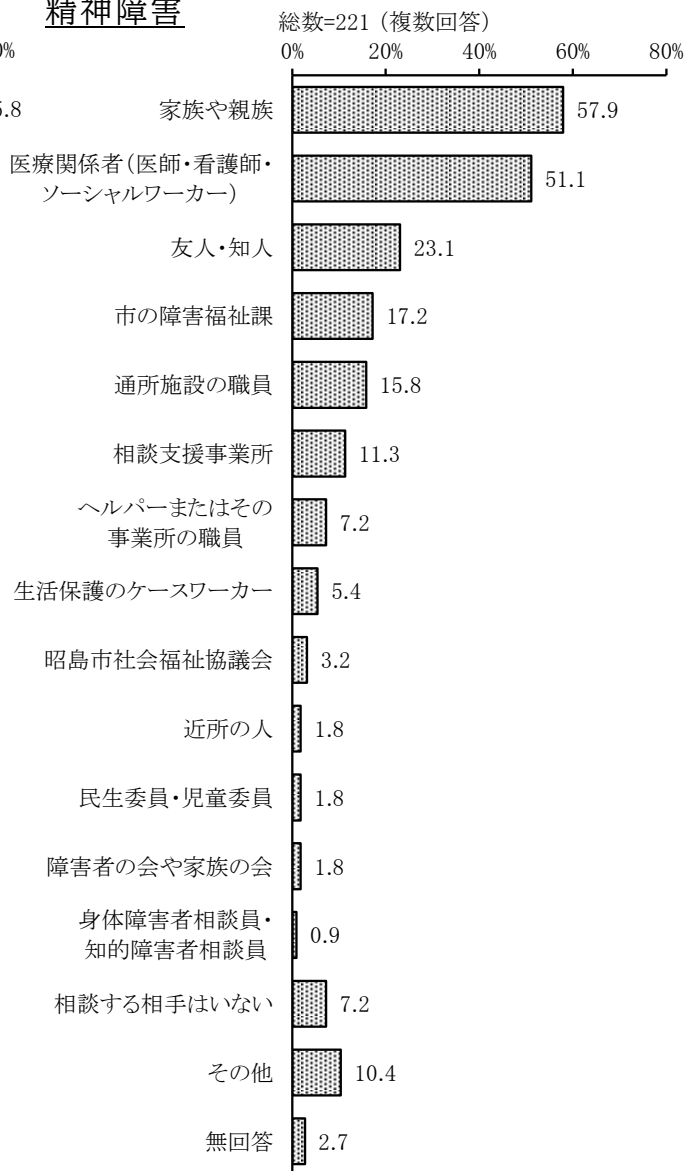
障害別に見ると、知的障害では「通所施設の職員」「相談支援事業所」が他の障害と比較して多くなっています。



知的障害



精神障害



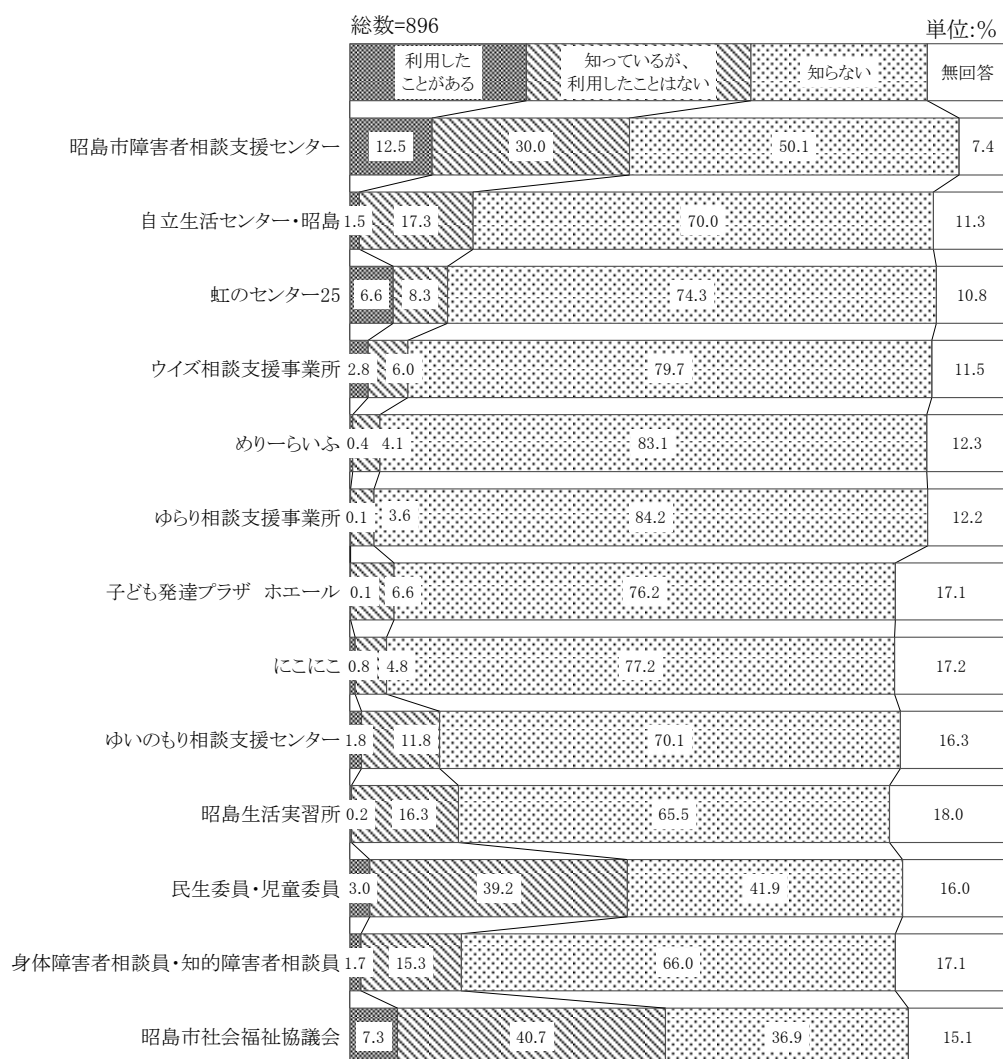
(2) 相談場所等の認知状況

問 15 あなたは、次の相談場所等を知っていますか。
(あてはまるもの全てに○)

市内の相談支援機関等のうち、10の機関等で「知らない」が6割以上を占めています。

『知っている』(「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」を合わせた割合)は、「昭島市社会福祉協議会」が48.0%と最も多く、次いで「昭島市障害者相談支援センター」が42.5%、「民生委員・児童委員」が42.2%、「自立生活センター・昭島」が18.8%となっています(実数から再計算しているため、四捨五入の関係で、「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の割合の合計とは数値が若干異なっている場合があります)。

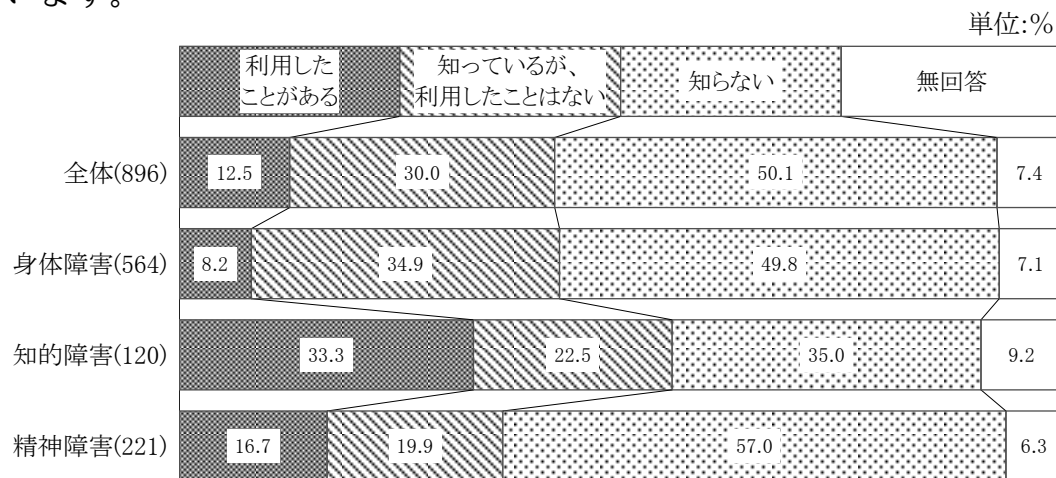
「利用したことがある」は、「昭島市障害者相談支援センター」が12.5%と最も多く、次いで「昭島市社会福祉協議会」が7.3%、「虹のセンター25」が6.6%、「民生委員・児童委員」が3.0%となっています。



①昭島市障害者相談支援センター

全体では、「利用したことがある」が12.5%、「知っているが、利用したことはない」が30.0%、「知らない」が50.1%となっています。

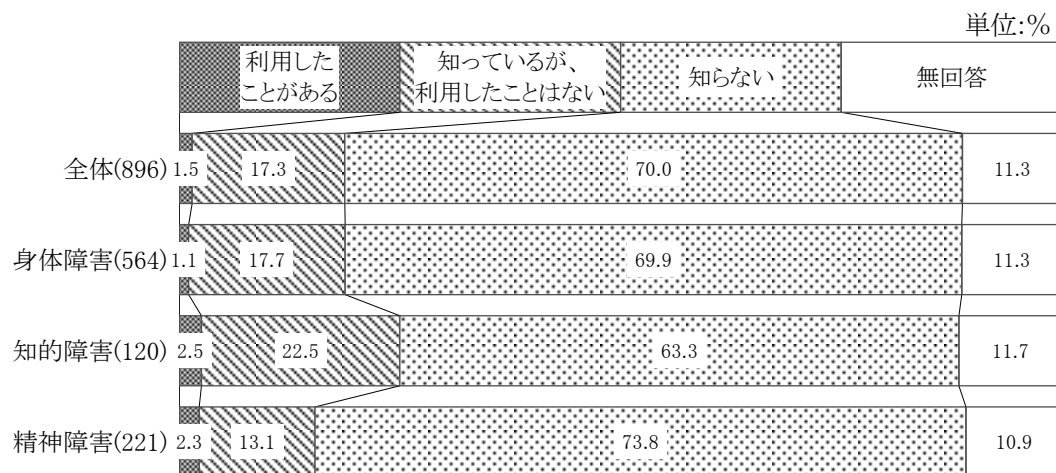
障害別に見ると、知的障害では「利用したことがある」が他の障害と比較して多くなっています。



②自立生活センター・昭島

全体では、「利用したことがある」が1.5%、「知っているが、利用したことはない」が17.3%、「知らない」が70.0%となっています。

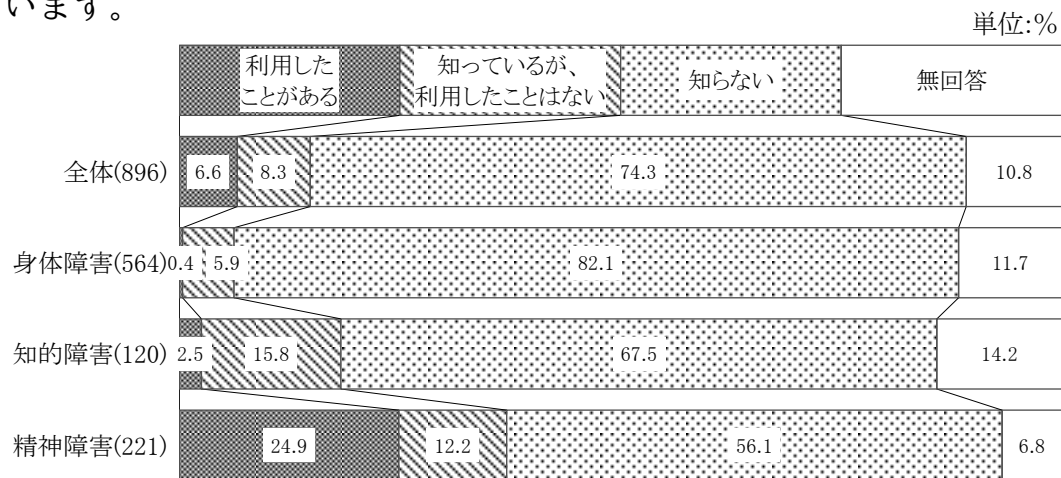
障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



③虹のセンター25

全体では、「利用したことがある」が6.6%、「知っているが、利用したことはない」が8.3%、「知らない」が74.3%となっています。

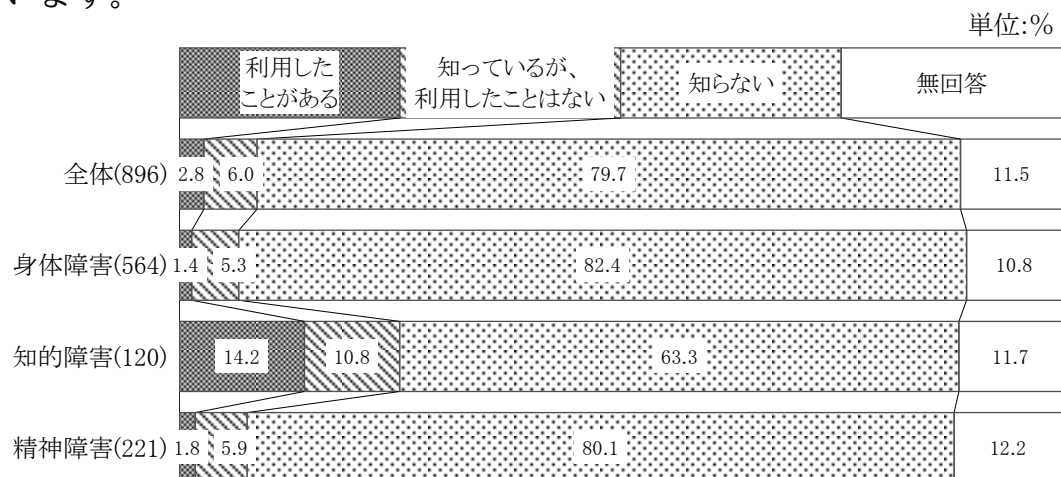
障害別に見ると、精神障害では「利用したことがある」が他の障害と比較して多くなっています。



④ウイズ相談支援事業所

全体では、「利用したことがある」が2.8%、「知っているが、利用したことはない」が6.0%、「知らない」が79.7%となっています。

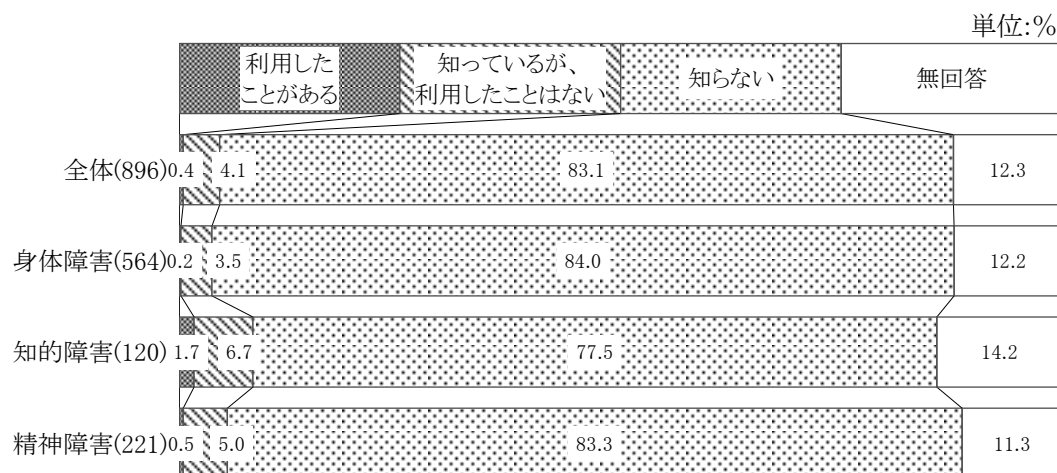
障害別に見ると、知的障害では「利用したことがある」が他の障害と比較して多くなっています。



⑤めりーらいふ

全体では、「利用したことがある」が0.4%、「知っているが、利用したことはない」が4.1%、「知らない」が83.1%となっています。

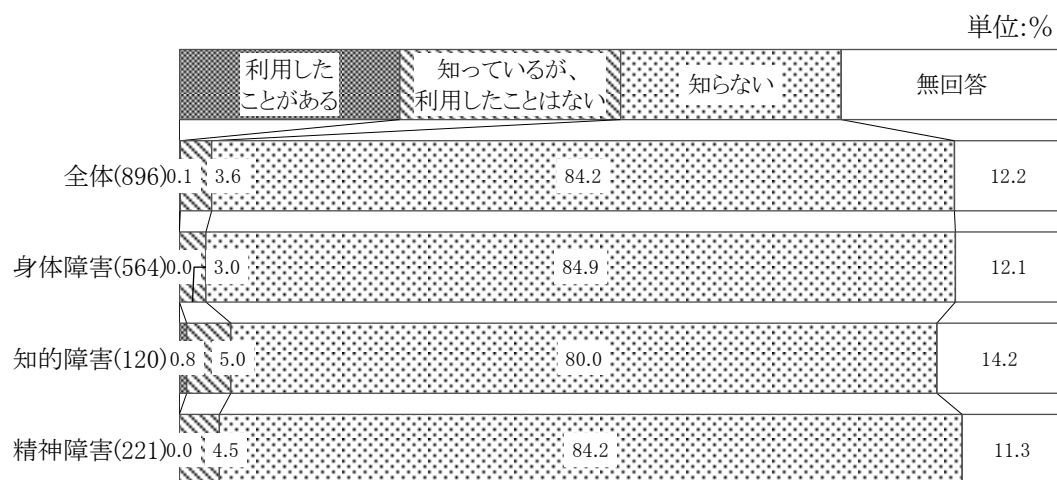
障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



⑥ゆりり相談支援事業所

全体では、「利用したことがある」が0.1%、「知っているが、利用したことはない」が3.6%、「知らない」が84.2%となっています。

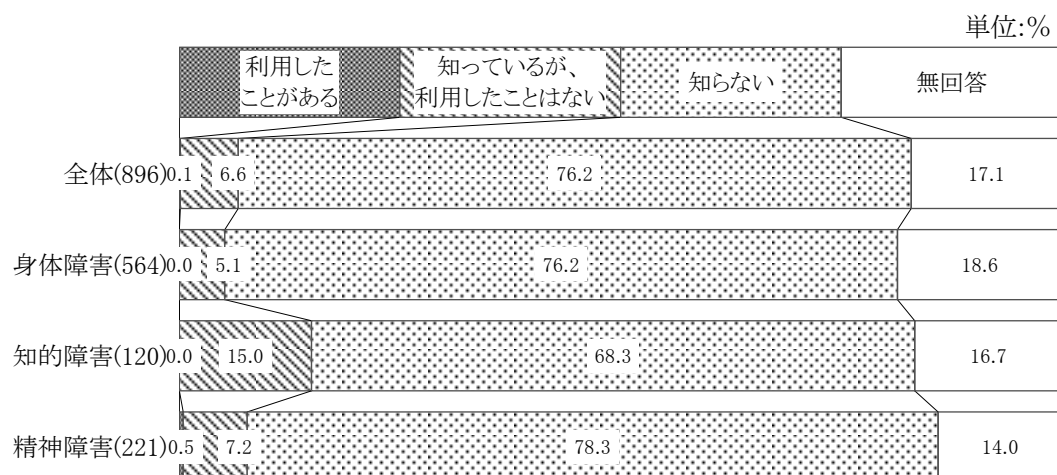
障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



⑦子ども発達プラザ ホエール

全体では、「利用したことがある」が0.1%、「知っているが、利用したことはない」が6.6%、「知らない」が76.2%となっています。

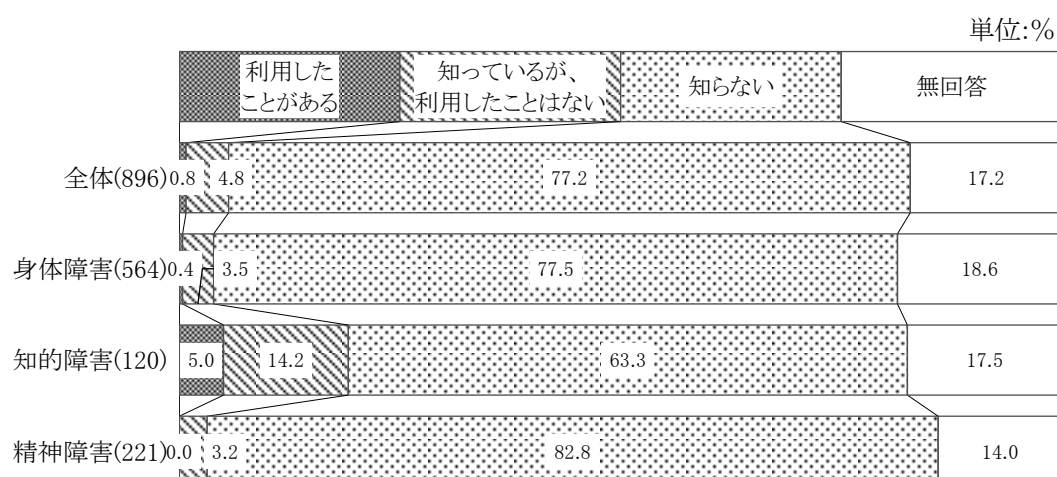
障害別に見ると、知的障害では「知っているが、利用したことはない」が他の障害と比較して多くなっています。



⑧にこにこ

全体では、「利用したことがある」が0.8%、「知っているが、利用したことはない」が4.8%、「知らない」が77.2%となっています。

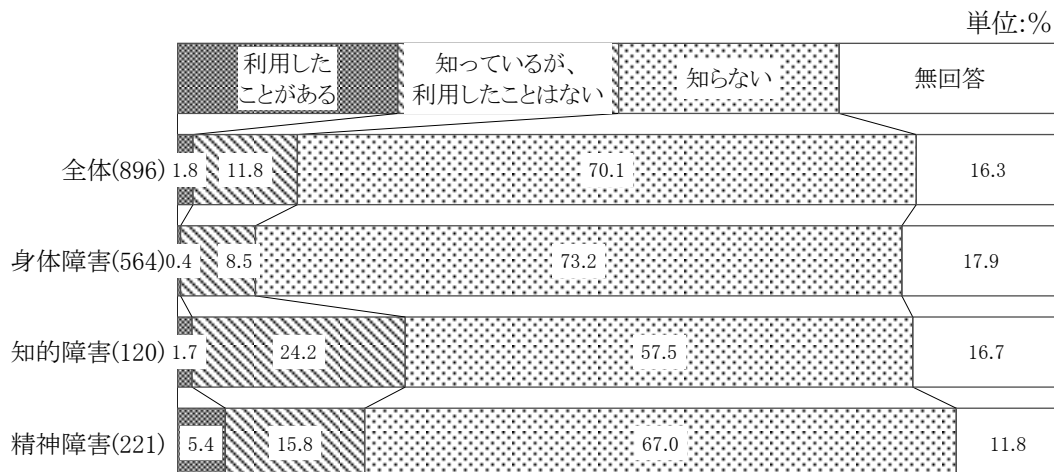
障害別に見ると、知的障害では「利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」が他の障害と比較して多くなっています。



⑨ゆいのもり相談支援センター

全体では、「利用したことがある」が1.8%、「知っているが、利用したことはない」が11.8%、「知らない」が70.1%となっています。

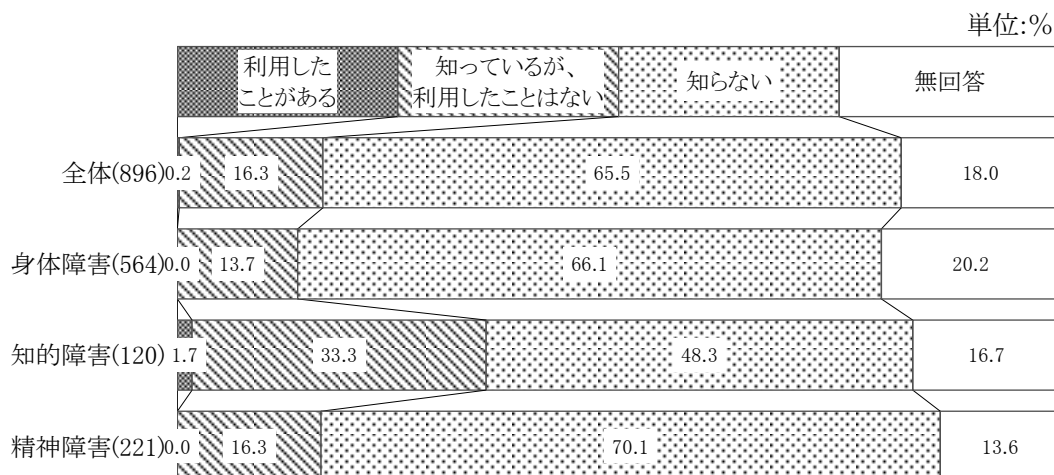
障害別に見ると、精神障害では「利用したことがある」が、知的障害では「知っているが、利用したことはない」が他の障害と比較して多くなっています。



⑩昭島生活実習所

全体では、「利用したことがある」が0.2%、「知っているが、利用したことはない」が16.3%、「知らない」が65.5%となっています。

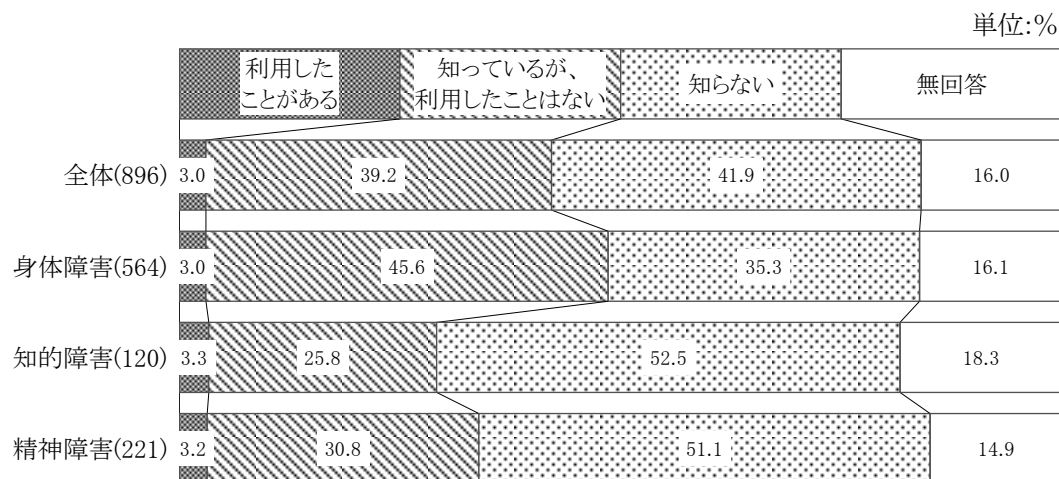
障害別に見ると、知的障害では「知っているが、利用したことはない」が他の障害と比較して多くなっています。



⑪ 民生委員・児童委員

全体では、「利用したことがある」が3.0%、「知っているが、利用したことはない」が39.2%、「知らない」が41.9%となっています。

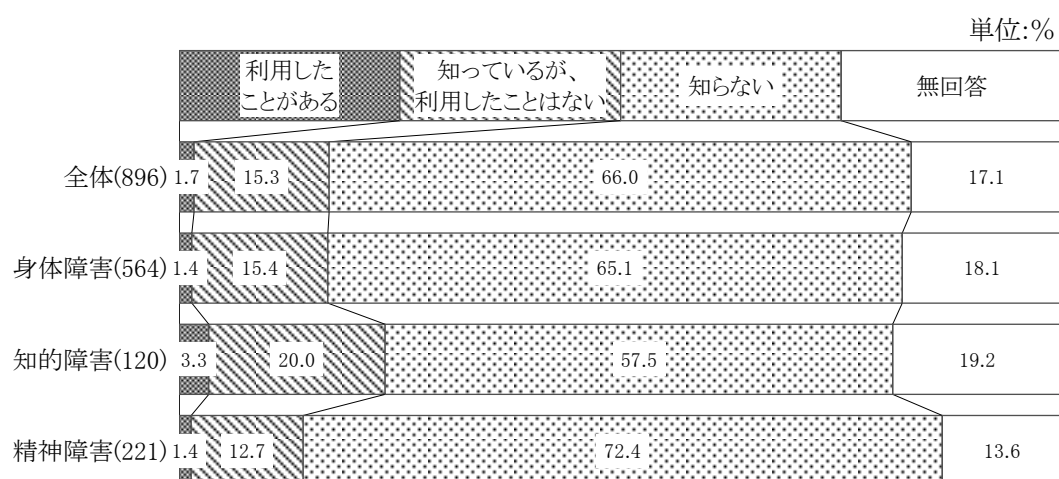
障害別に見ると、身体障害では「知っているが、利用したことはない」が他の障害と比較して多くなっています。



⑫ 身体障害者相談員・知的障害者相談員

全体では、「利用したことがある」が1.7%、「知っているが、利用したことはない」が15.3%、「知らない」が66.0%となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



⑬昭島市社会福祉協議会

全体では、「利用したことがある」が7.3%、「知っているが、利用したことはない」が40.7%、「知らない」が36.9%となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



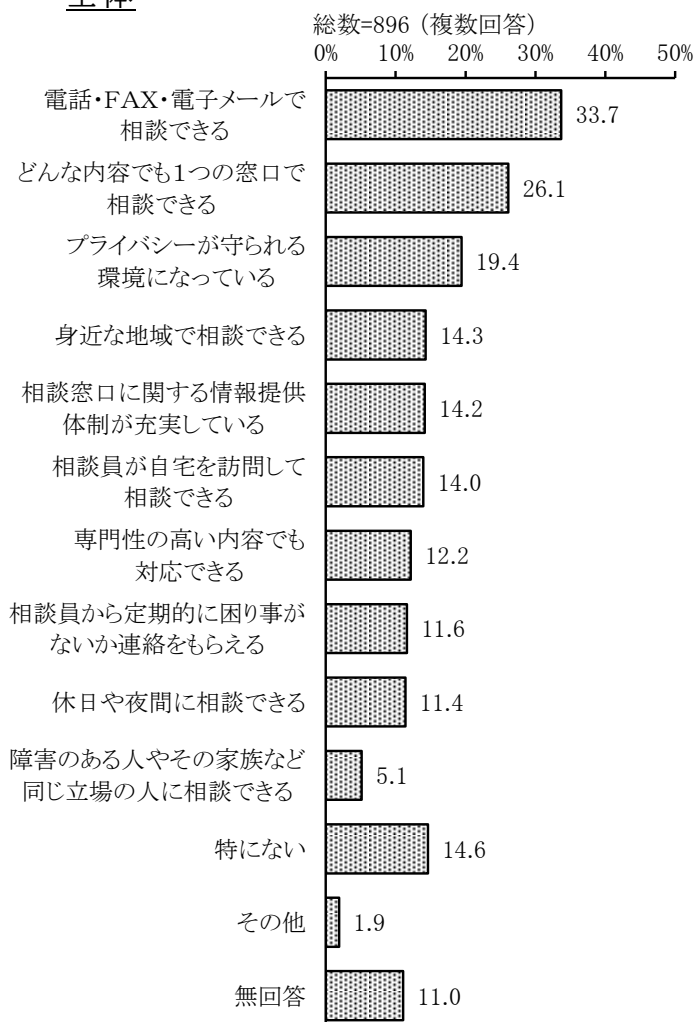
(3) 気軽に相談するために必要なこと

問 16 あなたは、市役所等の公的な相談窓口に気軽に相談するために、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

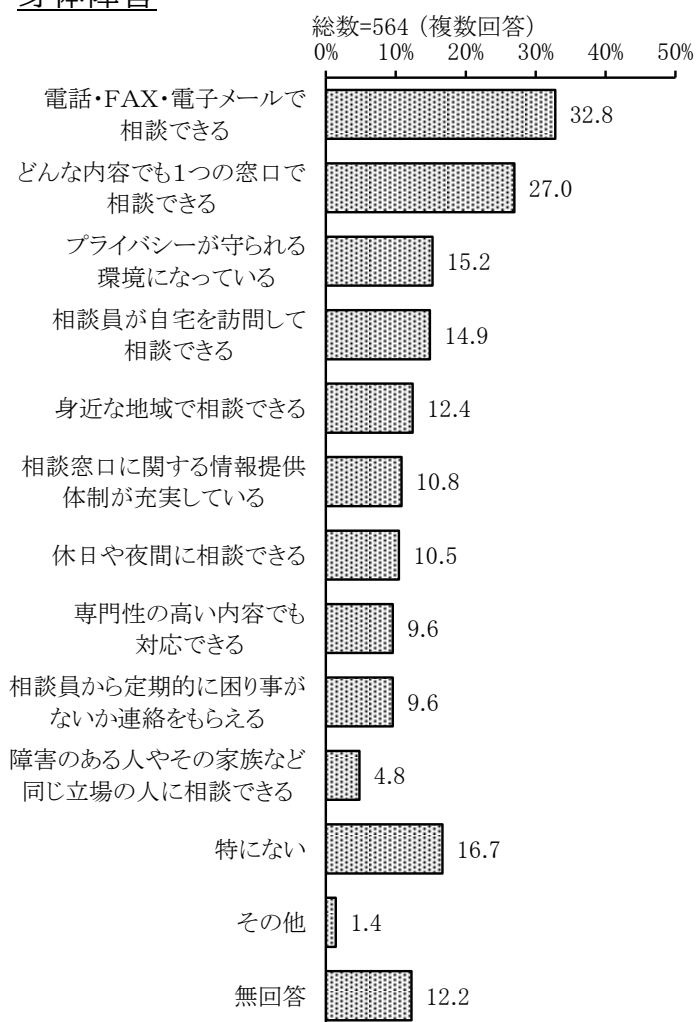
全体では、「電話・FAX・電子メールで相談できる」が33.7%と最も多く、次いで「どんな内容でも1つの窓口で相談できる」が26.1%、「プライバシーが守られる環境になっている」が19.4%、「身近な地域で相談できる」が14.3%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「どんな内容でも1つの窓口で相談できる」が最も多くなっています。精神障害では「プライバシーが守られる環境になっている」が他の障害と比較して多くなっています。

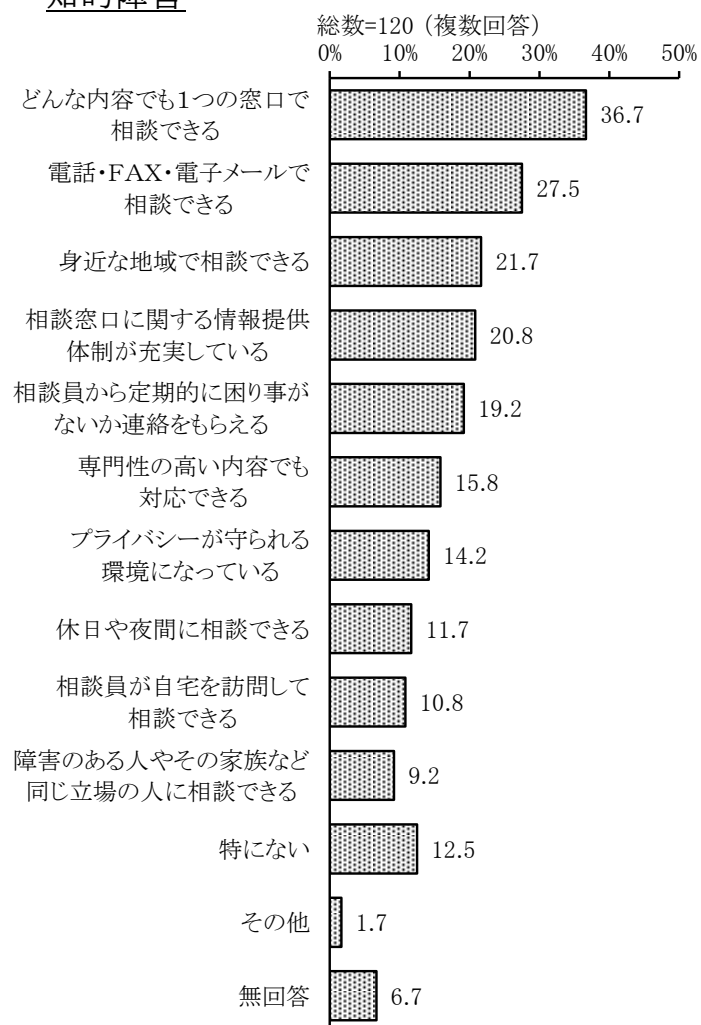
全体



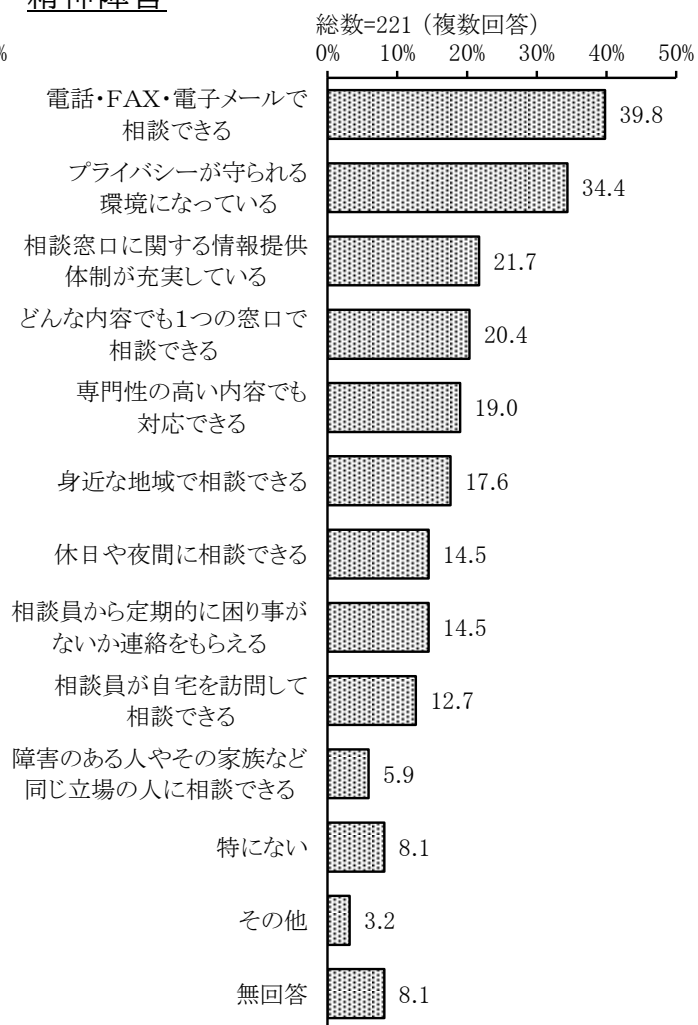
身体障害



知的障害



精神障害



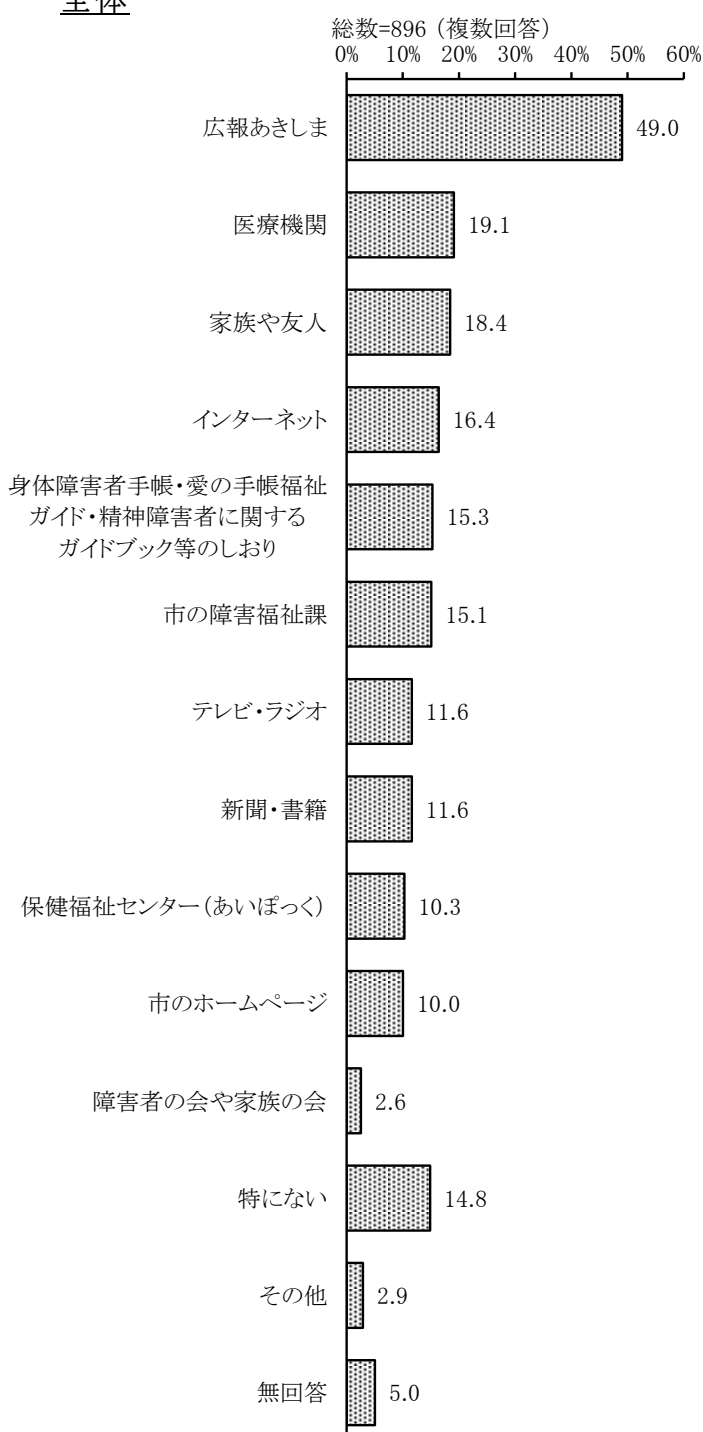
(4) 福祉に関する情報の入手方法

問 17 あなたは、障害のあるかたのための福祉に関する情報をどこから得ていますか。(あてはまるもの全てに○)

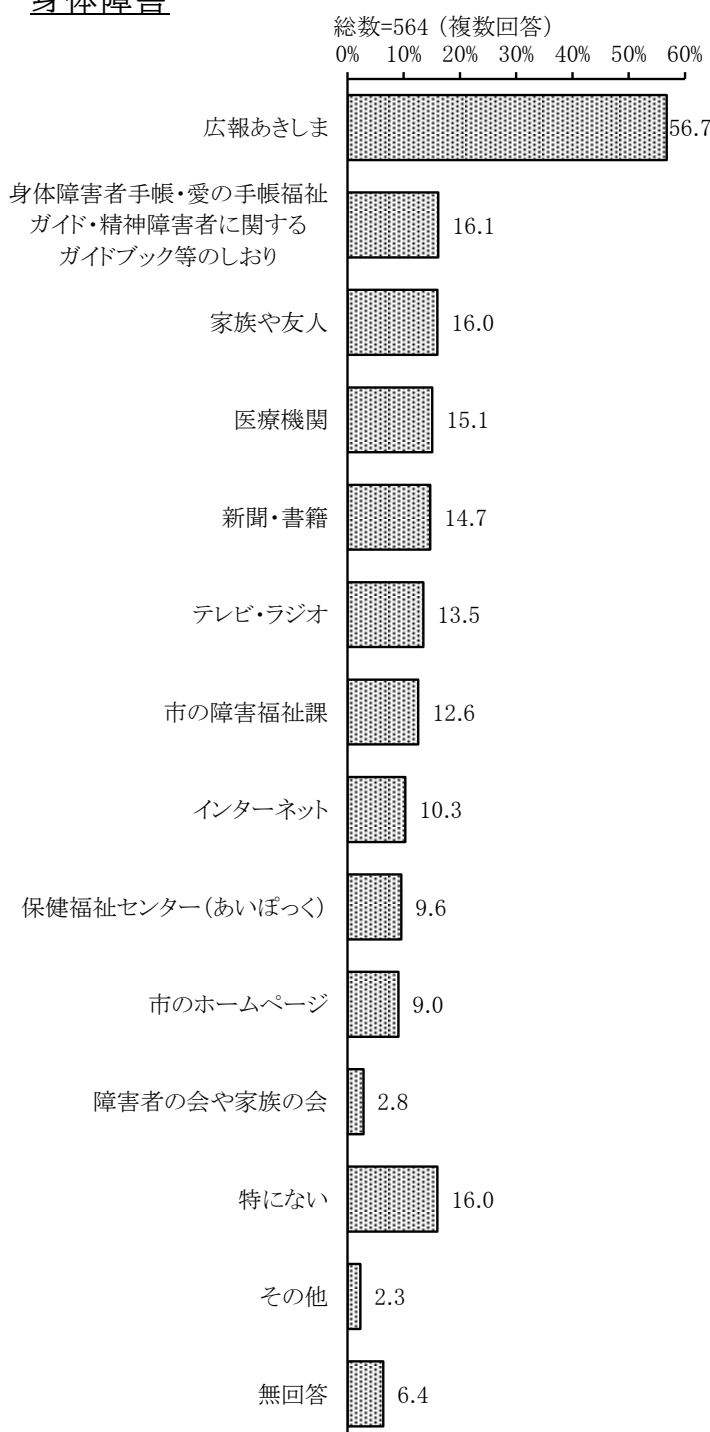
全体では、「広報あきしま」が49.0%と最も多く、次いで「医療機関」が19.1%、「家族や友人」が18.4%、「インターネット」が16.4%となっています。

障害別に見ると、精神障害では「医療機関」が最も多く、「インターネット」が他の障害と比較して多くなっています。

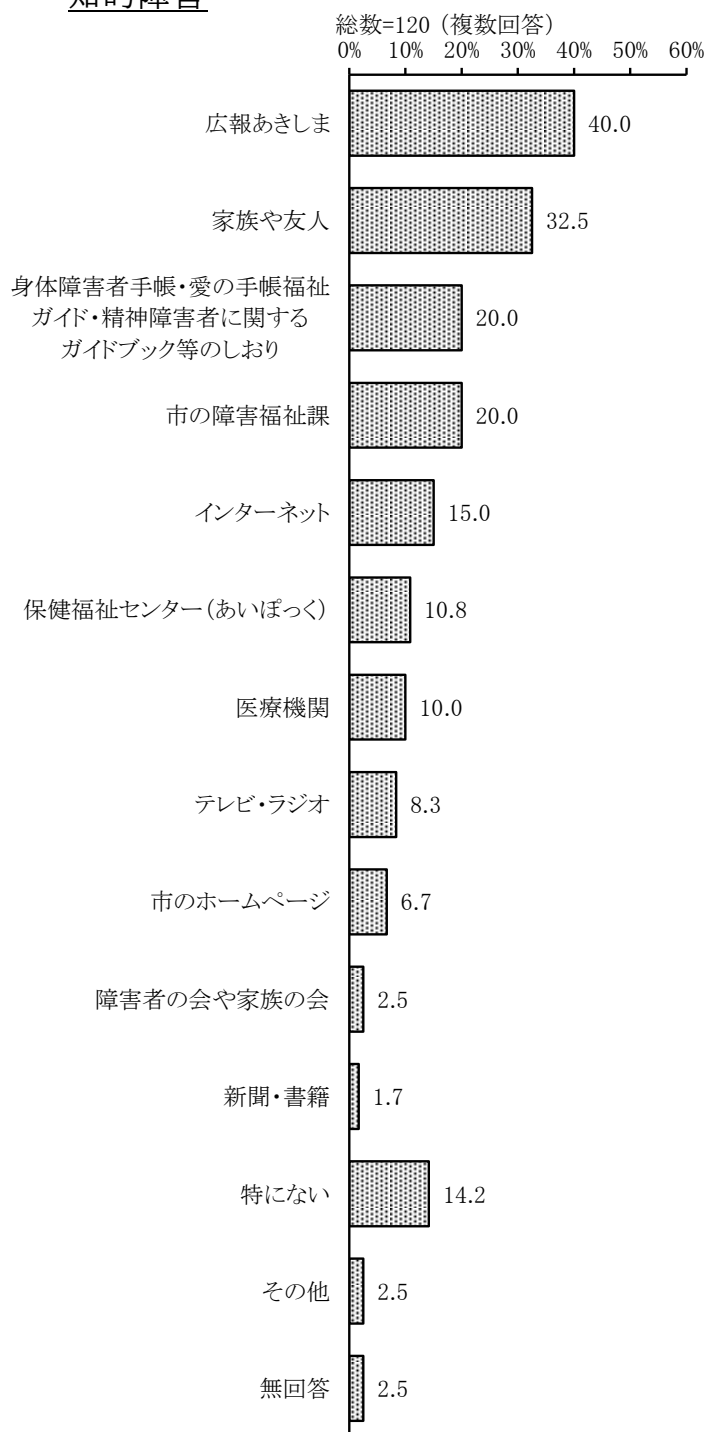
全体



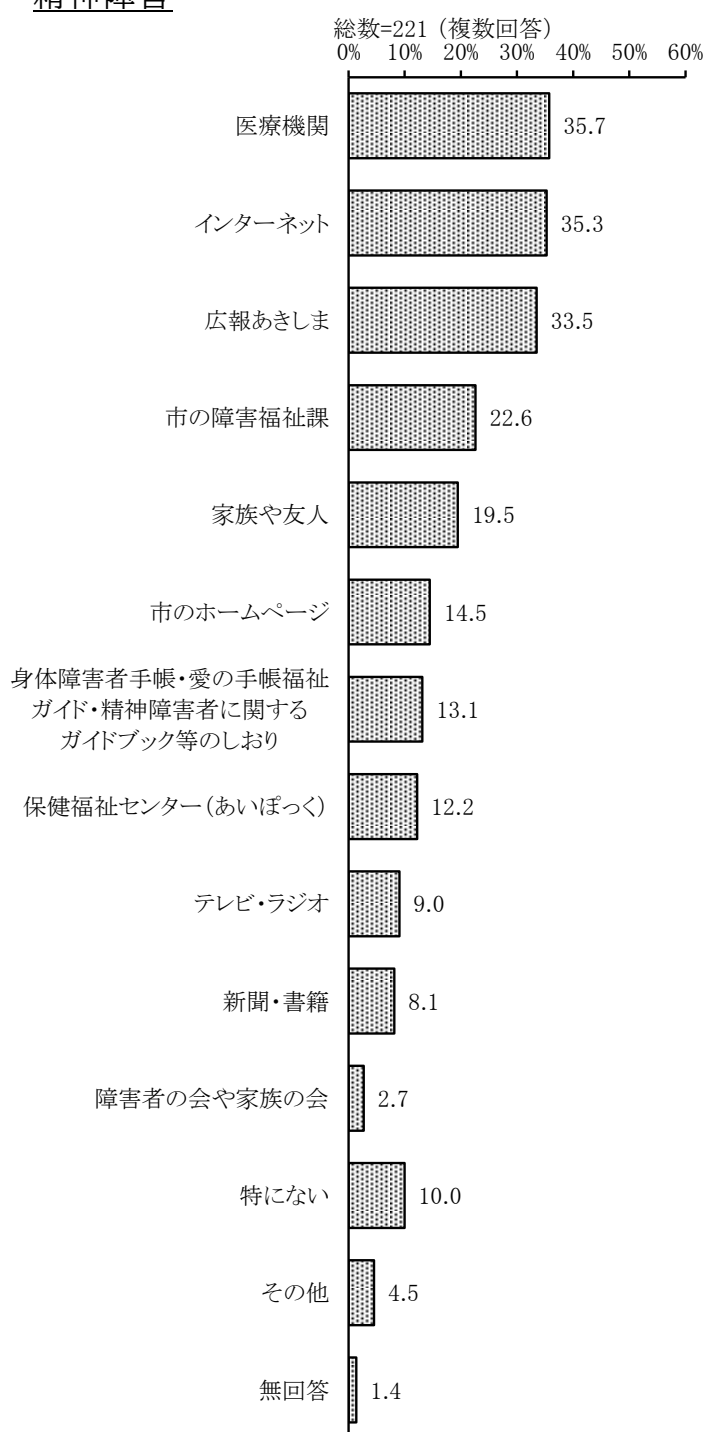
身体障害



知的障害



精神障害



年齢別に見ると、いずれの障害でも 18～39 歳では「インターネット」が他の年代と比較して多くなっています。

●福祉に関する情報の入手方法【年齢別】

		全体	広報あきしま	身体障害者手帳・愛の手帳福祉ガイド・精神障害者に関する	市のホームページ	市の障害福祉課	保健福祉センター（あいぼっく）	テレビ・ラジオ	インターネット	新聞・書籍	障害者の会や家族の会	医療機関	家族や友人	特にない	その他	無回答
全体		896 100.0	439 49.0	137 15.3	90 10.0	135 15.1	92 10.3	104 11.6	147 16.4	104 11.6	23 2.6	171 19.1	165 18.4	133 14.8	26 2.9	45 5.0
年齢別	身体障害・18～39歳	20 100.0	10 50.0	2 10.0	- -	4 20.0	2 10.0	- -	8 40.0	- -	1 5.0	6 30.0	5 25.0	3 15.0	- -	- -
	身体障害・40～64歳	79 100.0	41 51.9	16 20.3	10 12.7	11 13.9	9 11.4	9 11.4	18 22.8	6 7.6	3 3.8	9 11.4	13 16.5	13 16.5	1 1.3	5 6.3
	身体障害・65歳以上	465 100.0	269 57.8	73 15.7	41 8.8	56 12.0	43 9.2	67 14.4	32 6.9	77 16.6	12 2.6	70 15.1	72 15.5	74 15.9	12 2.6	31 6.7
	知的障害・18～39歳	74 100.0	29 39.2	13 17.6	4 5.4	15 20.3	7 9.5	5 6.8	17 23.0	- -	2 2.7	9 12.2	31 41.9	10 13.5	3 4.1	1 1.4
	知的障害・40～64歳	40 100.0	16 40.0	10 25.0	3 7.5	8 20.0	5 12.5	3 7.5	1 2.5	2 5.0	1 2.5	3 7.5	7 17.5	5 12.5	- -	2 5.0
	知的障害・65歳以上	6 100.0	3 50.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	- -	- -	- -	- -	1 16.7	2 33.3	- -	- -
	精神障害・18～39歳	53 100.0	10 18.9	8 15.1	7 13.2	11 20.8	4 7.5	3 5.7	29 54.7	2 3.8	- -	23 43.4	19 35.8	6 11.3	1 1.9	- -
	精神障害・40～64歳	142 100.0	53 37.3	18 12.7	23 16.2	36 25.4	21 14.8	13 9.2	47 33.1	13 9.2	5 3.5	53 37.3	18 12.7	11 7.7	7 4.9	3 2.1
	精神障害・65歳以上	26 100.0	11 42.3	3 11.5	2 7.7	3 11.5	2 7.7	4 15.4	2 7.7	3 11.5	1 3.8	3 11.5	6 23.1	5 19.2	2 7.7	- -

6. 日中活動や仕事について

18歳以上の方にお聞きしました。

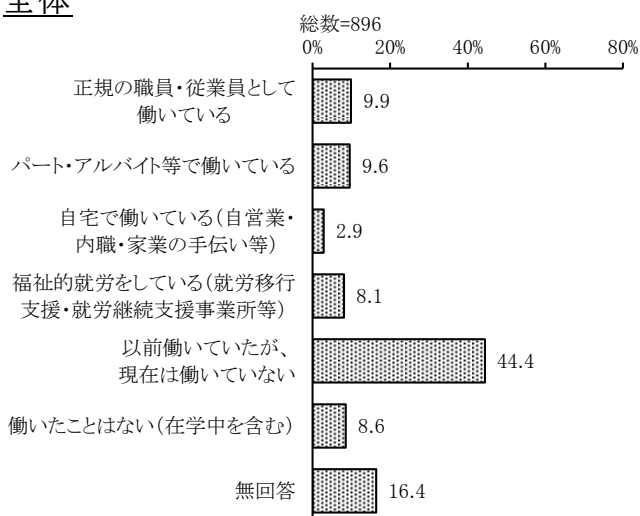
(1) 就労状況

問 18 あなたは現在、仕事をしていますか。仕事をしている方は働き方についてもお答えください。(○は1つ)

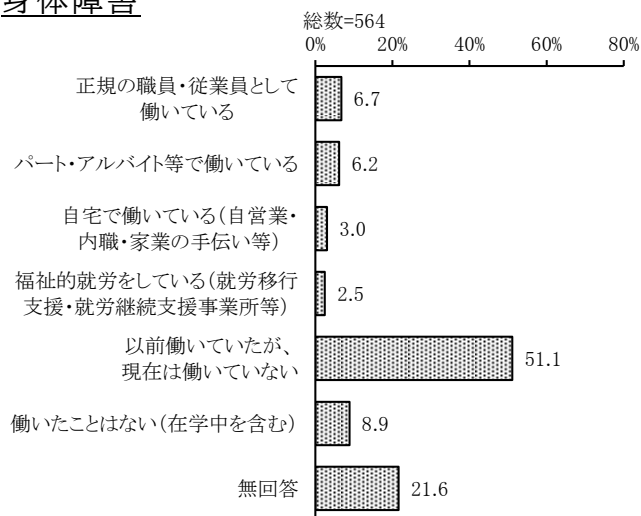
全体では、「以前働いていたが、現在は働いていない」が44.4%と最も多く、次いで「正規の職員・従業員として働いている」が9.9%、「パート・アルバイト等で働いている」が9.6%、「働いたことはない(在学中も含む)」が8.6%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「福祉的就労をしている(就労移行支援・就労継続支援事業所等)」が最も多く、「パート・アルバイト等で働いている」が他の障害と比較して多くなっています。

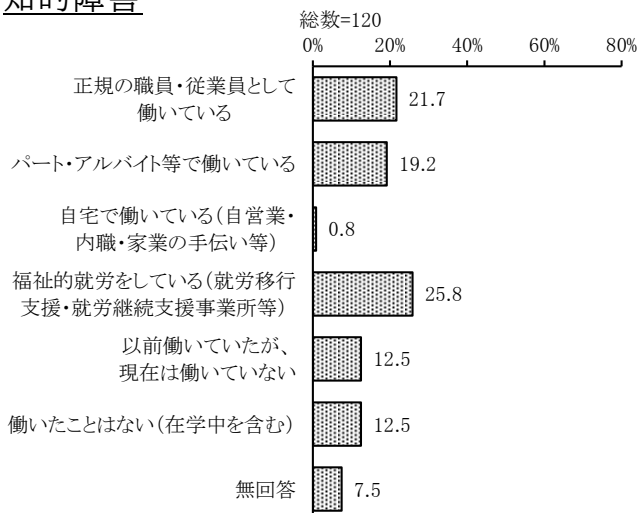
全体



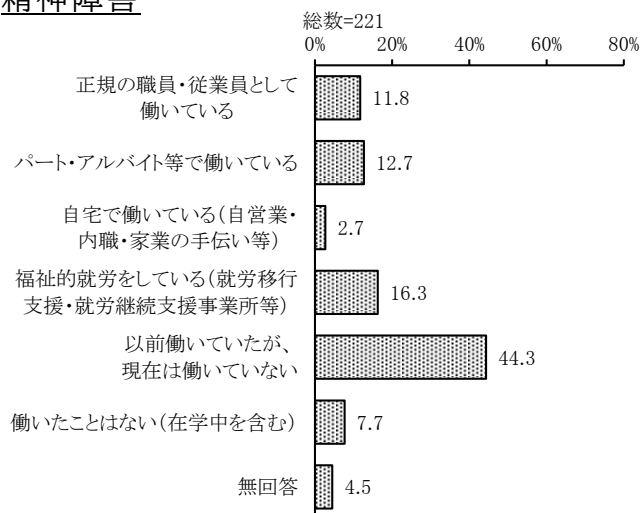
身体障害



知的障害



精神障害



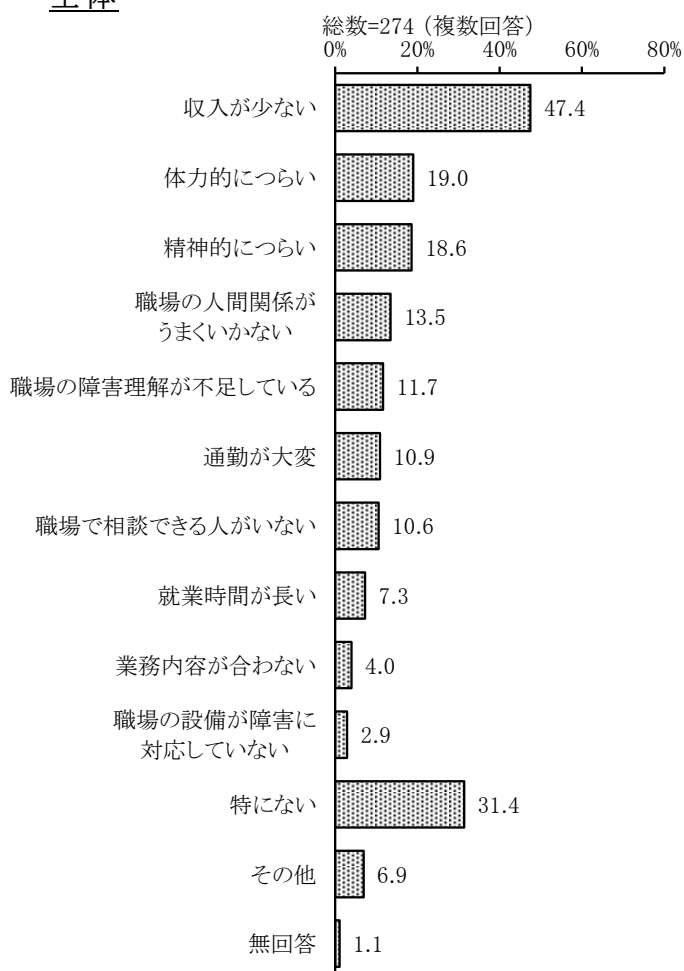
(2) 仕事をする上で困っていること

問 19 問 18 で「働いている（１～４）」と回答した方にお聞きします。あなたが仕事をする上で困っていることは何ですか。（あてはまるもの全てに○）

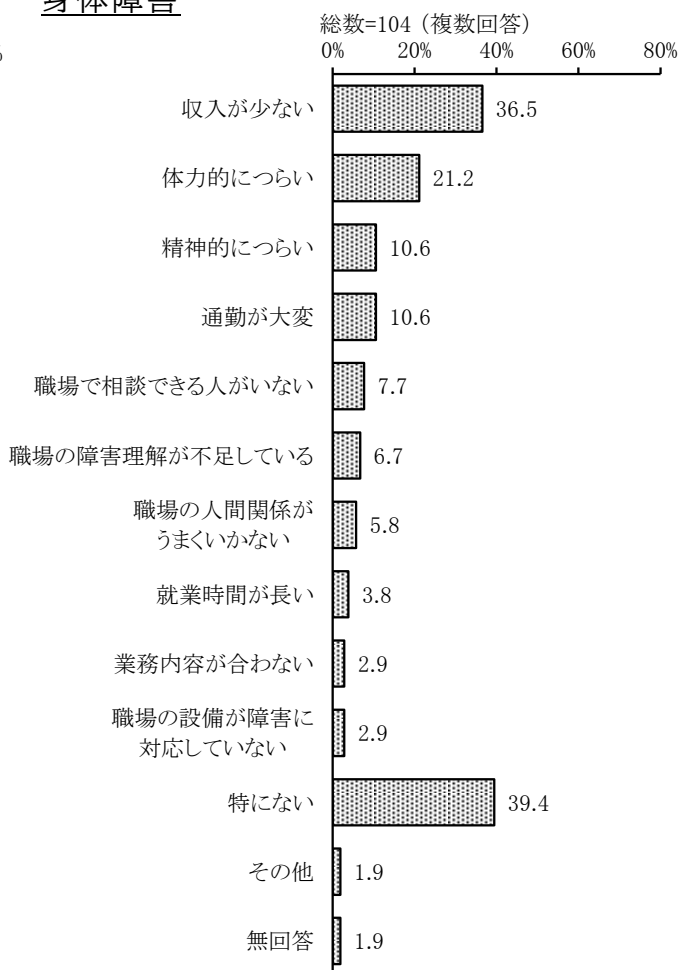
全体では、「収入が少ない」が 47.4% と最も多く、次いで「体力的につらい」が 19.0%、「精神的につらい」が 18.6%、「職場の人間関係がうまくいかない」が 13.5% となっています。

障害別に見ると、精神障害では「収入が少ない」「精神的につらい」が他の障害と比較して多くなっています。

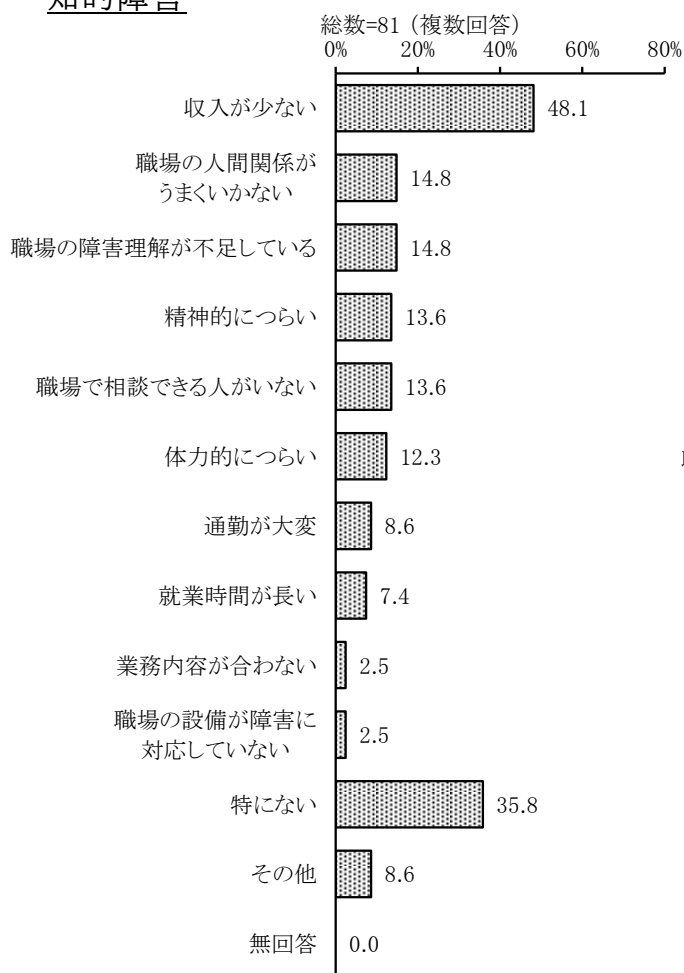
全体



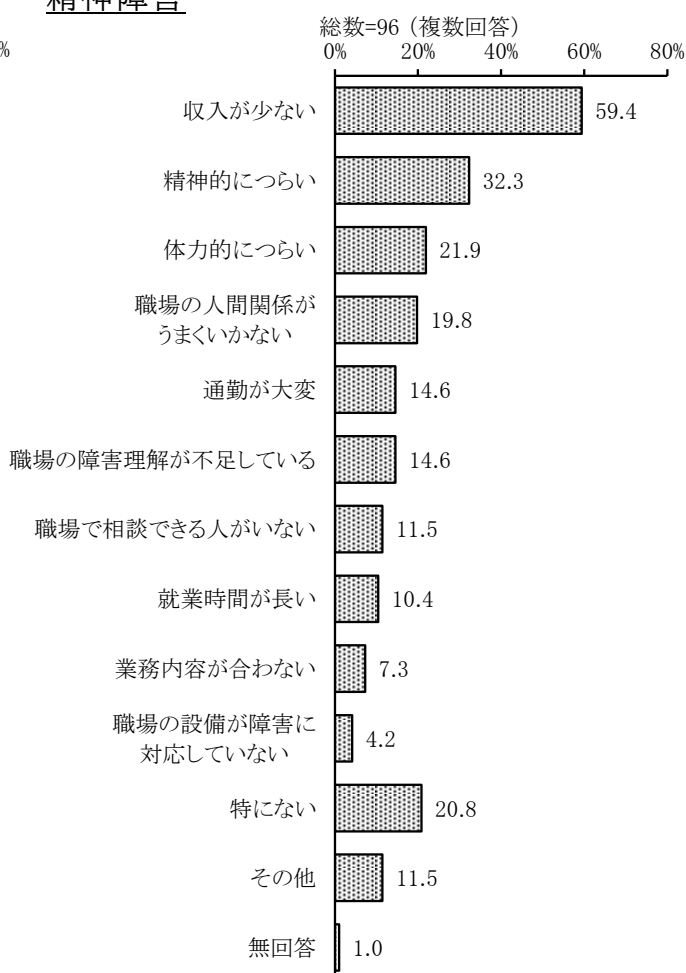
身体障害



知的障害



精神障害



就労状況別に見ると、パート・アルバイト等で働いている人や福祉的就労をしている人では「収入が少ない」が、正規の職員・従業員として働いている人では「精神的につらい」が他と比較して多くなっています。

●仕事をする上で困っていること【就労状況別】

		全体	収入が 少ない	体力的 につらい	精神的 につらい	業務 内容が 合わない	就業 時間が 長い	通勤 が大変	職場の 人間関係が うまくい かない	職場で 相談でき る人が いない	職場の 障害理 解が不 足して いる	職場の 設備が 障害に 対応し ていな い	特に ない	その他	無 回 答
全体		274 100.0	130 47.4	52 19.0	51 18.6	11 4.0	20 7.3	30 10.9	37 13.5	29 10.6	32 11.7	8 2.9	86 31.4	19 6.9	3 1.1
就 労 状 況	正規の職員・従業員 として働いている	89 100.0	30 33.7	15 16.9	22 24.7	7 7.9	10 11.2	16 18.0	17 19.1	13 14.6	15 16.9	4 4.5	35 39.3	4 4.5	2 2.2
	パート・アルバイト等で 働いている	86 100.0	46 53.5	19 22.1	14 16.3	3 3.5	6 7.0	8 9.3	12 14.0	13 15.1	11 12.8	2 2.3	22 25.6	10 11.6	1 1.2
	自宅で働いている（自営業・内職・ 家業の手伝い等）	26 100.0	10 38.5	7 26.9	3 11.5	- -	1 3.8	- -	2 7.7	1 3.8	1 3.8	- -	10 38.5	1 3.8	- -
	福祉的就労をしている（就労移行 支援・就労継続支援事業所等）	73 100.0	44 60.3	11 15.1	12 16.4	1 1.4	3 4.1	6 8.2	6 8.2	2 2.7	5 6.8	2 2.7	19 26.0	4 5.5	- -

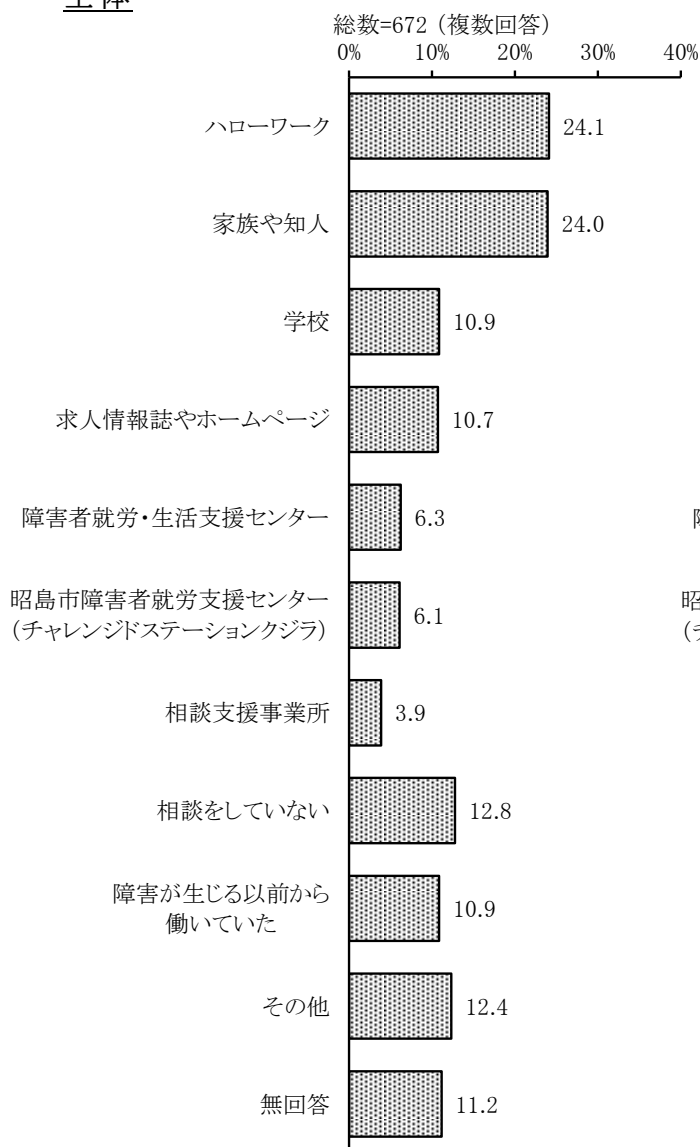
(3) 仕事を探す際に相談した人や場所

問 20 問 18 で「働いている、または、以前働いていた（１～５）」と回答した方にお聞きします。あなたが仕事を探す際、どのような人や場所に相談しましたか。（あてはまるもの全てに○）

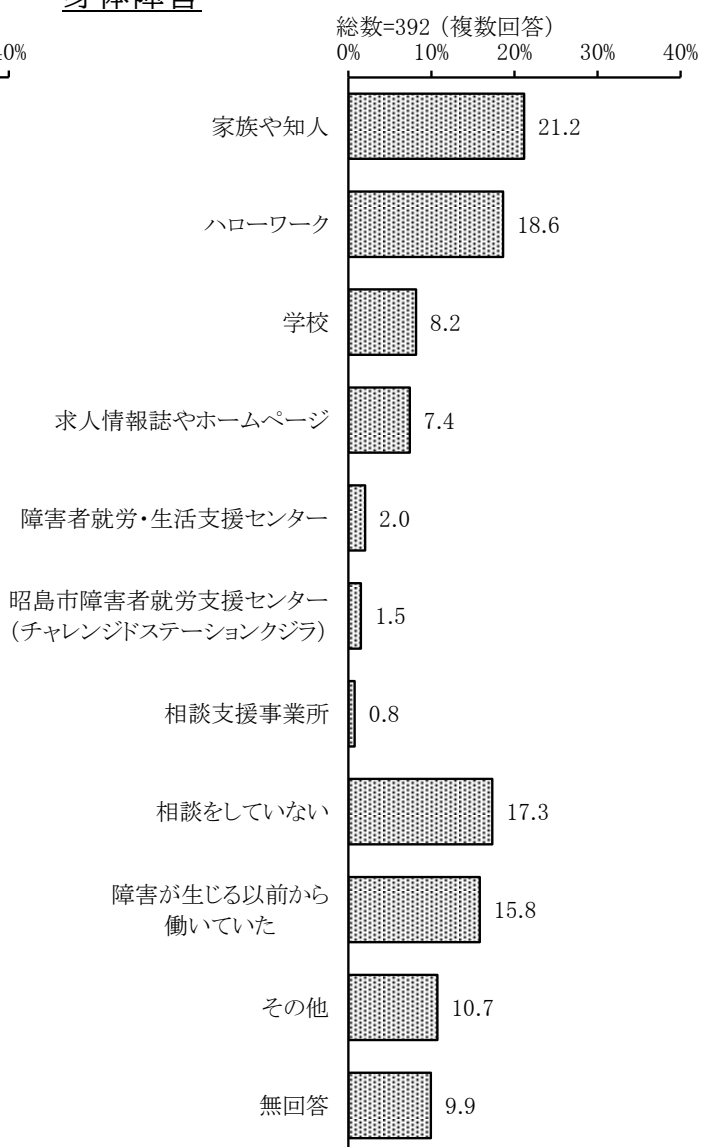
全体では、「ハローワーク」が 24.1% と最も多く、次いで「家族や知人」が 24.0%、「学校」が 10.9%、「求人情報誌やホームページ」が 10.7% となっています。

障害別に見ると、身体障害では「家族や知人」が、知的障害では「家族や知人」「学校」が最も多くなっています。

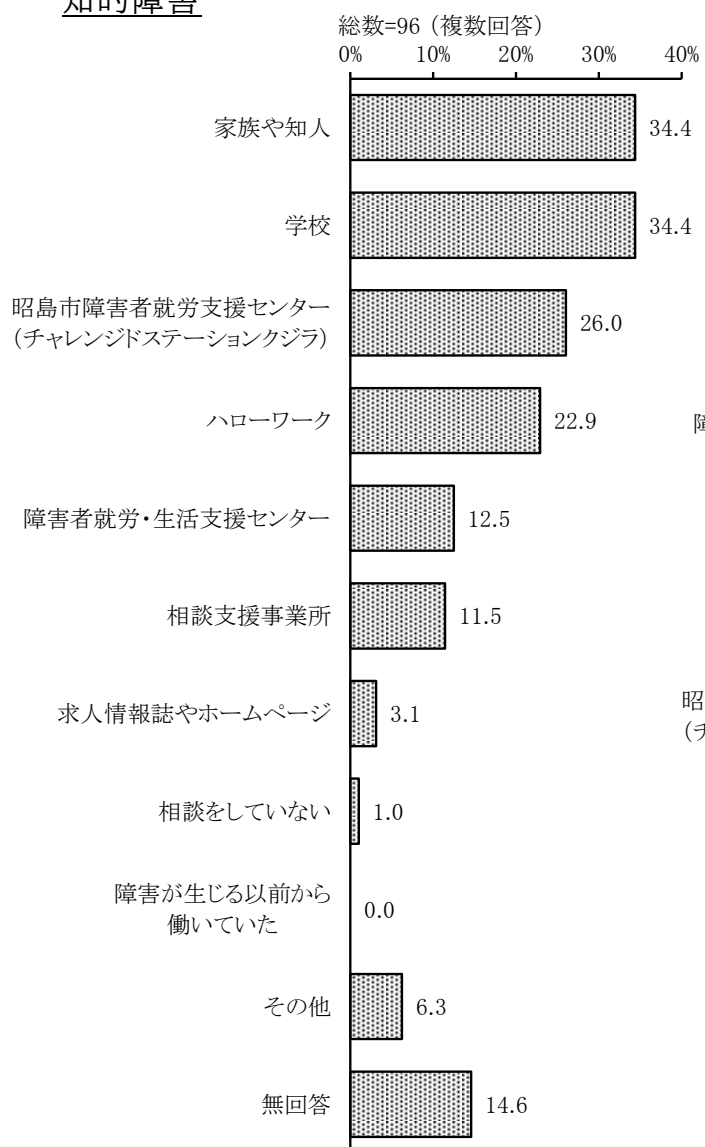
全体



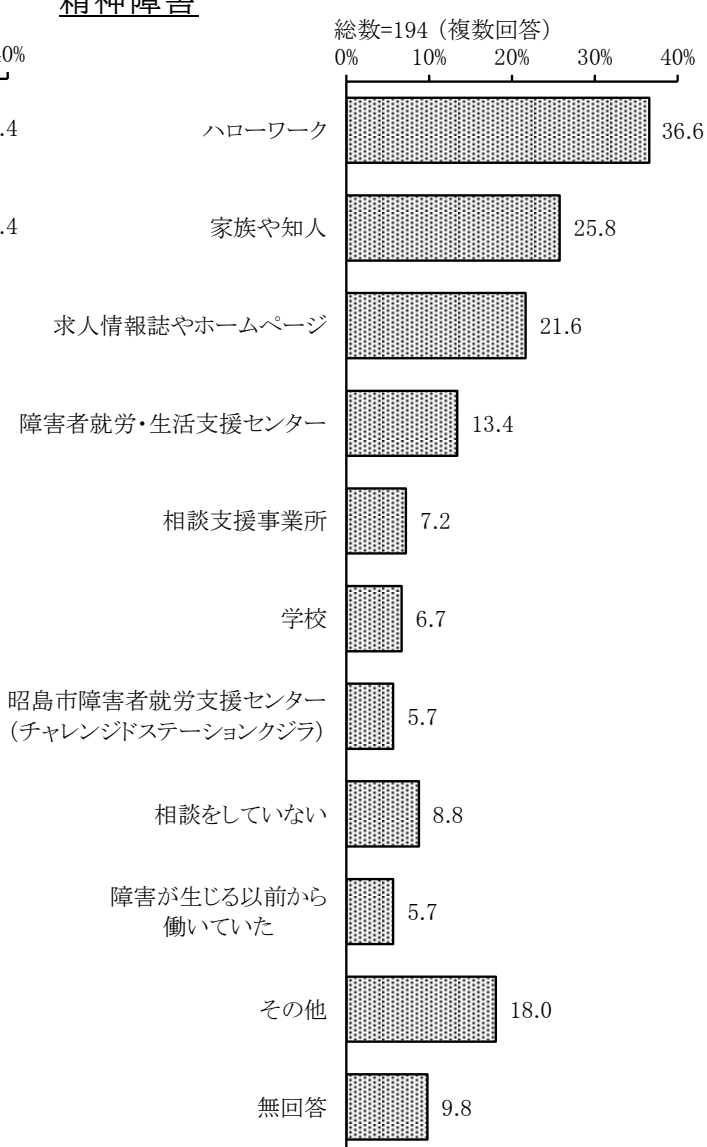
身体障害



知的障害



精神障害



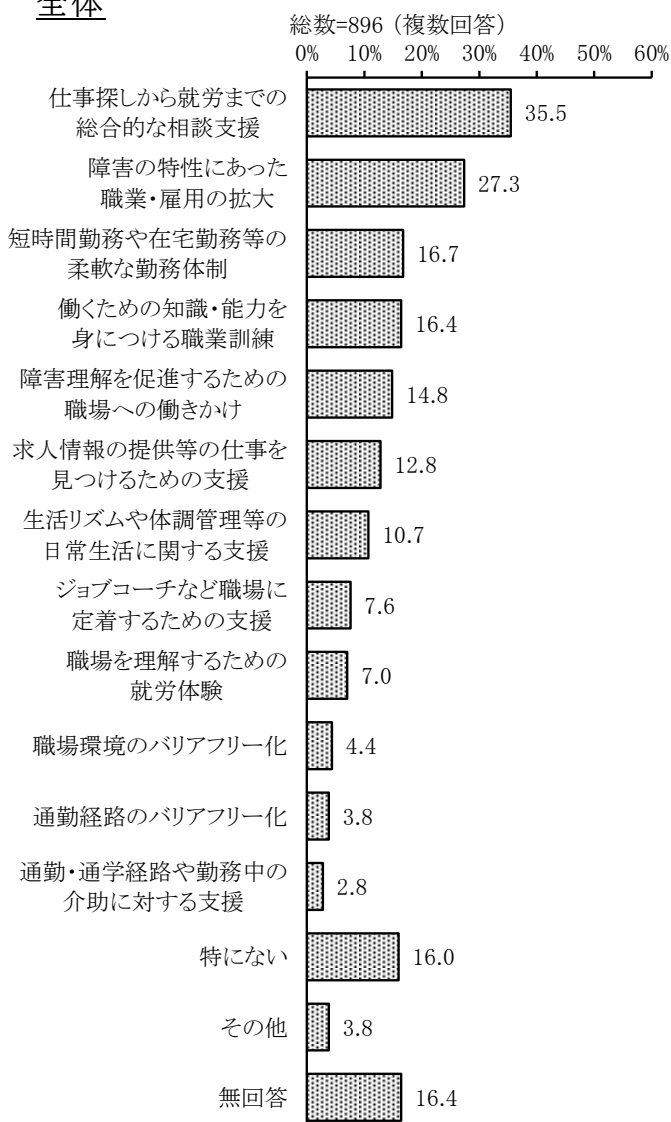
(4) 働くために必要な支援

問 21 あなたは、障害のあるかたが働くためにはどのような支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

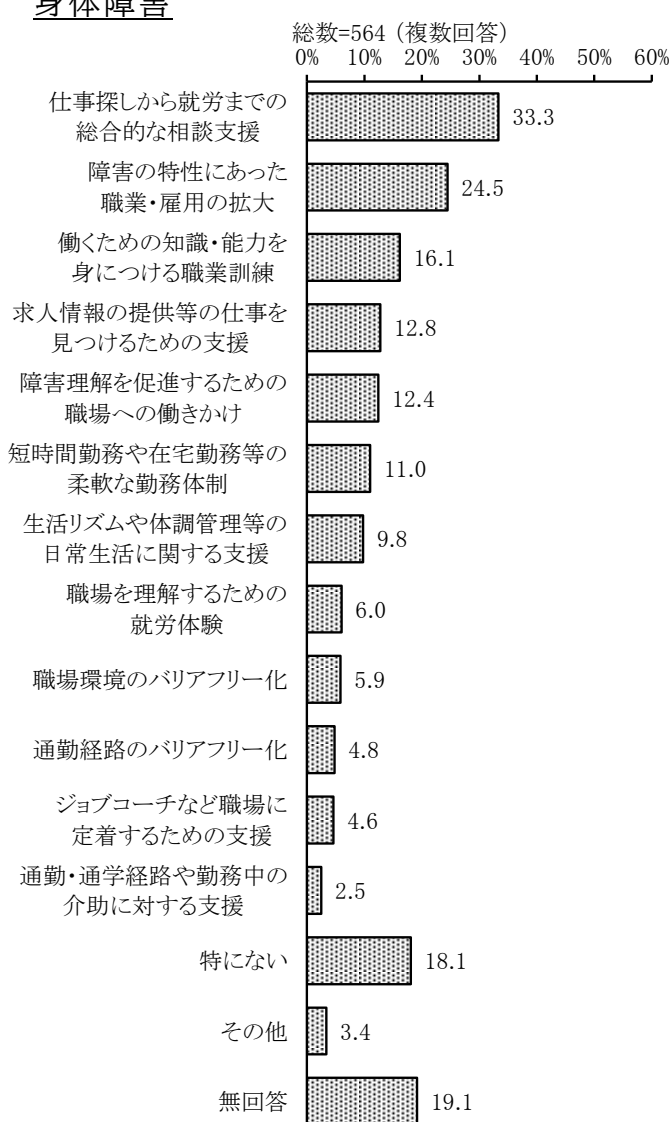
全体では、「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」が 35.5%と最も多く、次いで「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」が 27.3%、「短時間勤務や在宅勤務等の柔軟な勤務体制」が 16.7%、「働くための知識・能力を身につける職業訓練」が 16.4%となっています。

障害別に見ると、精神障害では「短時間勤務や在宅勤務等の柔軟な勤務体制」が他の障害と比較して多くなっています。

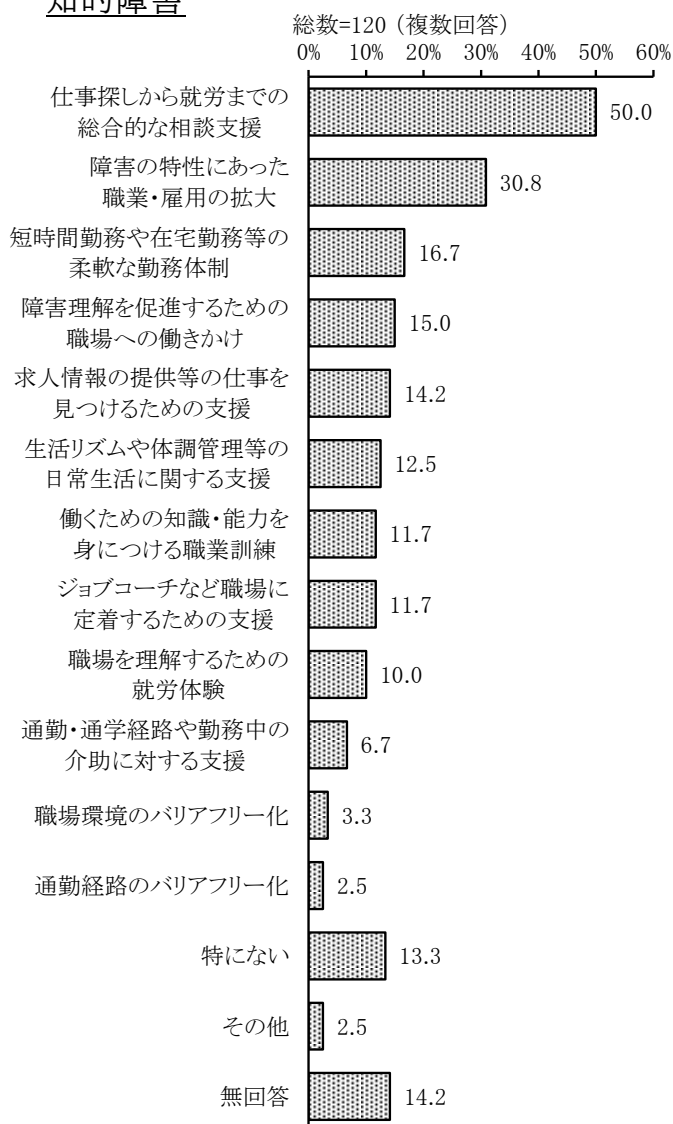
全体



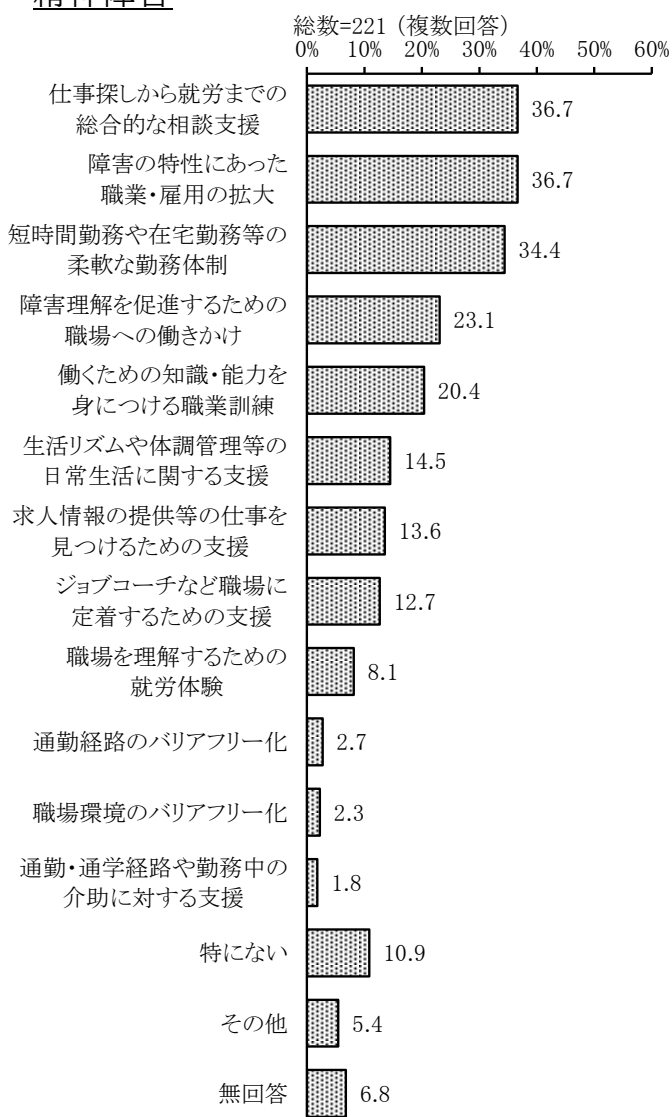
身体障害



知的障害



精神障害



※ジョブコーチとは、障害のあるかたが就職を目指して実習を行っている場や職場で、仕事に慣れるための支援や同僚への障害理解の促進等を行う人のことです。

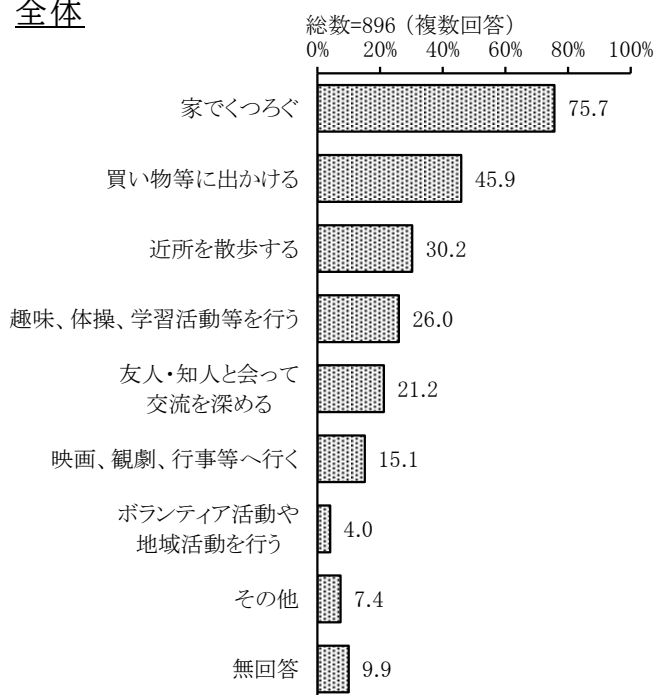
(5) 余暇の過ごし方

問 22 あなたは仕事や学校以外の自由な時間をどのように過ごしていますか。
(あてはまるもの全てに○)

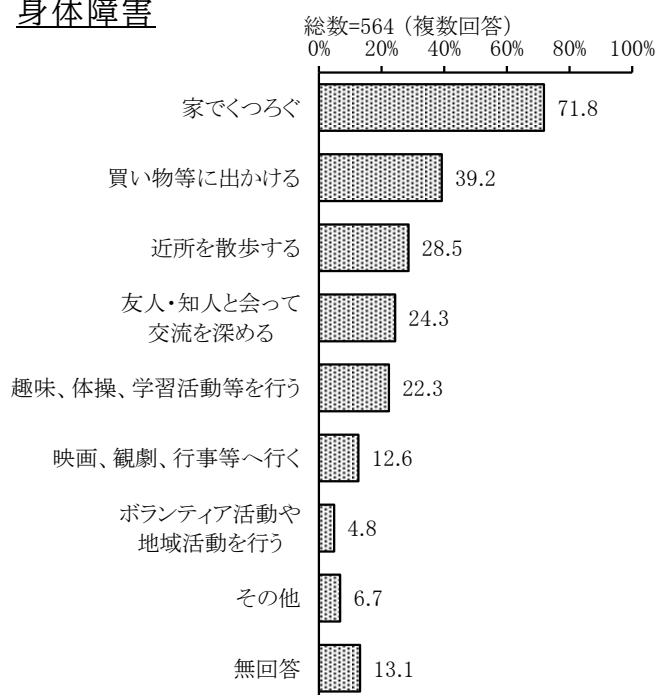
全体では、「家でくつろぐ」が75.7%と最も多く、次いで「買い物等に出かける」が45.9%、「近所を散歩する」が30.2%、「趣味、体操、学習活動等を行う」が26.0%となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。

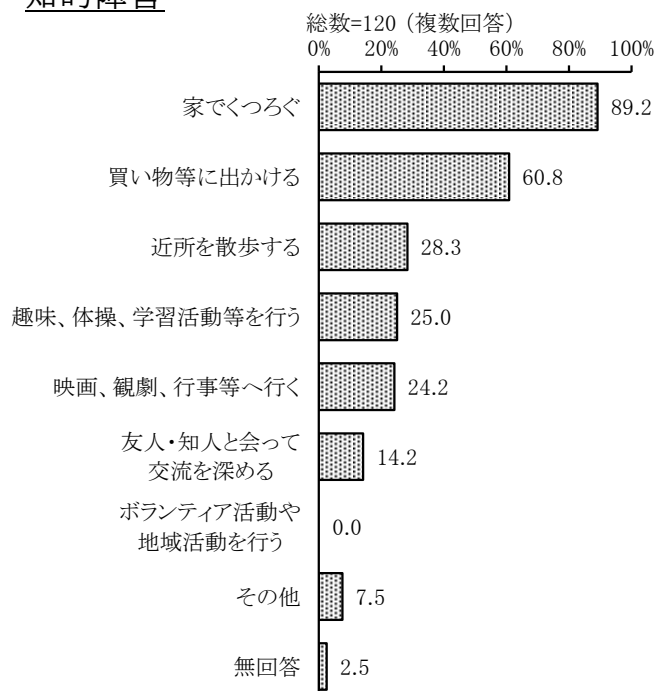
全体



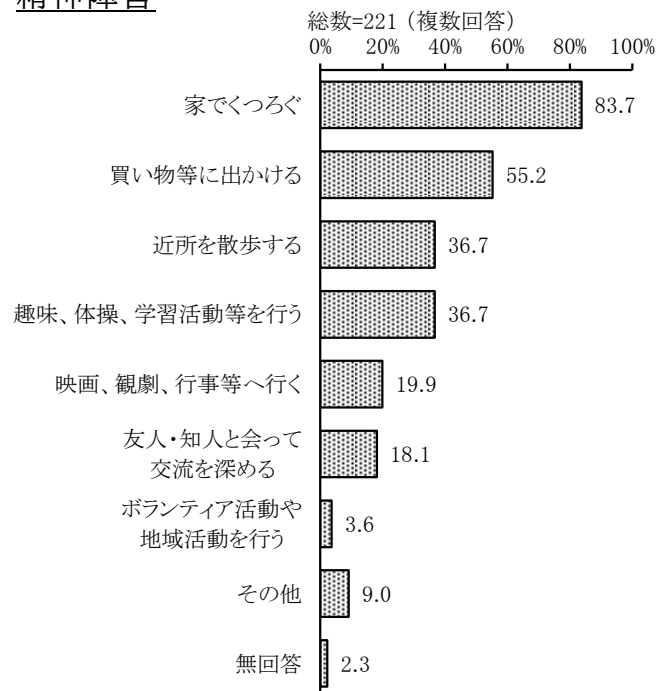
身体障害



知的障害



精神障害



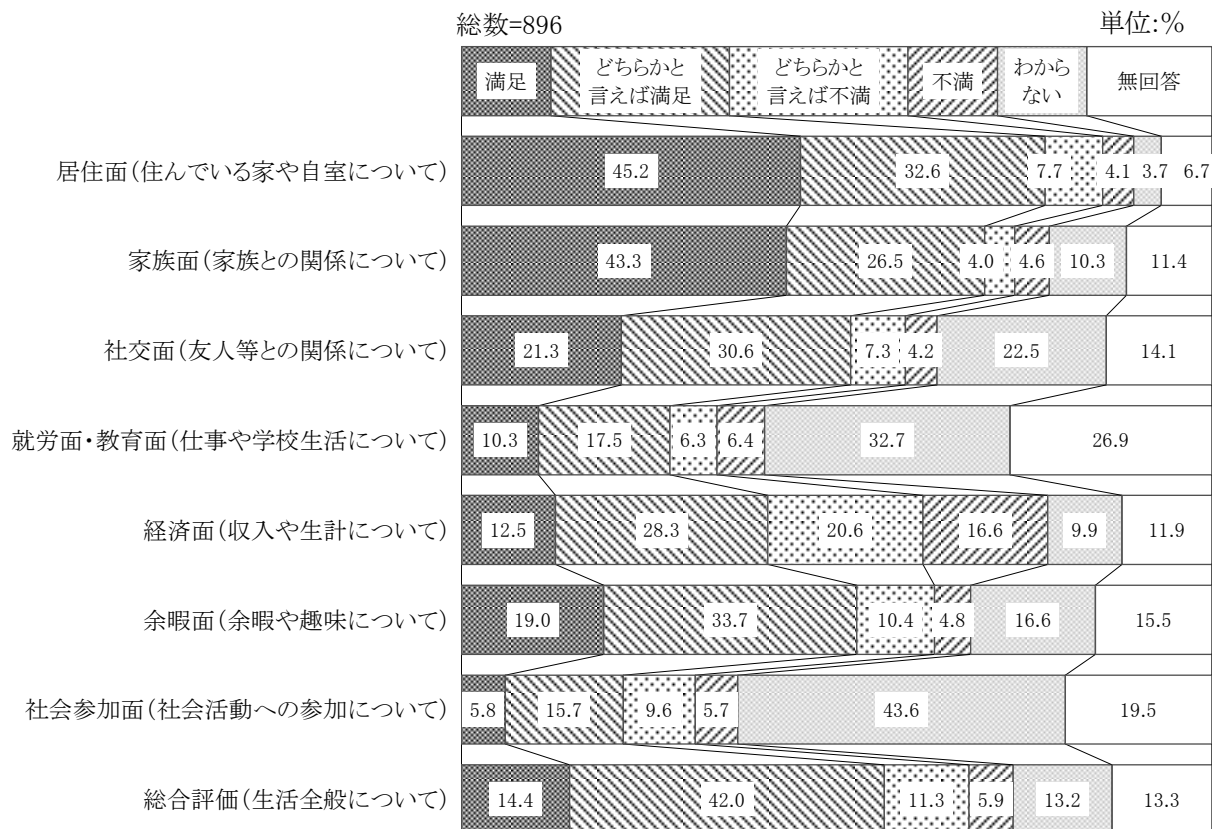
(6) 日常生活の満足度

問 23 あなたは、次の日常生活のそれぞれの項目について、どの程度満足していますか。(それぞれあてはまるもの1つに○)

『満足』(「満足」「どちらかと言えば満足」を合わせた割合)と『不満』(「不満」「どちらかと言えば不満」を合わせた割合)を比較すると、総合評価を含めた全8項目で『満足』が『不満』を上回っていますが、「経済面」「社会参加面」では両者の差はわずかとなっています。総合評価では『満足』が56.4%、『不満』が17.2%となっています。

『満足』は「居住面」が77.8%と最も多く、次いで「家族面」が69.8%、「余暇面」が52.7%、「社交面」51.9%となっています(「総合評価」は除きます。『不満』も同様です)。

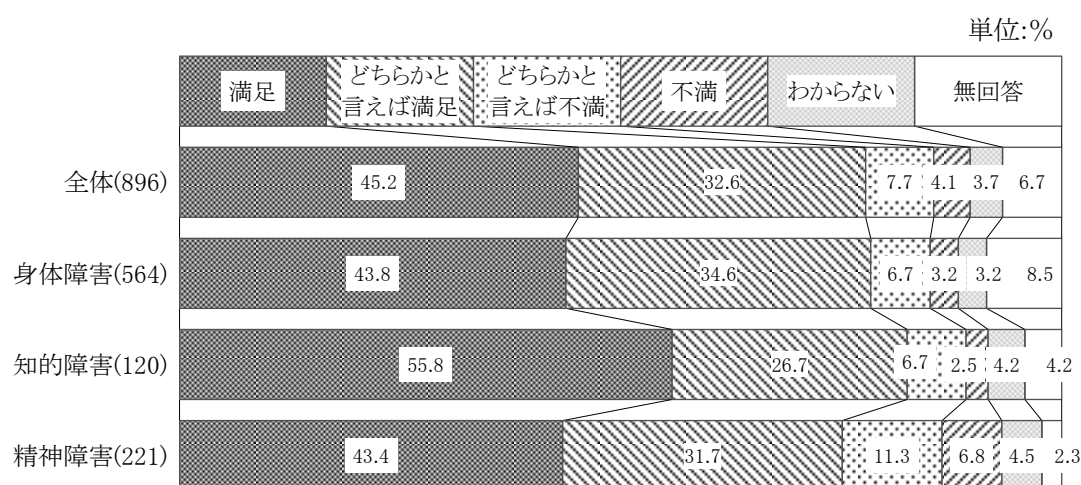
『不満』は「経済面」が37.2%と最も多く、次いで「社会参加面」が15.3%、「余暇面」が15.2%、「就労面・教育面」が12.6%となっています(実数から再計算しているため、四捨五入の関係で、『不満』の割合と「不満」「どちらかと言えば不満」の割合の合計とは数値が異なる場合があります)。



①居住面（住んでいる家や自室について）

全体では、「満足」が45.2%と最も多く、次いで「どちらかと言えは満足」が32.6%、「どちらかと言えは不満」が7.7%、「不満」が4.1%となっています。

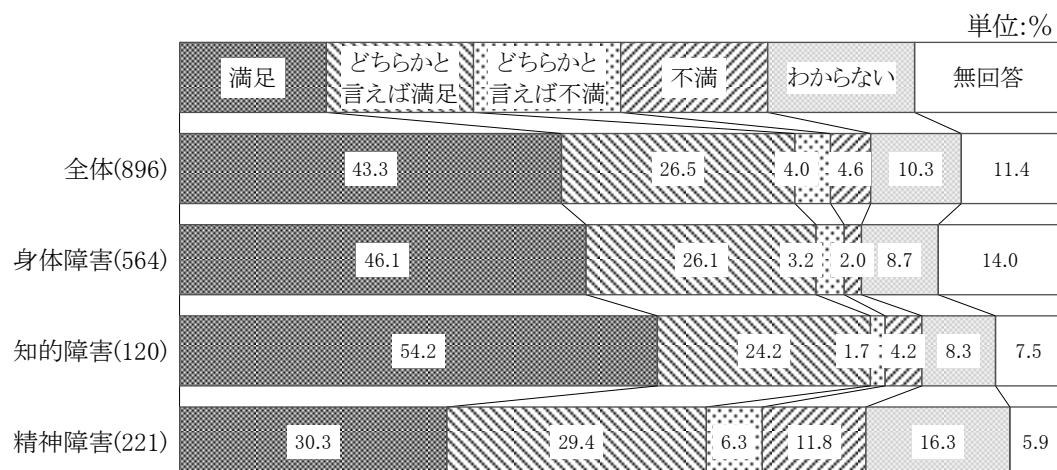
障害別に見ると、知的障害では「満足」が他の障害と比較して多くなっています。



②家族面（家族との関係について）

全体では、「満足」が43.3%と最も多く、次いで「どちらかと言えは満足」が26.5%、「不満」が4.6%、「どちらかと言えは不満」が4.0%となっています。

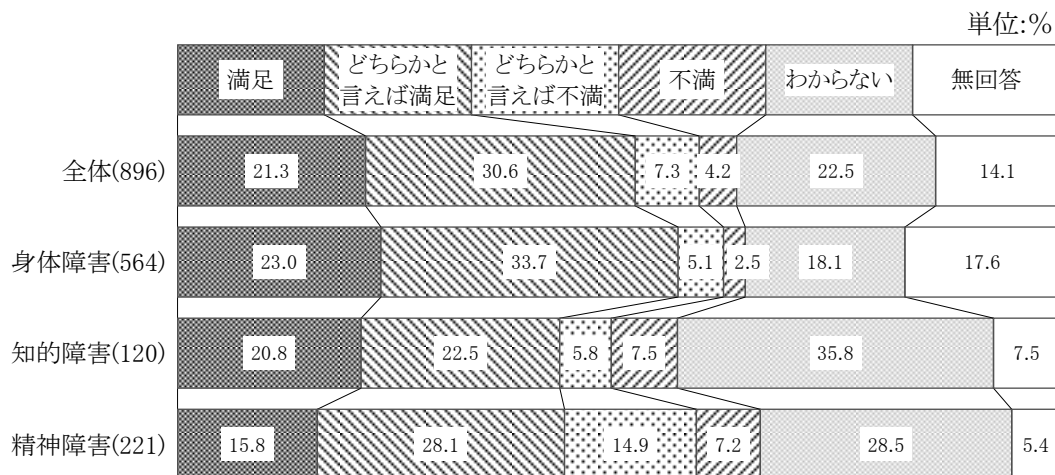
障害別に見ると、精神障害では「満足」が他と比較して少なくなっています。



③ 社交面（友人等との関係について）

全体では、「どちらかと言えば満足」が 30.6%と最も多く、次いで「満足」が 21.3%、「どちらかと言えば不満」が 7.3%、「不満」が 4.2%となっています。

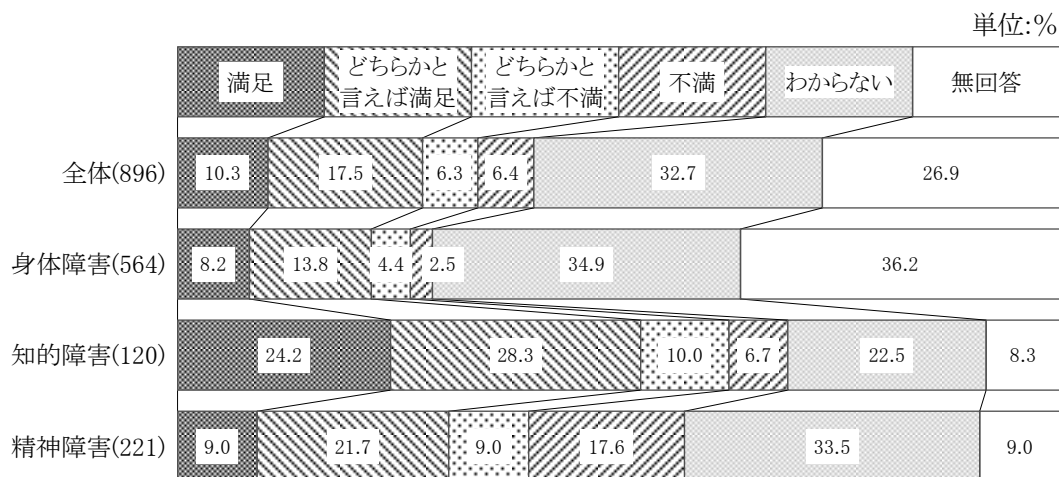
障害別に見ると、精神障害では「どちらかと言えば不満」が他の障害と比較して多くなっています。



④ 就労面・教育面（仕事や学校生活について）

全体では、「どちらかと言えば満足」が 17.5%と最も多く、次いで「満足」が 10.3%、「不満」が 6.4%、「どちらかと言えば不満」が 6.3%となっています。

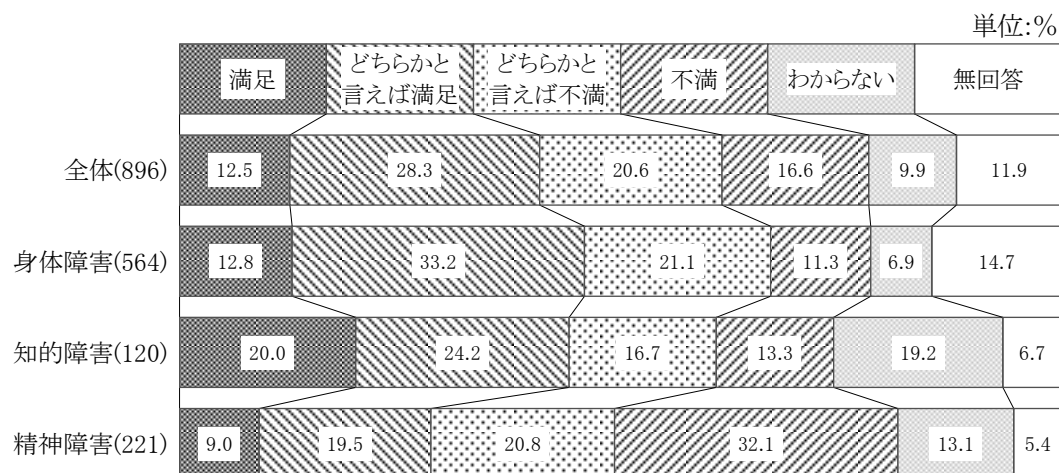
障害別に見ると、知的障害では「満足」「どちらかと言えば満足」が他の障害と比較して多くなっています。



⑤経済面（収入や生計について）

全体では、「どちらかと言えば満足」が 28.3%と最も多く、次いで「どちらかと言えば不満」が 20.6%、「不満」が 16.6%、「満足」が 12.5%となっています。

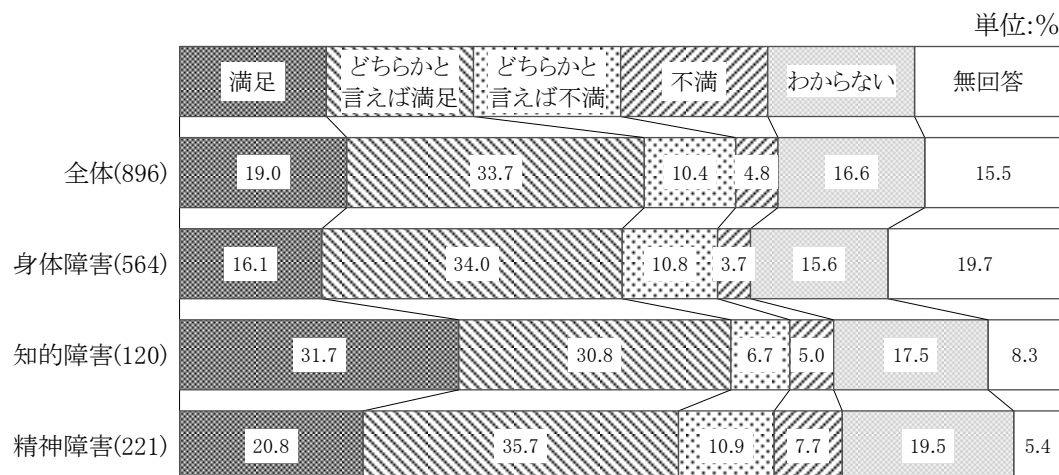
障害別に見ると、精神障害では「不満」が他の障害と比較して多くなっています。



⑥余暇面（余暇や趣味について）

全体では、「どちらかと言えば満足」が 33.7%と最も多く、次いで「満足」が 19.0%、「どちらかと言えば不満」が 10.4%、「不満」が 4.8%となっています。

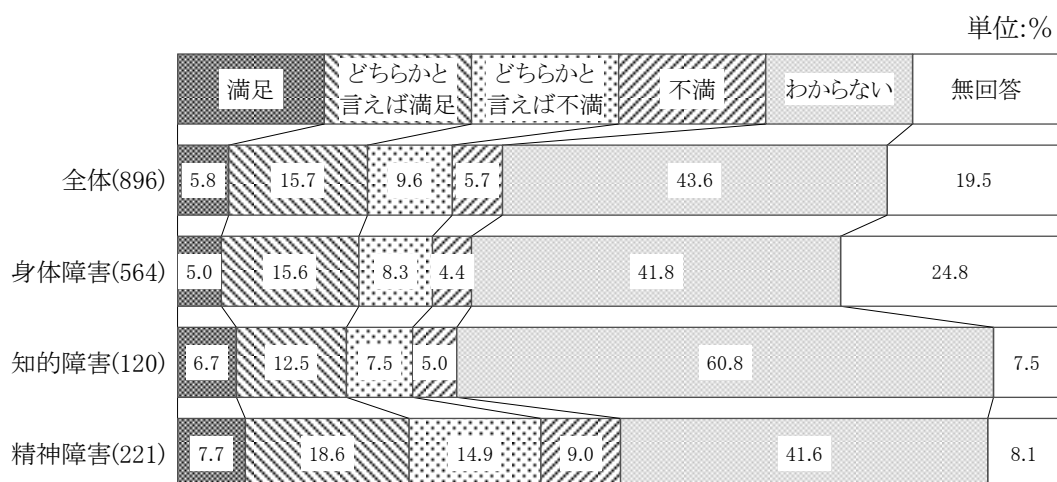
障害別に見ると、知的障害では「満足」が他の障害と比較して多くなっています。



⑦社会参加面（社会活動への参加について）

全体では、「どちらかと言えは満足」が 15.7%と最も多く、次いで「どちらかと言えは不満」が 9.6%、「満足」が 5.8%、「不満」が 5.7%となっています。

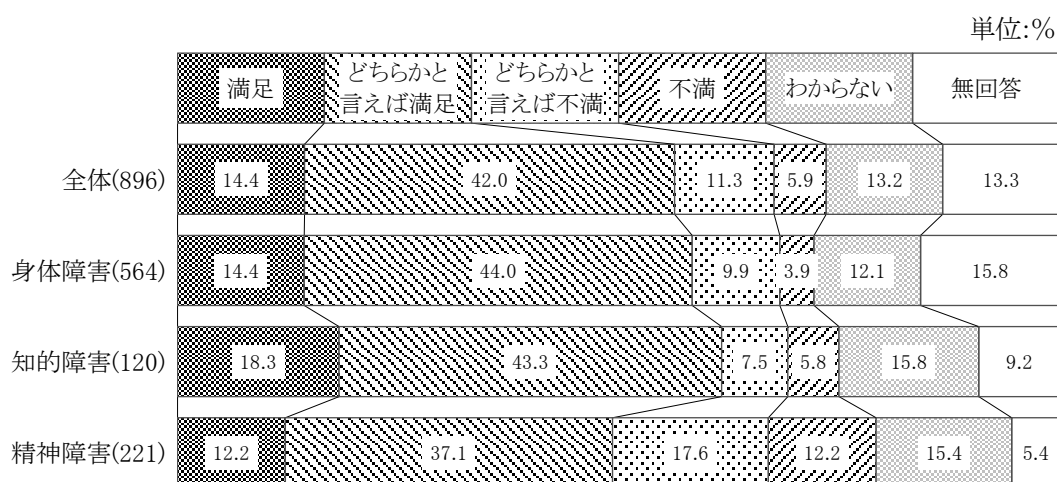
障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



⑧総合評価（生活全般について）

全体では、「どちらかと言えは満足」が 42.0%と最も多く、次いで「満足」が 14.4%、「どちらかと言えは不満」が 11.3%、「不満」が 5.9%となっています。

障害別に見ると、精神障害では「どちらかと言えは不満」「不満」が他の障害と比較して多くなっています。



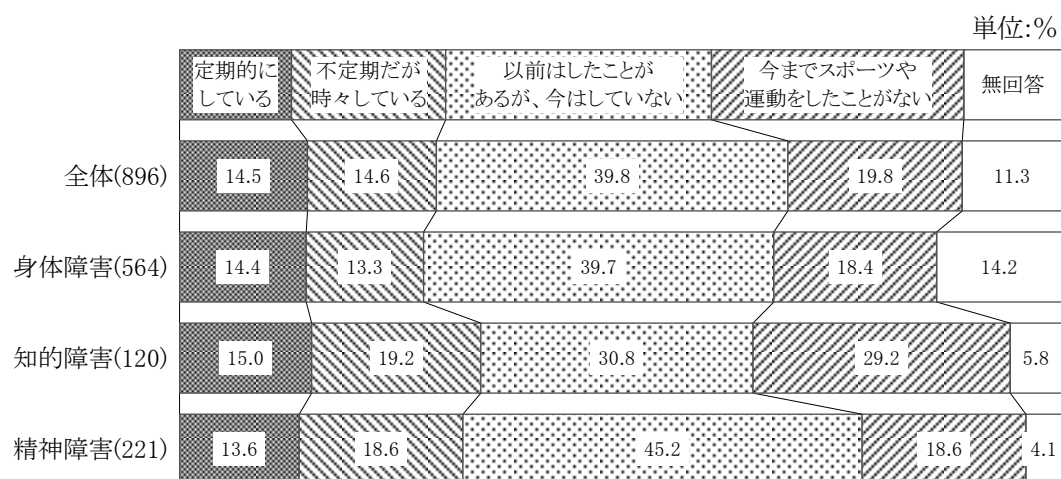
7. スポーツ・運動について

(1) スポーツや運動を行っているか

問 24 あなたは日頃、（学校等での授業を除き）スポーツや運動を行っていますか。（○は1つ）

全体では、「以前はしたことがあるが、今はしていない」が 39.8%と最も多く、次いで「今までスポーツや運動をしたことがない」が 19.8%、「不定期だが時々している」が 14.6%、「定期的に行っている」が 14.5%となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



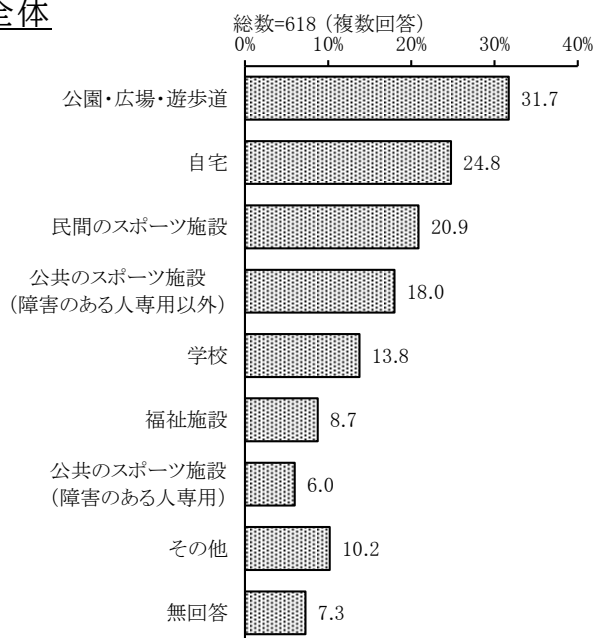
(2) スポーツや運動を行っている場所

問 25 問 24 で「スポーツや運動をしている、または、したことがある（１～３）」と回答した方にお聞きします。あなたが、スポーツや運動を行った場所はどこですか。（あてはまるもの全てに○）

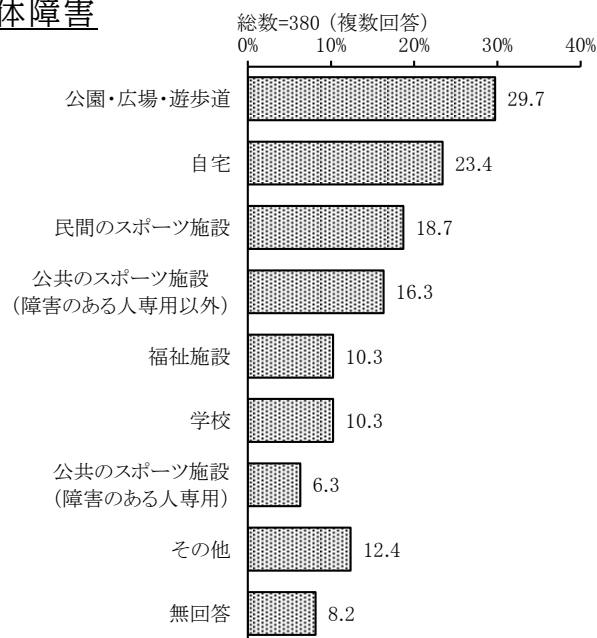
全体では、「公園・広場・遊歩道」が 31.7%と最も多く、次いで「自宅」が 24.8%、「民間のスポーツ施設」が 20.9%、「公共のスポーツ施設（障害のある人専用以外）」が 18.0%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「学校」も最も多くなっています。

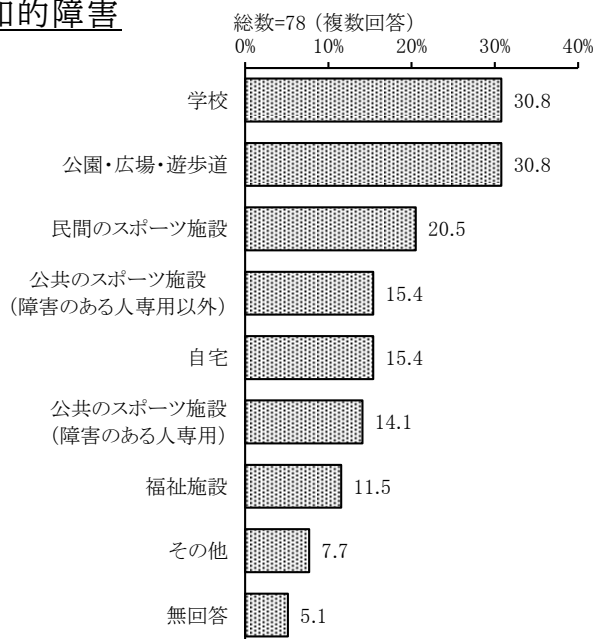
全体



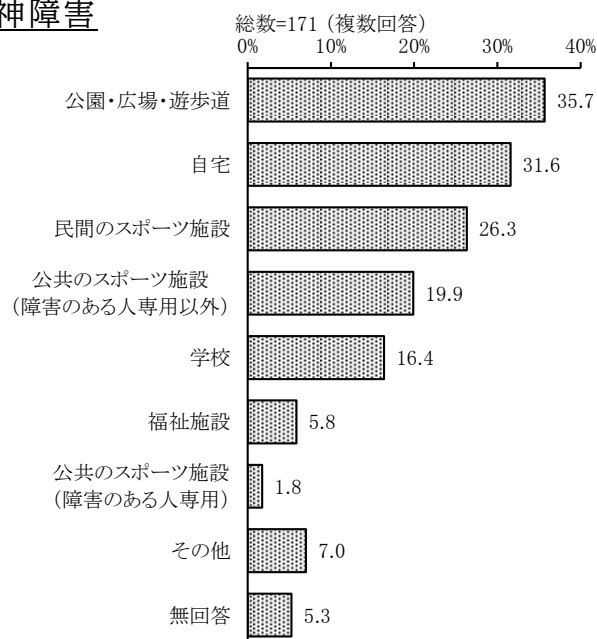
身体障害



知的障害



精神障害



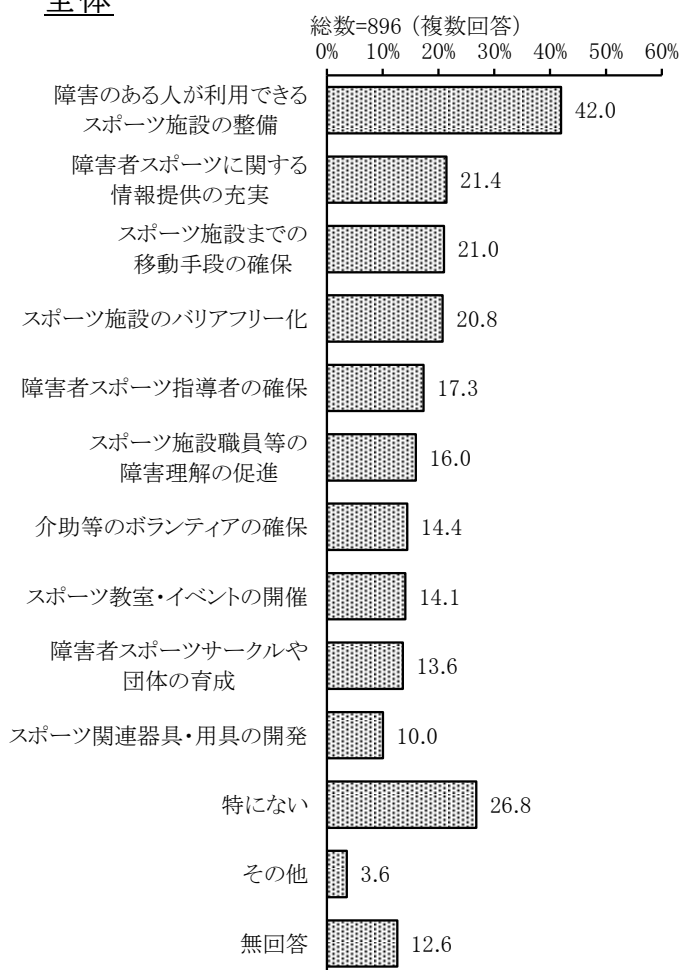
(3) スポーツや運動を行う上で必要なこと

問 26 あなたは、障害のあるかたがスポーツや運動を行う上でどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

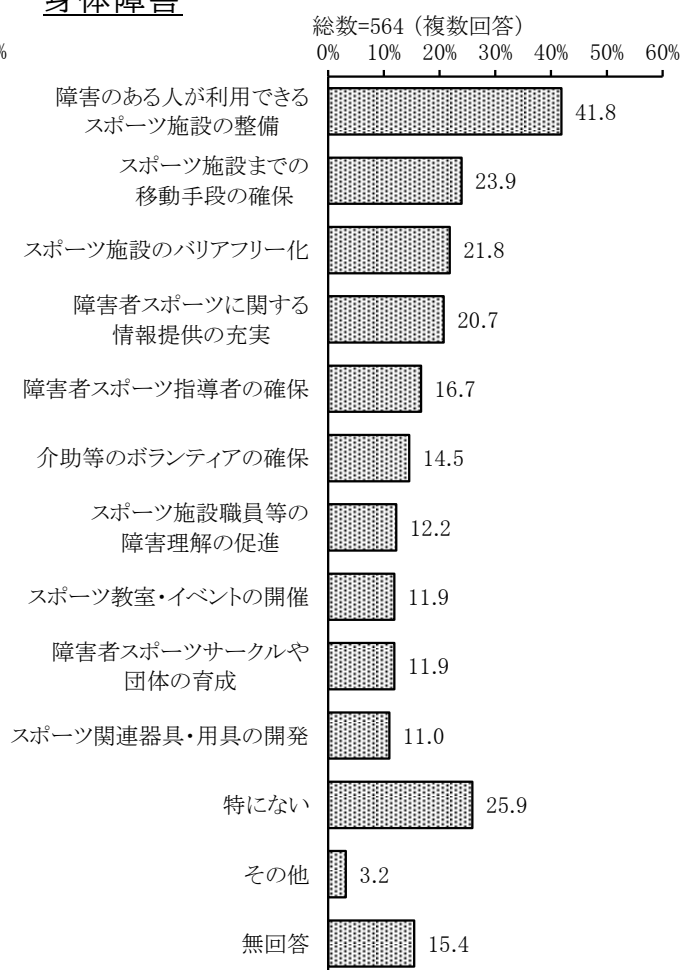
全体では、「障害のある人が利用できるスポーツ施設の整備」が42.0%と最も多く、次いで「障害者スポーツに関する情報提供の充実」が21.4%、「スポーツ施設までの移動手段の確保」が21.0%、「スポーツ施設のバリアフリー化」が20.8%となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。

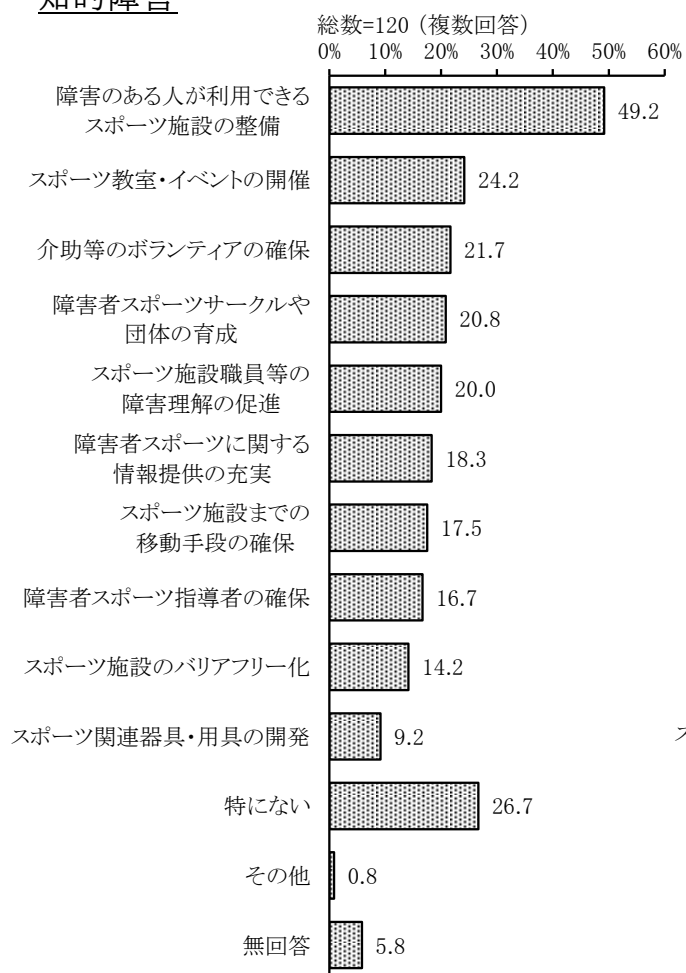
全体



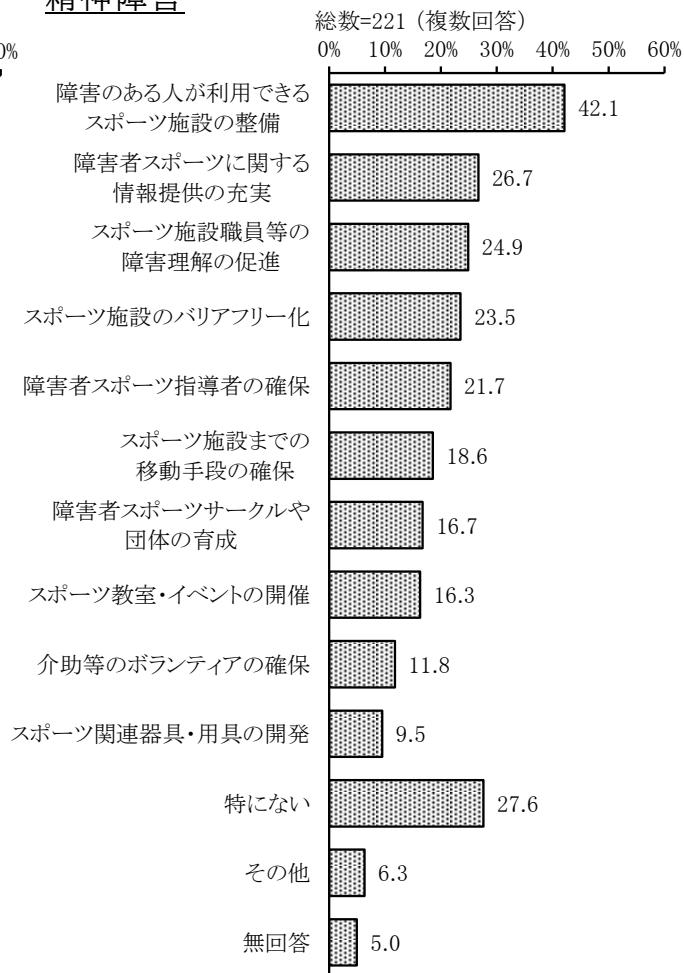
身体障害



知的障害



精神障害



8. 住まいについて

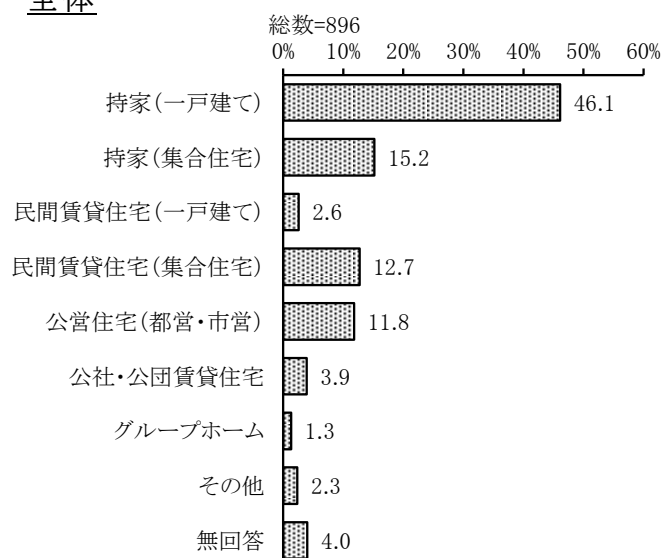
(1) 住まいの種類

問 31 現在、あなたはどのようなところにお住まいですか。(○は1つ)

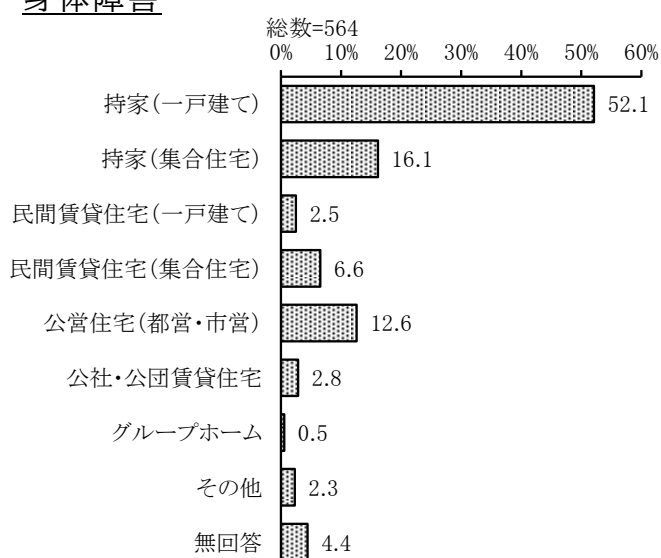
全体では、「持家（一戸建て）」が46.1%と最も多く、次いで「持家（集合住宅）」が15.2%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が12.7%、「公営住宅（都営・市営）」が11.8%となっています。

障害別に見ると、精神障害では「民間賃貸住宅（集合住宅）」が他の障害と比較して多くなっています。

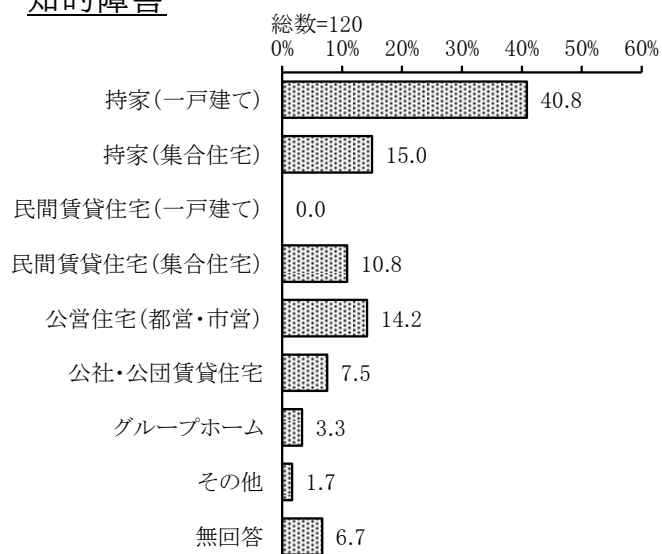
全体



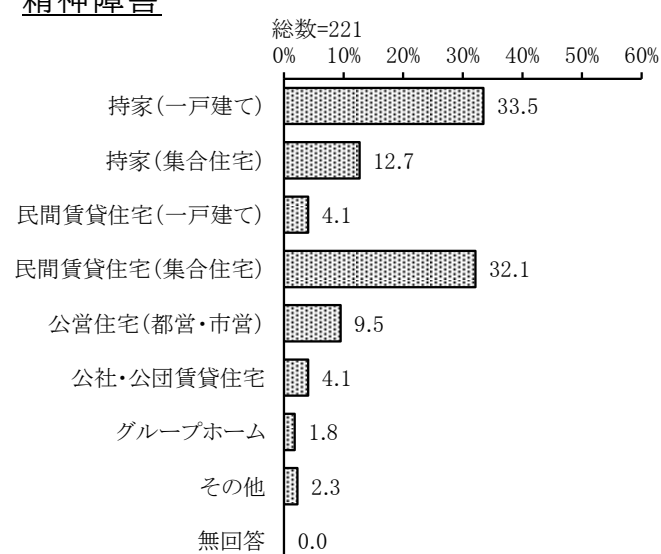
身体障害



知的障害



精神障害



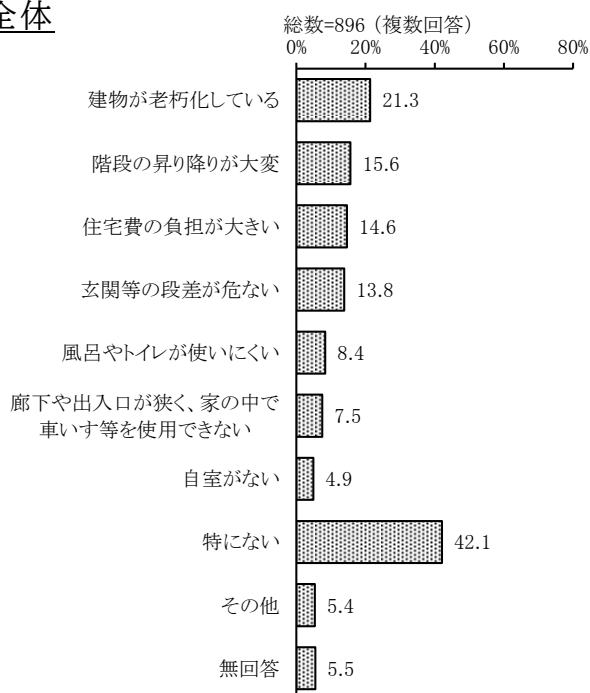
(2) 住まいで困っていること

問 32 あなたが現在の住まいで困っていることは何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

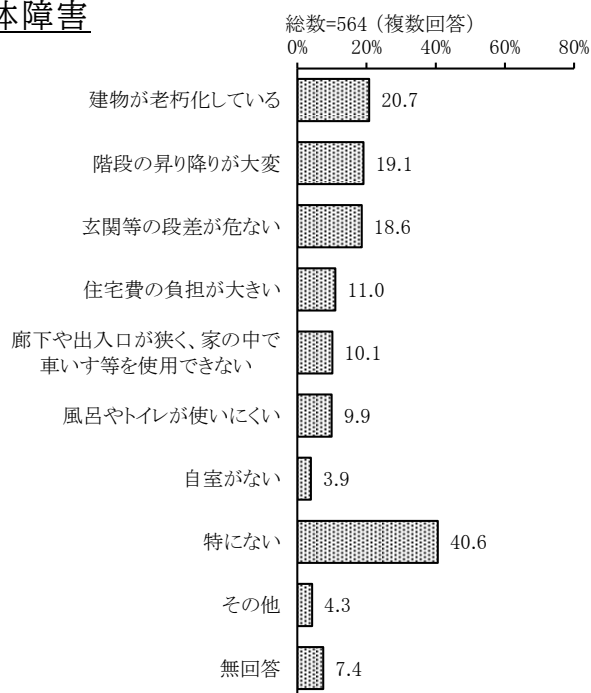
全体では、「建物が老朽化している」が 21.3%と最も多く、次いで「階段の昇り降りが大変」が 15.6%、「住宅費の負担が大きい」が 14.6%、「玄関等の段差が危ない」が 13.8%となっています。

障害別に見ると、「住宅費の負担が大きい」という回答は知的障害では最も多く、精神障害では他の障害と比較して多くなっています。

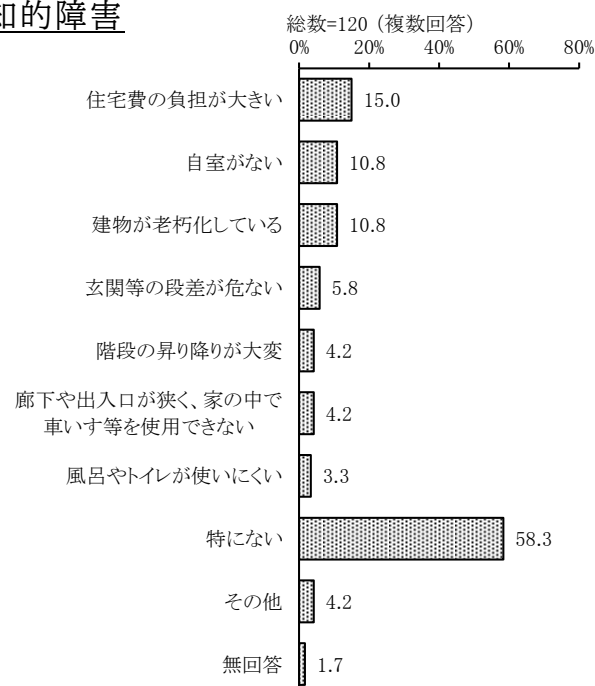
全体



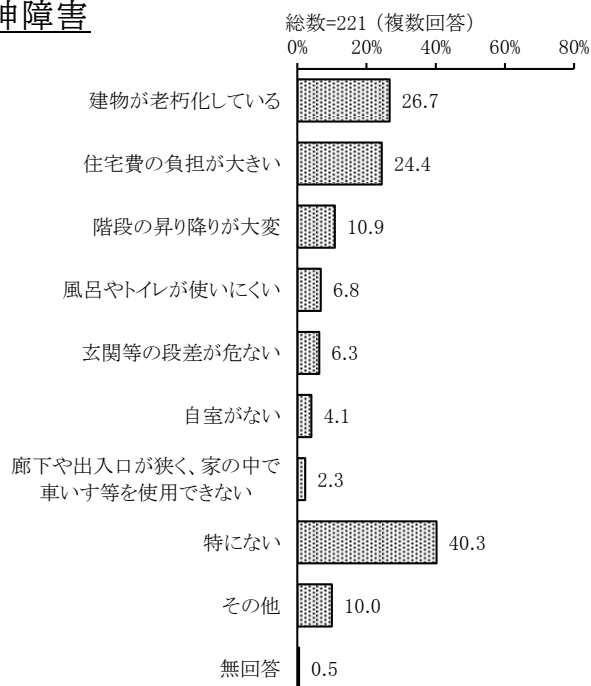
身体障害



知的障害



精神障害



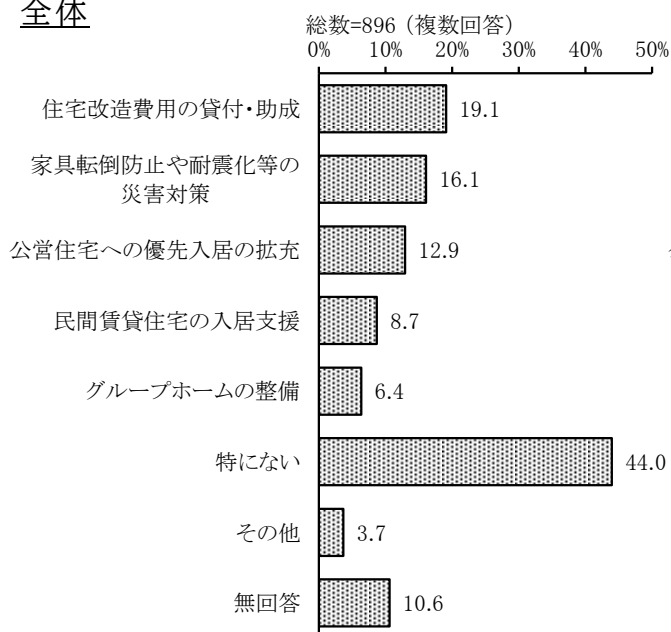
(3) 住まいについて必要な支援

問 33 あなたは、住まいについてどのような支援が必要ですか。(○は3つまで)

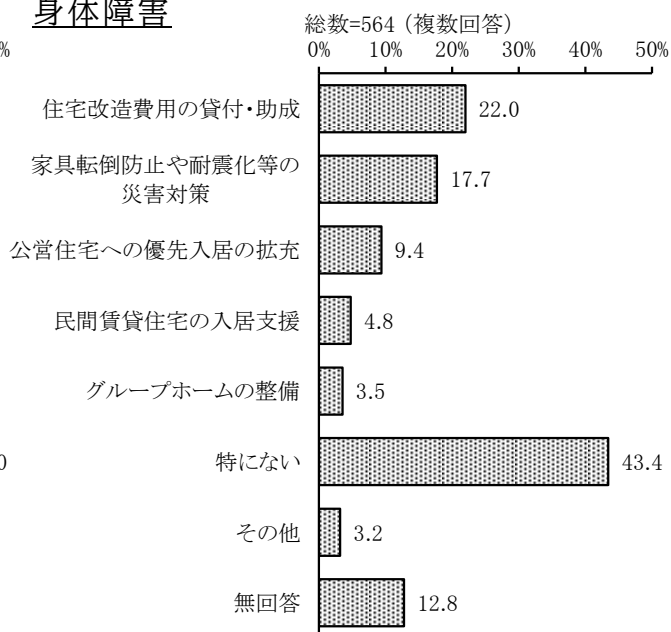
全体では、「住宅改造費用の貸付・助成」が19.1%と最も多く、次いで「家具転倒防止や耐震化等の災害対策」が16.1%、「公営住宅への優先入居の拡充」が12.9%、「民間賃貸住宅の入居支援」が8.7%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「グループホームの整備」が、精神障害では「公営住宅への優先入居の拡充」が最も多くなっています。

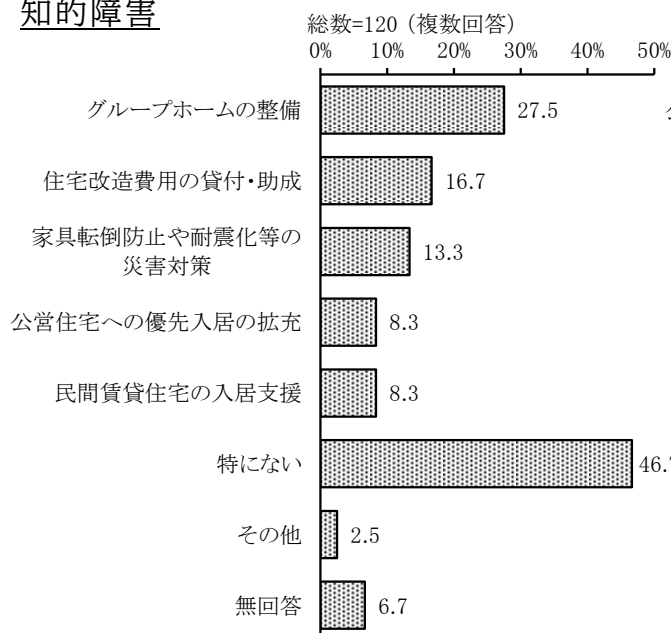
全体



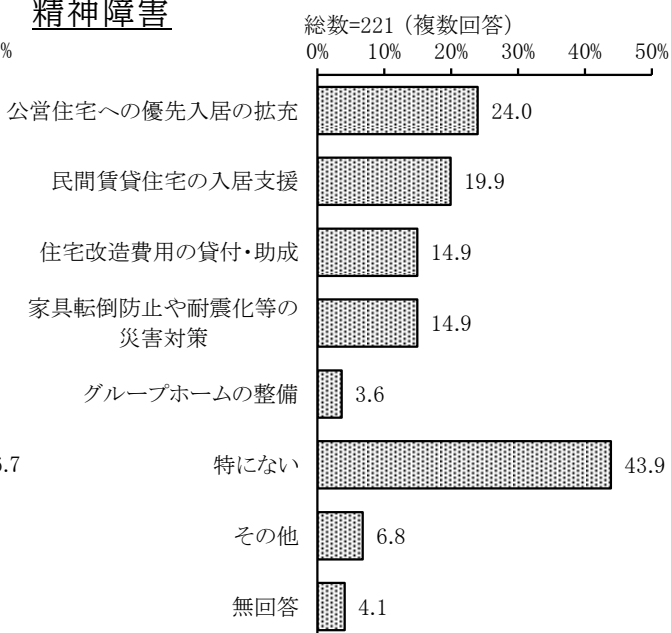
身体障害



知的障害



精神障害



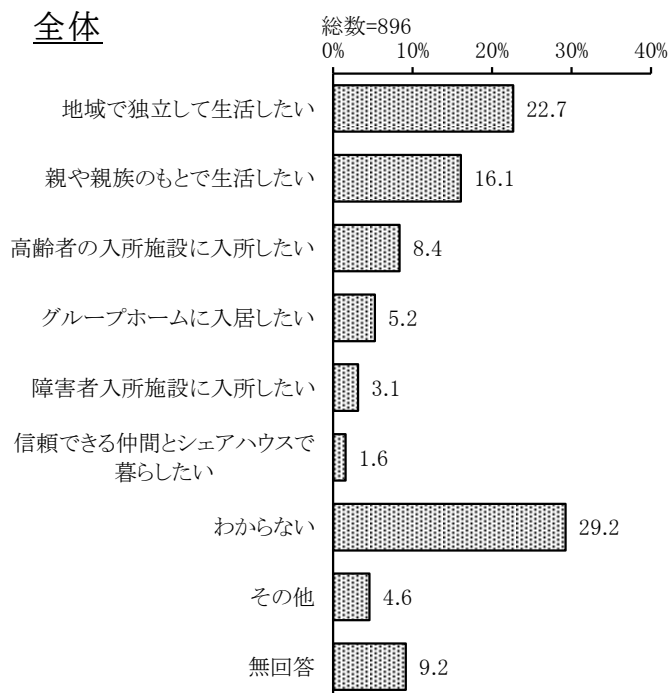
(4) 将来の暮らし方の希望

問 34 将来、あなたはどのように暮らしたいですか。(○は1つ)

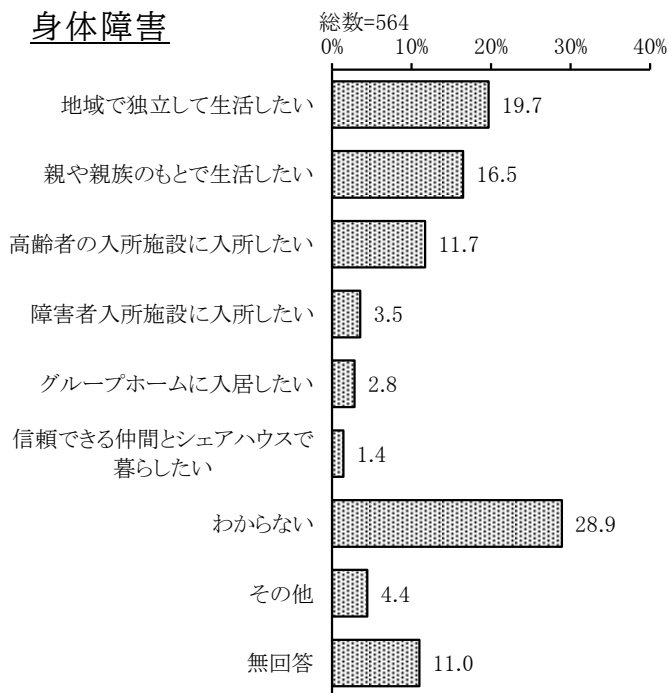
全体では、「地域で独立して生活したい」が22.7%と最も多く、次いで「親や親族のもとで生活したい」が16.1%、「高齢者の入所施設に入所したい」が8.4%、「グループホームに入居したい」が5.2%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「グループホームに入居したい」が最も多くなっています。精神障害では「地域で独立して生活したい」が他の障害と比較して多くなっています。

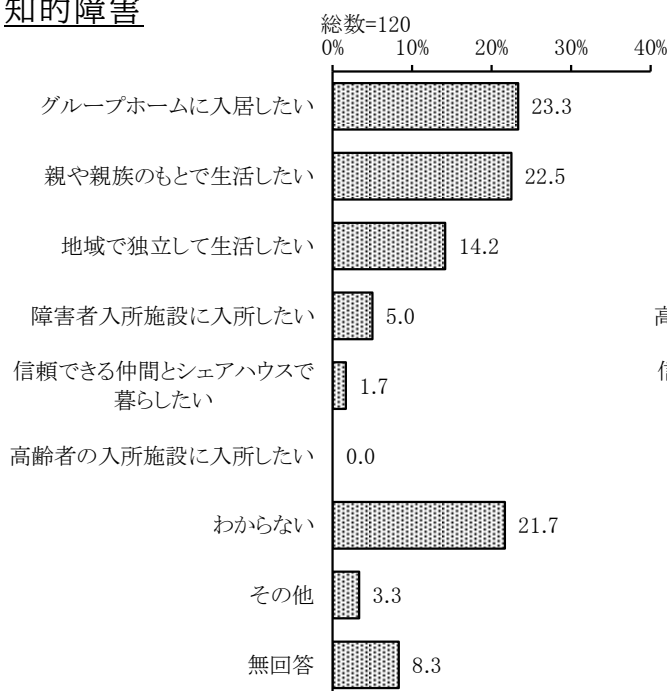
全体



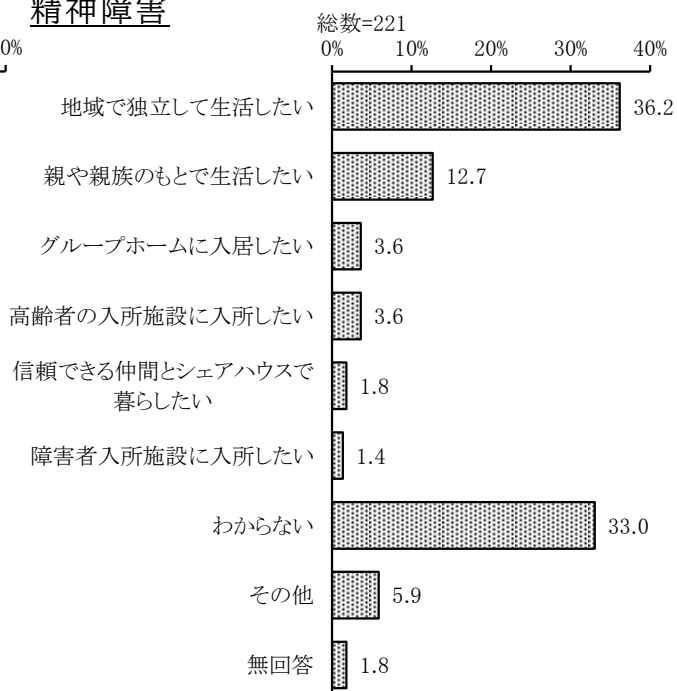
身体障害



知的障害



精神障害



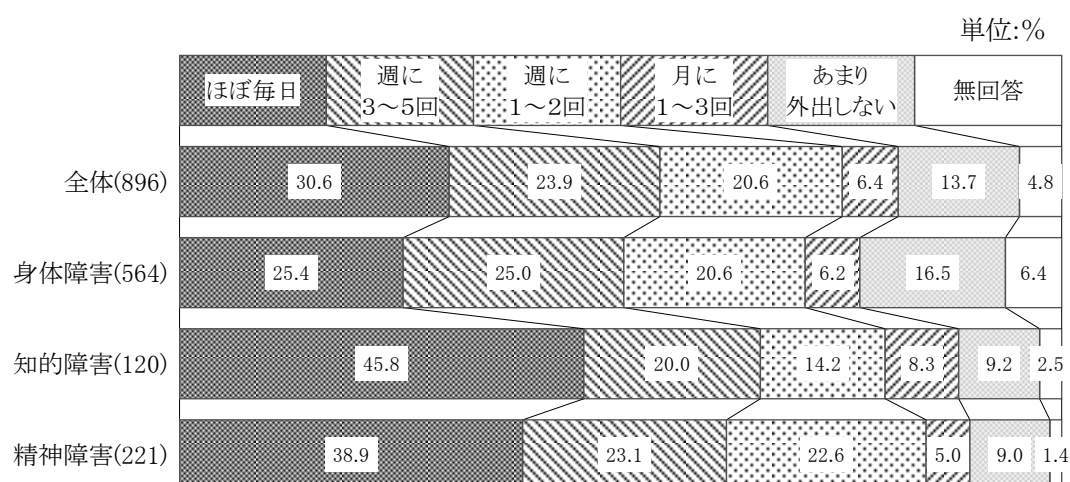
9. 外出について

(1) 外出の頻度

問 35 普段、あなたはどのくらいの頻度で外出しますか。(○は1つ)

全体では、「ほぼ毎日」が30.6%と最も多く、次いで「週に3～5日」が23.9%、「週に1～2回」が20.6%、「あまり外出しない」が13.7%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「あまり外出しない」が他の障害と比較して多くなっています。

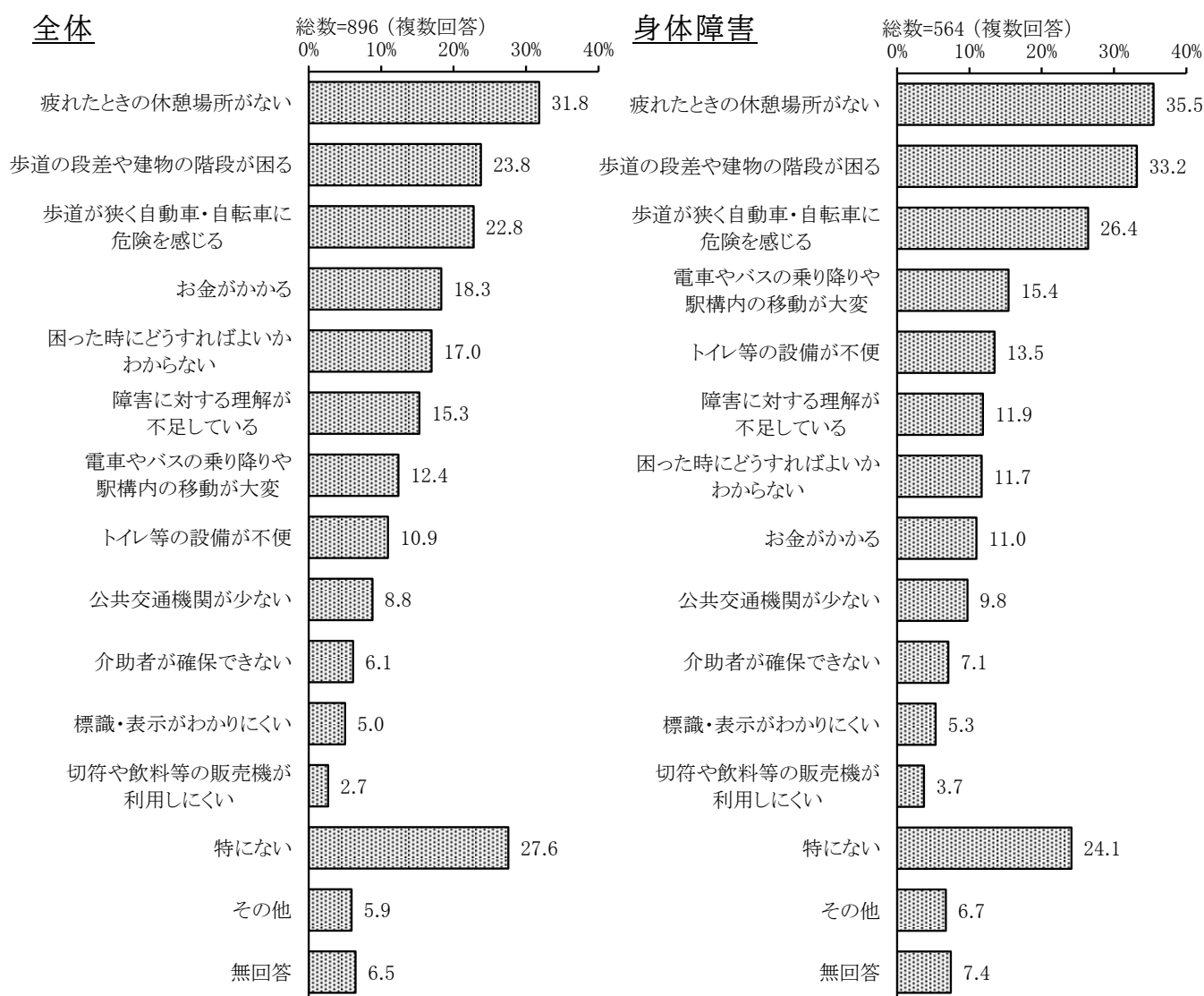


(2) 外出する際困っていること

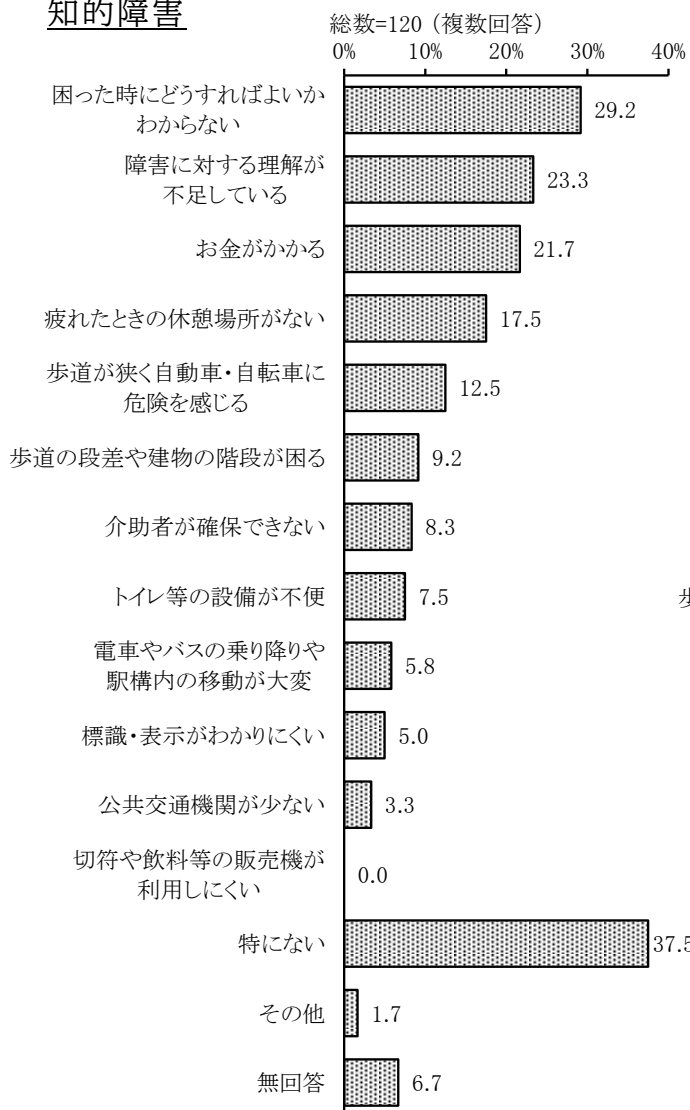
問 36 あなたが外出する際、困ったり不便に思うことは何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

全体では、「疲れたときの休憩場所がない」が 31.8%と最も多く、次いで「歩道の段差や建物の階段が困る」が 23.8%、「歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる」が 22.8%、「お金がかかる」が 18.3%となっています。

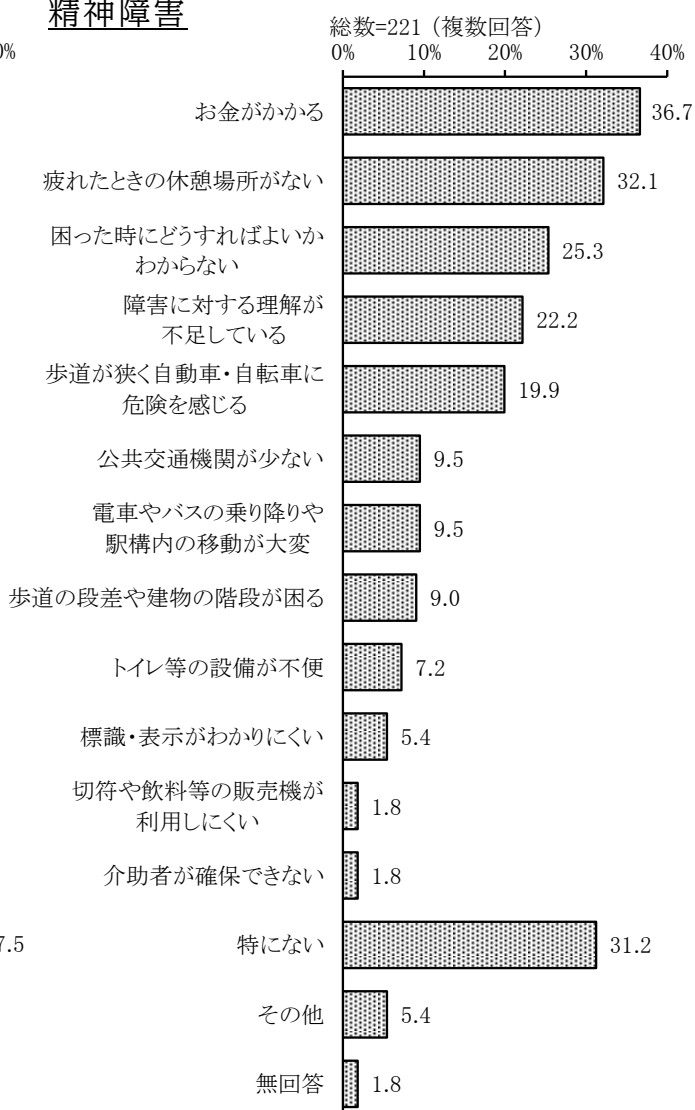
障害別に見ると、知的障害では「困った時にどうすればよいかわからない」が、精神障害では「お金がかかる」が最も多くなっています。



知的障害



精神障害



身体障害の種類別に見ると、視覚障害では「歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる」「介助者が確保できない」が、肢体不自由では「電車やバスの乗り降りや駅構内の移動が大変」が他の障害と比較して多くなっています。

●外出する際困っていること【身体障害の種類別】

	全体	歩道の段差や建物の階段が困る	歩道が狭く自動車・自転車に危険を感じる	公共交通機関が少ない	電車やバスの乗り降りや駅構内の移動が大変	切符や飲料等の販売機が利用しにくい	トイレ等の設備が不便	標識・表示がわかりにくい	休憩場所がない	障害に対する理解が不足している	お金がかかる	介助者が確保できない	困った時にどうすればよいかわからない	特にない	その他	無回答
全体	564	187	149	55	87	21	76	30	200	67	62	40	66	136	38	42
	100.0	33.2	26.4	9.8	15.4	3.7	13.5	5.3	35.5	11.9	11.0	7.1	11.7	24.1	6.7	7.4
身体障害の種類別	視覚障害	41	20	17	4	6	3	7	12	6	7	10	5	3	3	4
		100.0	48.8	41.5	9.8	14.6	7.3	17.1	29.3	14.6	17.1	24.4	12.2	7.3	7.3	9.8
	聴覚・平衡機能障害	47	21	16	3	5	2	5	11	7	4	2	7	8	4	2
		100.0	44.7	34.0	6.4	10.6	4.3	10.6	23.4	14.9	8.5	4.3	14.9	17.0	8.5	4.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	20	7	6	4	2	1	3	7	2	4	2	6	2	-	3
		100.0	35.0	30.0	20.0	10.0	5.0	15.0	35.0	10.0	20.0	10.0	30.0	10.0	-	15.0
肢体不自由 (上肢・下肢・体幹等)	275	112	76	33	60	13	47	15	103	40	35	24	38	57	18	20
		100.0	40.7	27.6	12.0	21.8	4.7	17.1	37.5	14.5	12.7	8.7	13.8	20.7	6.5	7.3
	内部障害 (心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能、肝臓)	203	45	39	14	19	2	21	74	16	19	4	17	71	14	10
	100.0	22.2	19.2	6.9	9.4	1.0	10.3	1.0	36.5	7.9	9.4	2.0	8.4	35.0	6.9	4.9

10. 福祉サービスの利用について

問 37 あなたは、次のサービスを利用していますか。また、今後（2～3年以内に）利用したいと思いますか。既に利用しており、今後も利用したい方は「1」、「2」両方に○をつけてください。
（それぞれあてはまるもの全てに○）

「利用状況」は「現在利用している」、「利用意向」は「今後利用したい」という回答の結果です。

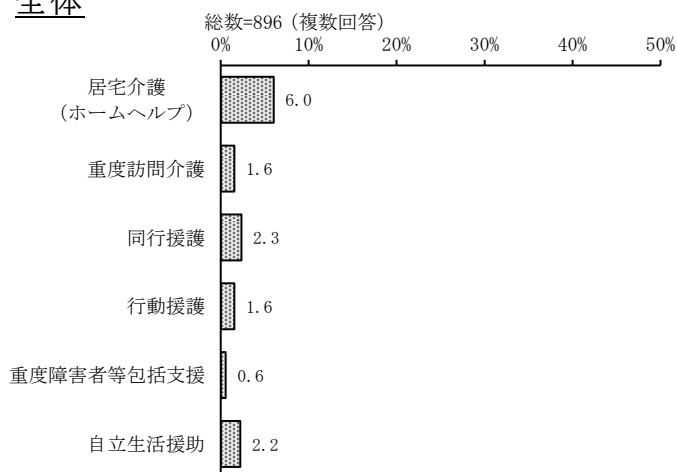
（1）訪問系サービス

①訪問系サービスの利用状況

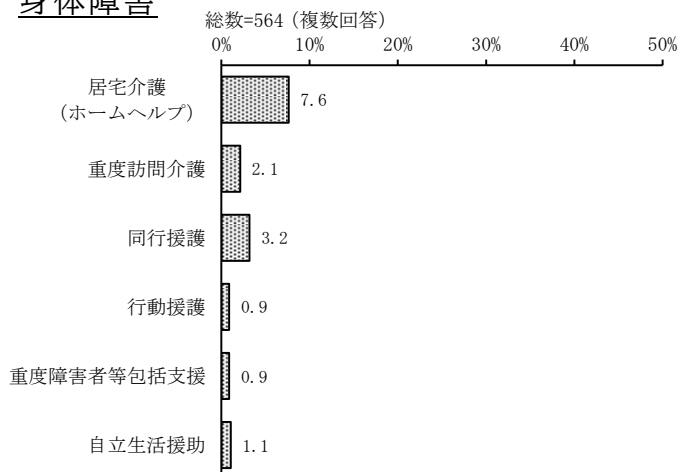
全体では、「居宅介護（ホームヘルプ）」が6.0%と最も多く、次いで「同行援護」が2.3%、「自立生活援助」が2.2%、「重度訪問介護」「行動援護」がそれぞれ1.6%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「行動援護」が、精神障害では「自立生活援助」が最も多くなっています。

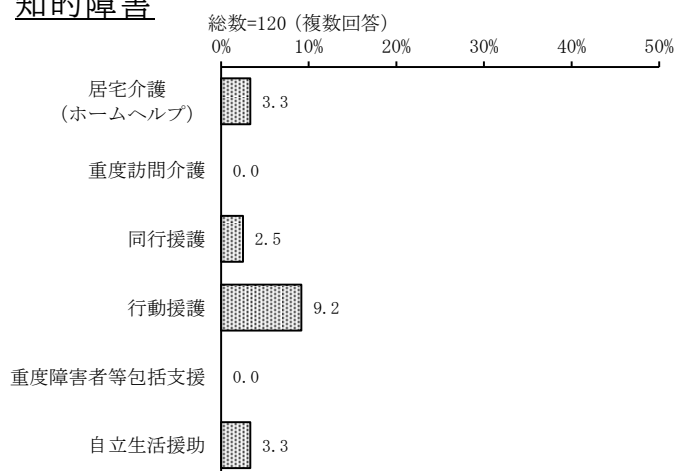
全体



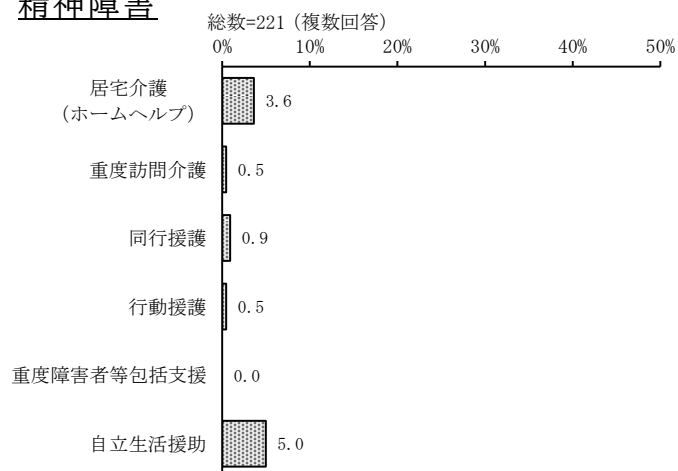
身体障害



知的障害



精神障害

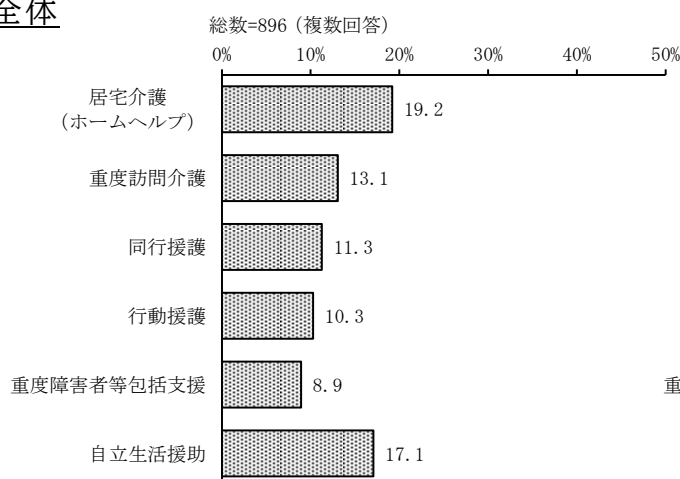


②訪問系サービスの利用意向

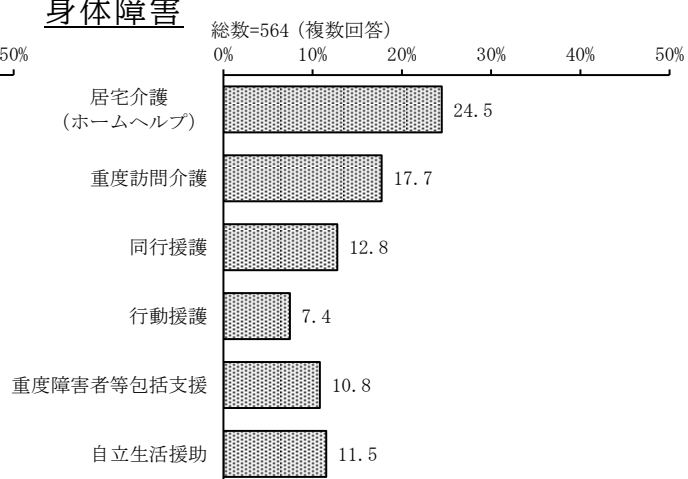
全体では、「居宅介護（ホームヘルプ）」が19.2%と最も多く、次いで「自立生活援助」が17.1%、「重度訪問介護」が13.1%、「同行援護」が11.3%となっています。

障害別に見ると、知的障害や精神障害では「自立生活援助」が最も多くなっています。

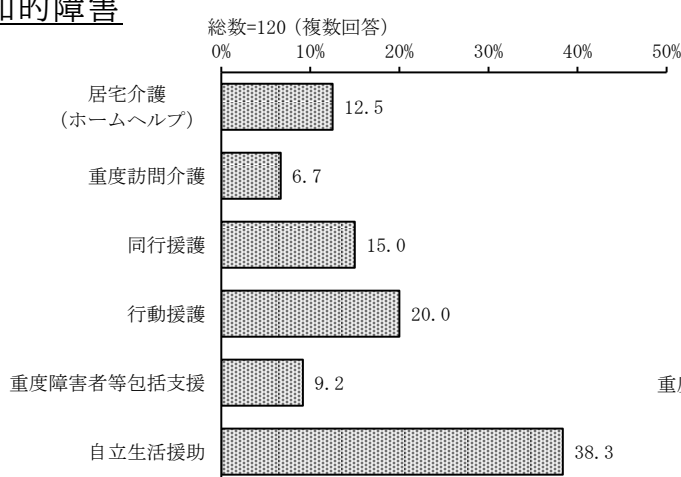
全体



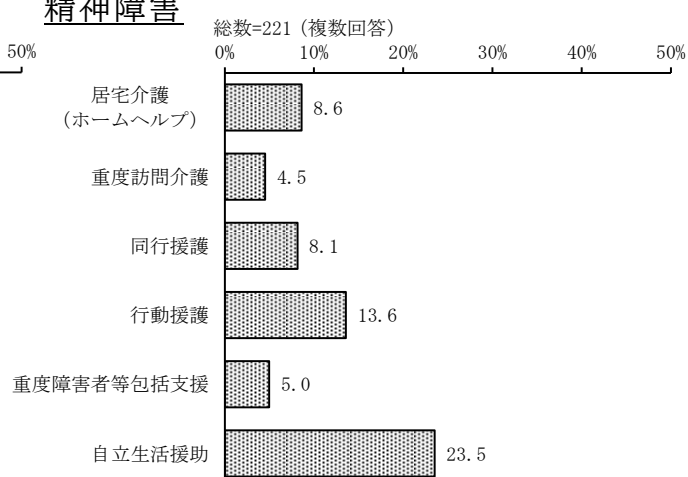
身体障害



知的障害



精神障害



サービス名	サービスの内容
①居宅介護 (ホームヘルプ)	障害のあるかたを対象に、居宅における入浴、排せつ、食事などの介護サービスの提供を行います。
②重度訪問介護	常時介護を必要とする重度障害のあるかたを対象に、居宅における入浴、排せつ、食事などの介護サービス及び外出時の移動介護サービスを行います。平成30年度からヘルパーによる訪問先が居宅だけではなく、医療機関にも拡大されました。
③同行援護	移動に著しい困難のある視覚に障害のあるかたを対象に、外出時における移動の援護や移動に必要な情報提供を行います。
④行動援護	行動に著しい困難がある知的障害、精神障害のあるかたを対象に、危険回避のための援護や移動介護サービスを提供します。
⑤重度障害者等包括支援	常時介護を必要とし、その介護の必要度が著しく高い障害のあるかたを対象に、居宅介護等複数の障害福祉サービスを包括的に提供します。
⑥自立生活援助	障害者支援施設やグループホーム等から地域で一人暮らしを始めた知的障害、精神障害のあるかた等の居宅を定期的に訪問し、生活に関する助言や医療機関等との連絡調整を行うほか、利用者からの相談に対応します。

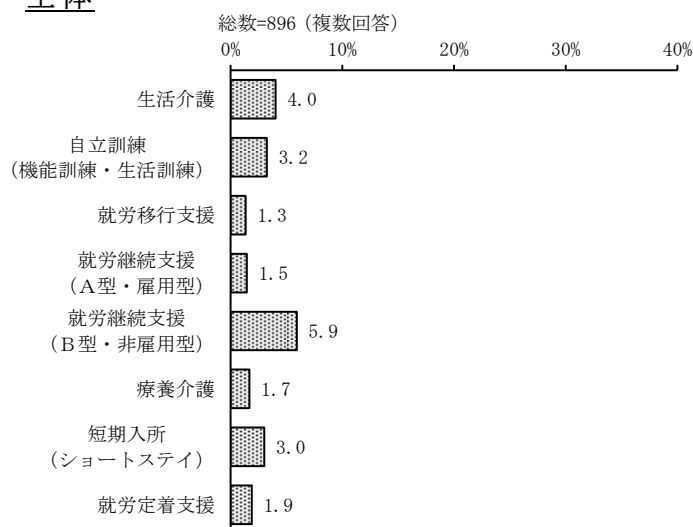
(2) 日中活動系サービス

③日中活動系サービスの利用状況

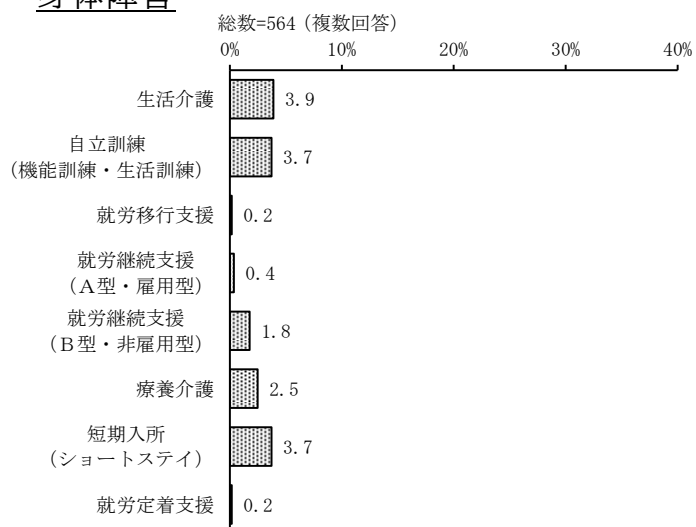
全体では、「就労継続支援（B型・非雇用型）」が5.9%と最も多く、次いで「生活介護」が4.0%、「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」が3.2%、「短期入所（ショートステイ）」が3.0%となっています。

障害別に見ると、「生活介護」という回答は、身体障害では最も多く、知的障害では他の障害と比較して多くなっています。

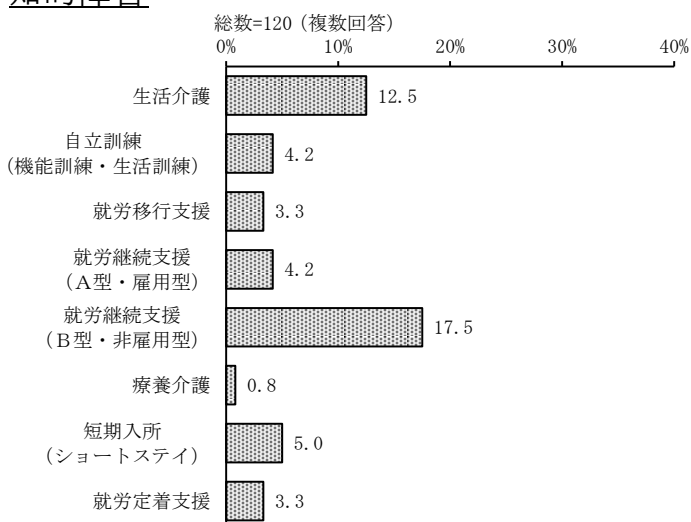
全体



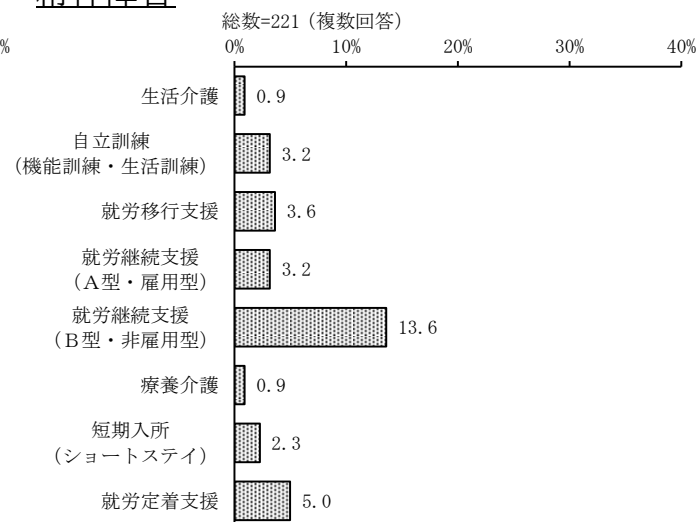
身体障害



知的障害



精神障害

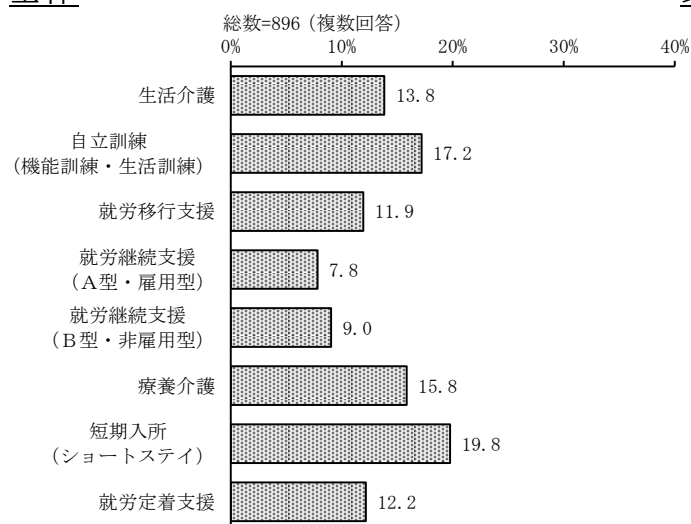


④日中活動系サービスの利用意向

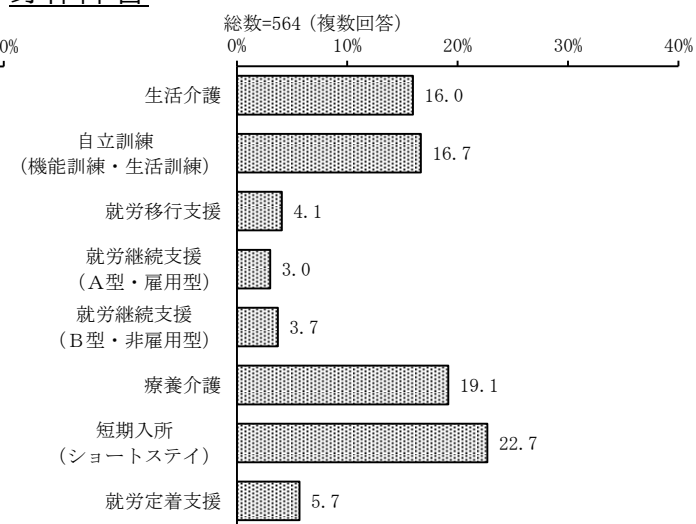
全体では、「短期入所（ショートステイ）」が19.8%と最も多く、次いで「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」が17.2%、「療養介護」が15.8%、「生活介護」が13.8%となっています。

障害別に見ると、精神障害では「就労移行支援」「就労定着支援」が多くなっています。

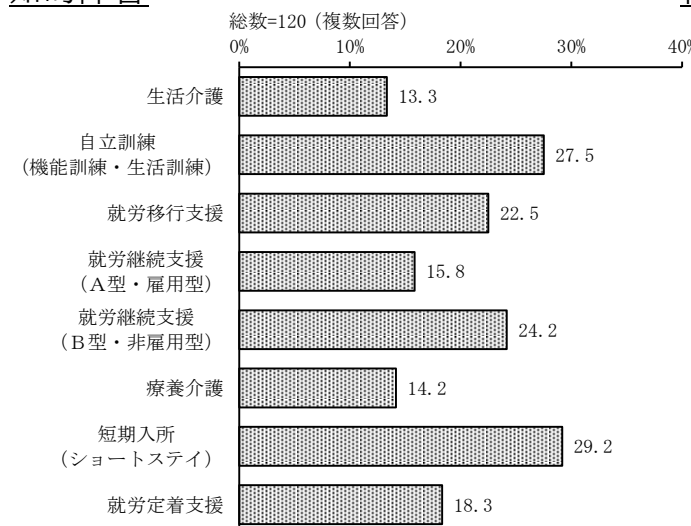
全体



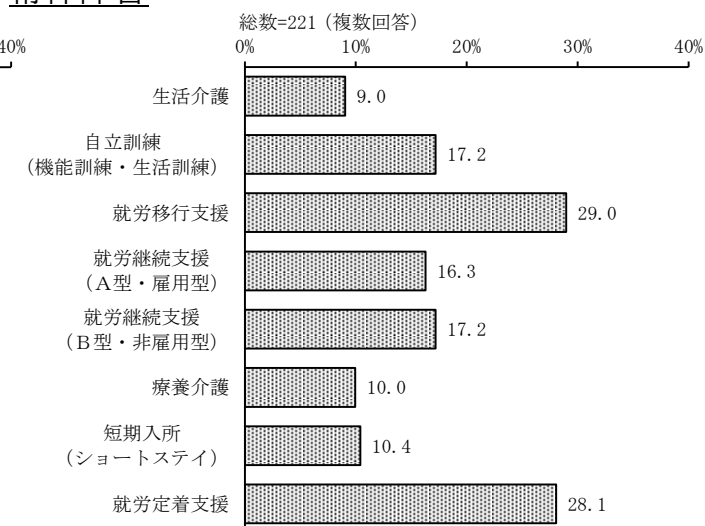
身体障害



知的障害



精神障害



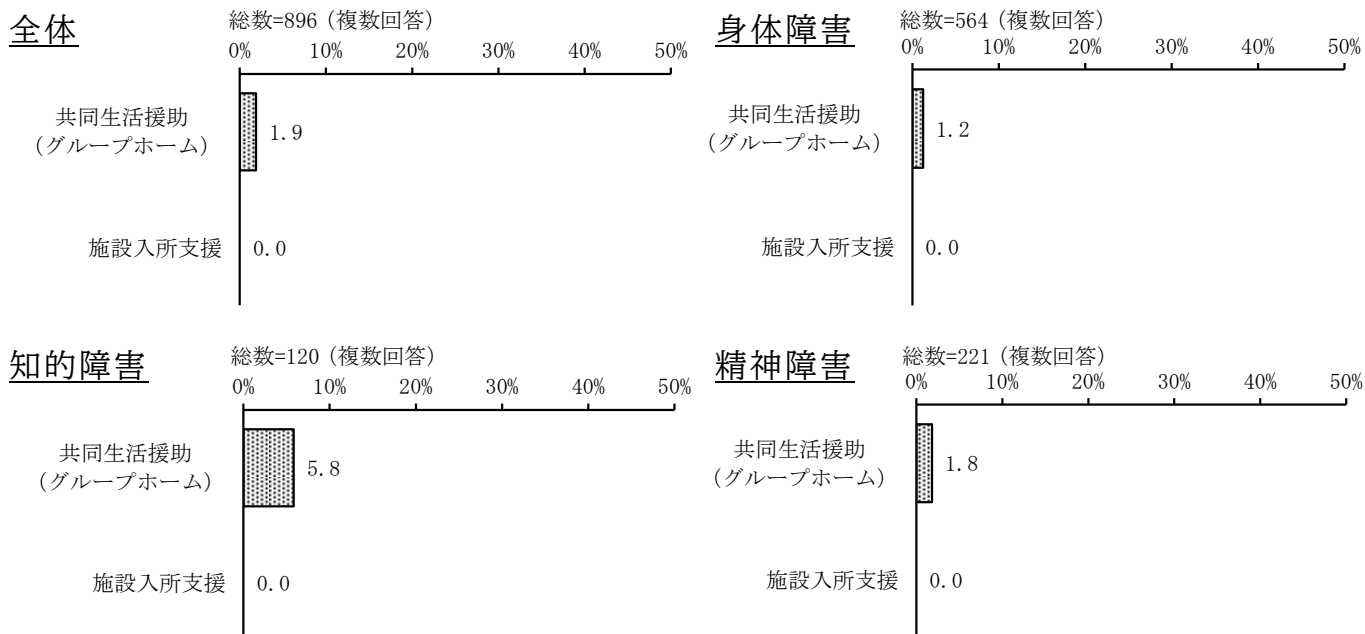
サービス名	サービスの内容
①生活介護	常に介護を必要とする障害のあるかたを対象に、通所により、食事や入浴、排せつなどの介護や日常生活上の支援、生産活動などの機会を提供します。
②自立訓練（機能訓練・生活訓練）	障害のあるかたに対して、自立した生活を営むことができるように、身体機能や生活能力向上のための訓練を行います。
③就労移行支援	一般企業等への就労を希望する障害のあるかたに対して、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のための必要な訓練、求職活動に関する支援など、就職後の職場への定着のために必要な相談などの支援を行います。
④就労継続支援（A型・雇用型）	一般企業等への就労が困難な障害のあるかたに対して、雇用契約に基づき、生産活動などの機会の提供、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練などの支援を行います。
⑤就労継続支援（B型・非雇用型）	一般企業等への就労が困難な障害のあるかたに対して、継続的な生産活動などの機会を提供し、就労に必要な知識及び能力の向上や維持のために必要な訓練などの支援を行います。
⑥療養介護	医療と常時の介護が必要な障害のあるかたを対象に、医療機関などで機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活上の支援を行います。
⑦短期入所（ショートステイ）	介護者が病気などで介護が困難になった場合などに、短期間、夜間も含め施設で、入浴、排せつ、食事などのサービスを提供します。
⑧就労定着支援	就労移行支援等の利用を経て、一般企業等への就労をした障害のあるかたが、就労に伴う環境変化により、生活リズムの調整や家計の管理などの問題が生じた際に、必要な連絡調整や指導・助言等の支援を行います。

(3) 居住系サービス

⑤ 居住系サービスの利用状況

全体では、「共同生活援助（グループホーム）」が1.9%となっています。

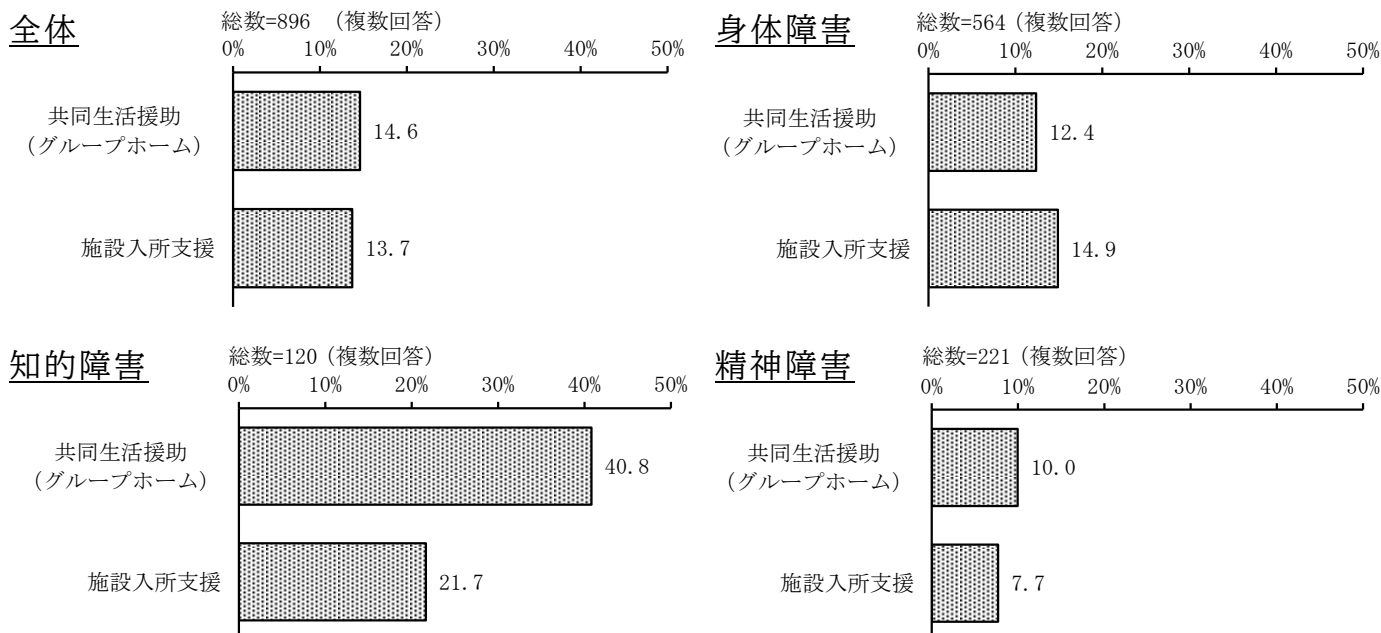
障害別に見ると、知的障害では「共同生活援助（グループホーム）」が他の障害と比較して多くなっています。



⑥ 居住系サービスの利用意向

全体では、「共同生活援助（グループホーム）」が14.6%、「施設入所支援」が13.7%となっています。

障害別に見ると、知的障害ではいずれの回答も他の障害と比較して多くなっています。



共同生活援助（グループホーム）の利用意向を年齢別に見ると、身体障害、知的障害では18～39歳の約半数が利用したいと回答しています。

●居住系サービスの利用状況・利用意向（共同生活援助（グループホーム））【年齢別】

		全体	現在 利用 している	今後 利用 したい	利用 希望 はない	無 回 答
	全体	896 100.0	17 1.9	131 14.6	513 57.3	240 26.8
年 齢 別	身体障害・18～39歳	20 100.0	1 5.0	10 50.0	9 45.0	1 5.0
	身体障害・40～64歳	79 100.0	— —	7 8.9	59 74.7	13 16.5
	身体障害・65歳以上	465 100.0	6 1.3	53 11.4	239 51.4	169 36.3
	知的障害・18～39歳	74 100.0	5 6.8	39 52.7	26 35.1	6 8.1
	知的障害・40～64歳	40 100.0	2 5.0	9 22.5	16 40.0	13 32.5
	知的障害・65歳以上	6 100.0	— —	1 16.7	3 50.0	2 33.3
	精神障害・18～39歳	53 100.0	1 1.9	8 15.1	43 81.1	1 1.9
	精神障害・40～64歳	142 100.0	2 1.4	11 7.7	115 81.0	15 10.6
	精神障害・65歳以上	26 100.0	1 3.8	3 11.5	13 50.0	9 34.6

サービス名	サービスの内容
①共同生活援助 （グループホーム）	地域で共同生活を行うことに支障のない障害のあるかたを対象に、夜間や休日、共同生活を行う住居において、相談、入浴、排せつ、食事の介護などの日常生活上の援助を行います。
②施設入所支援	施設に入所している障害のあるかたを対象に、入浴、排せつ、食事の介護、生活に関する相談・助言などの日常生活上の支援を行います。

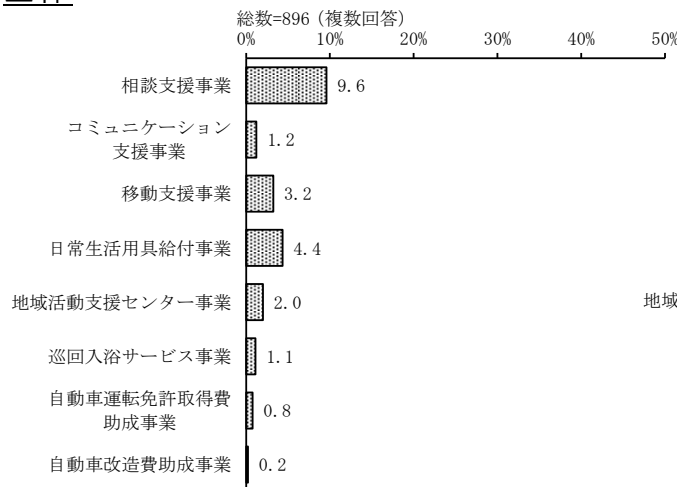
(4) 地域生活支援事業

⑦地域生活支援事業の利用状況

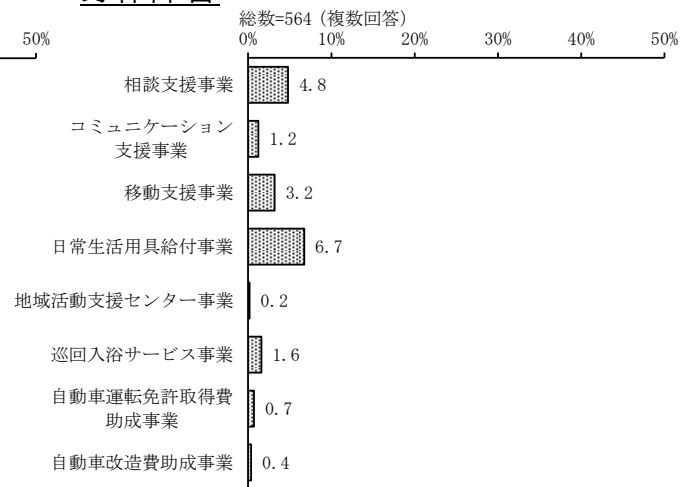
全体では、「相談支援事業」が9.6%と最も多く、次いで「日常生活用具給付事業」が4.4%、「移動支援事業」が3.2%、「地域活動支援センター事業」が2.0%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「日常生活用具給付事業」が最も多くなっています。知的障害では「移動支援事業」が他の障害と比較して多くなっています。

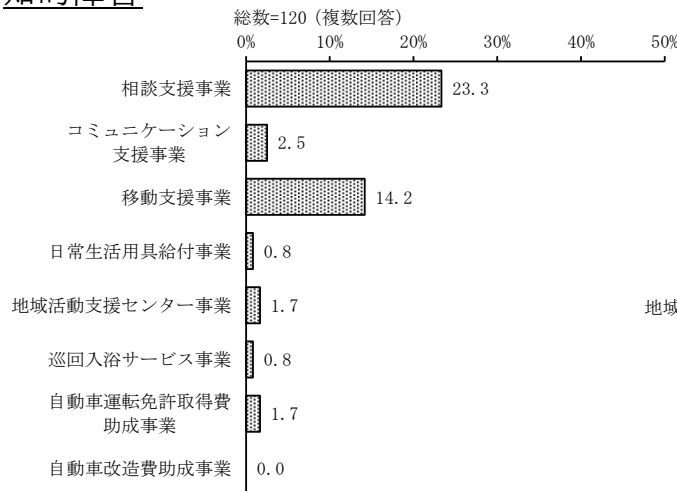
全体



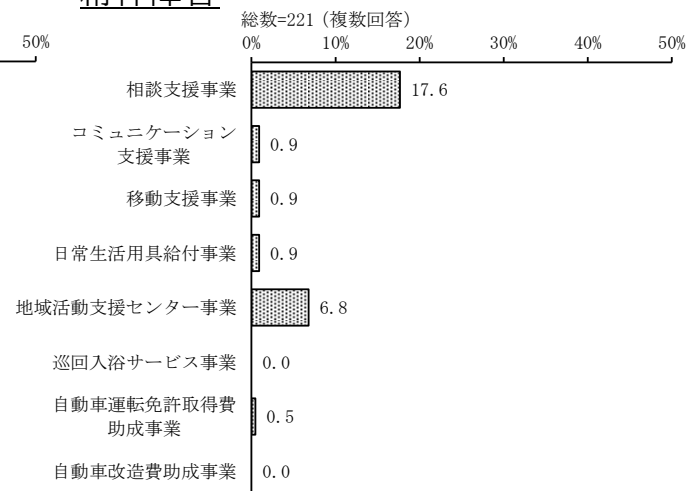
身体障害



知的障害



精神障害

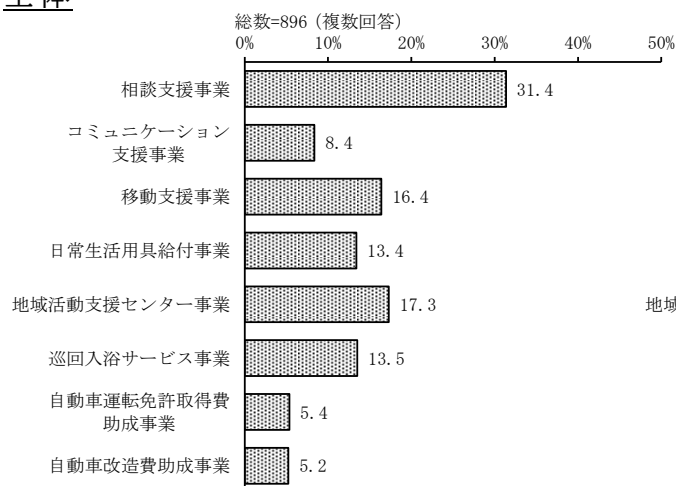


⑧地域生活支援事業の利用意向

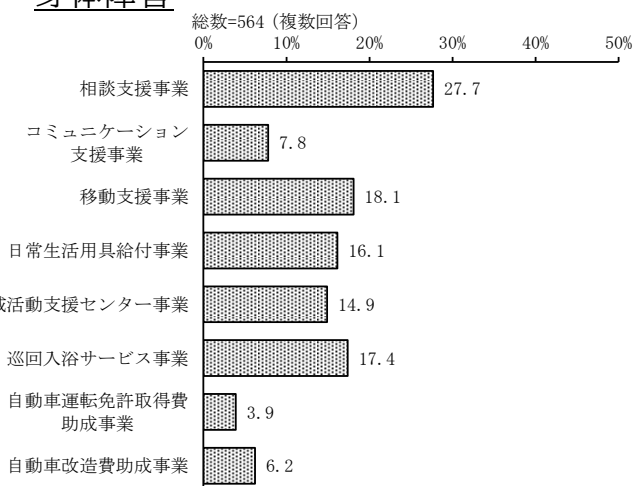
全体では、「相談支援事業」が 31.4%と最も多く、次いで「地域活動支援センター事業」が 17.3%、「移動支援事業」が 16.4%、「巡回入浴サービス事業」が 13.5%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「相談支援事業」が他の障害と比較して多くなっています。

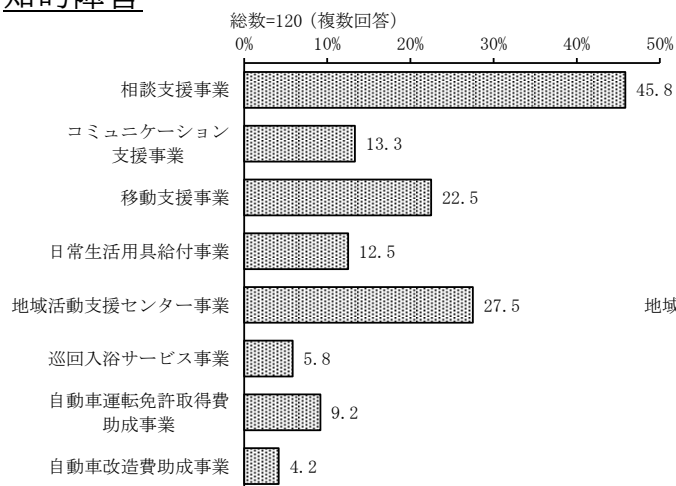
全体



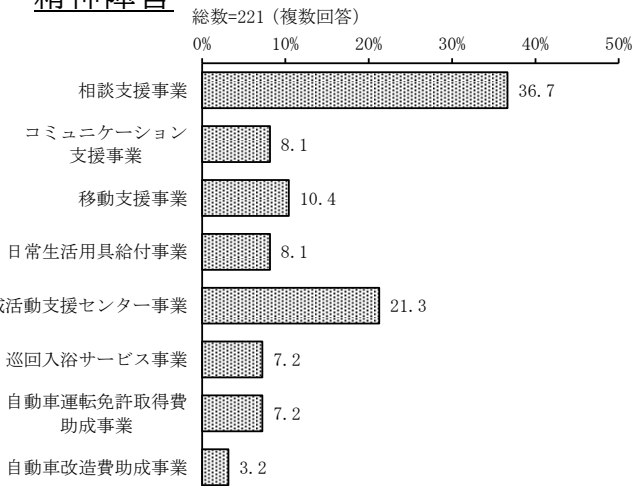
身体障害



知的障害



精神障害



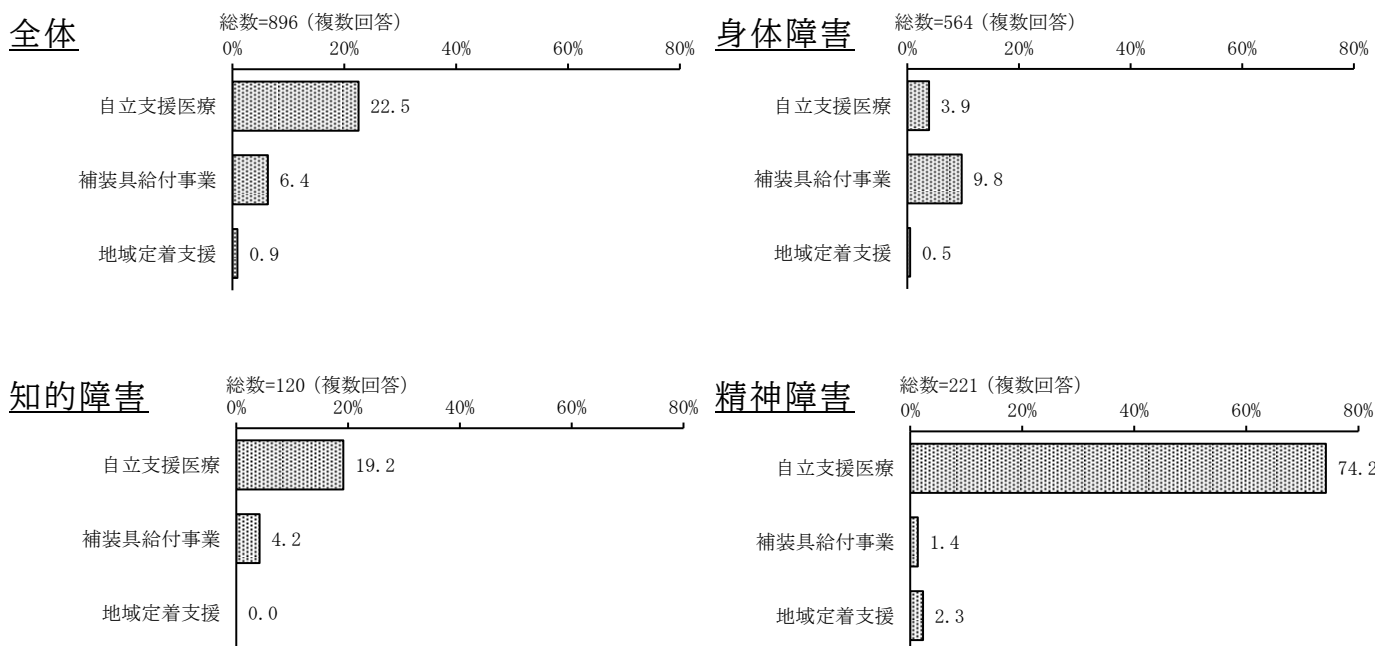
サービス名	サービスの内容
①相談支援事業	障害のあるかたが地域において自立した日常生活・社会生活を送れるように、障害のあるかたやその家族からの相談に応じるとともに、情報提供や権利擁護など必要な支援を行います。
②コミュニケーション支援事業	聴覚、言語機能などの障害のため、意思疎通を図ることに支障がある障害のあるかたを対象に、コミュニケーションの支援を図る手話通訳者や要約筆記者の派遣を行います。
③移動支援事業	屋外での移動が困難な障害のあるかたを対象に、外出時の支援を行うため、ガイドヘルパーを派遣します。
④日常生活用具給付事業	重度の障害のあるかたや難病患者等を対象に、日常生活における自立を支援するため、必要な日常生活用具の給付を行います。
⑤地域活動支援センター事業	創作活動、生産活動及び交流活動などができるオープンスペースを開設し、地域社会と交流できる機会を提供します。
⑥巡回入浴サービス事業	家庭での入浴が困難な心身に重度障害のあるかたを対象に、身体の清潔保持と心身機能の維持などを図るため、自宅に入浴車を派遣し、入浴サービスを提供します。
⑦自動車運転免許取得費助成事業	身体・知的障害のあるかたを対象に、日常生活の利便及び生活圏の拡大を図るため、自動車運転免許の取得費用の一部を助成します。
⑧自動車改造費助成事業	重度の身体障害のあるかたを対象に、就労などのため、自動車を購入する際の改造費用の一部を助成します。

(5) その他のサービス

⑨その他のサービスの利用状況

全体では、「自立支援医療」が22.5%と最も多く、次いで「補装具給付事業」が6.4%、「地域定着支援」が0.9%となっています。

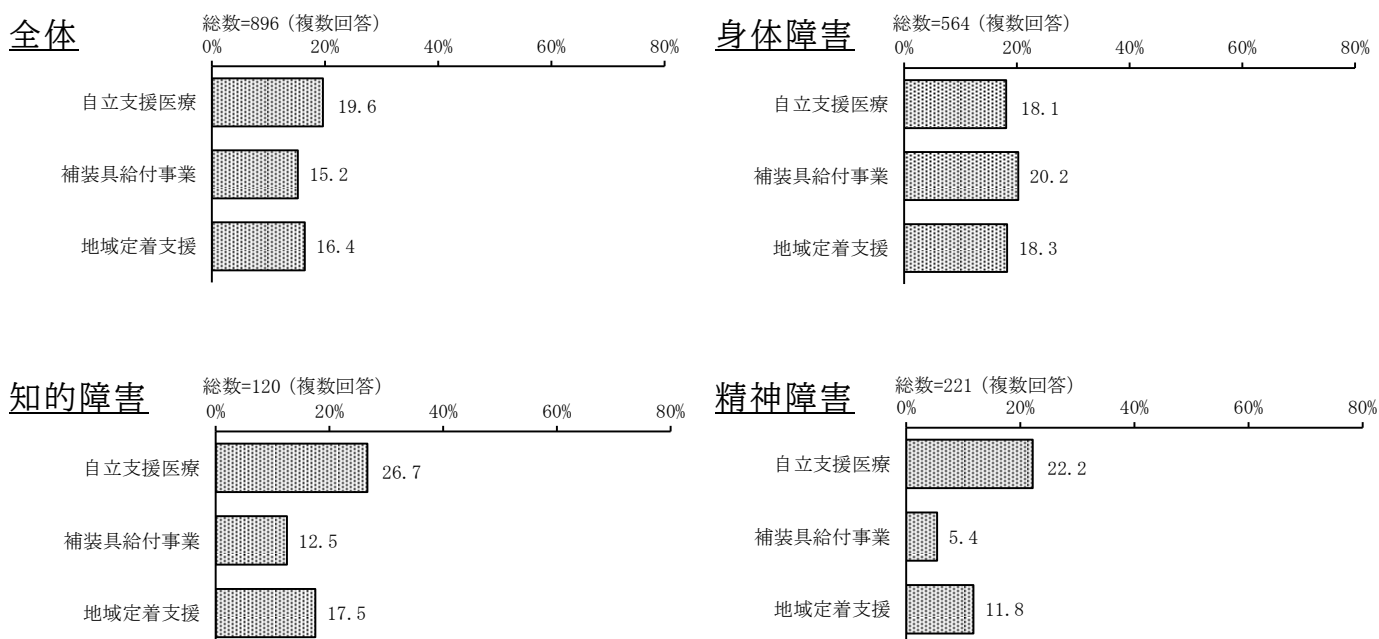
障害別に見ると、精神障害では「自立支援医療」が他の障害と比較して多くなっています。



⑩その他のサービスの利用意向

全体では、「自立支援医療」が19.6%と最も多く、次いで「地域定着支援」が16.4%、「補装具給付事業」が15.2%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「補装具給付事業」が最も多くなっています。



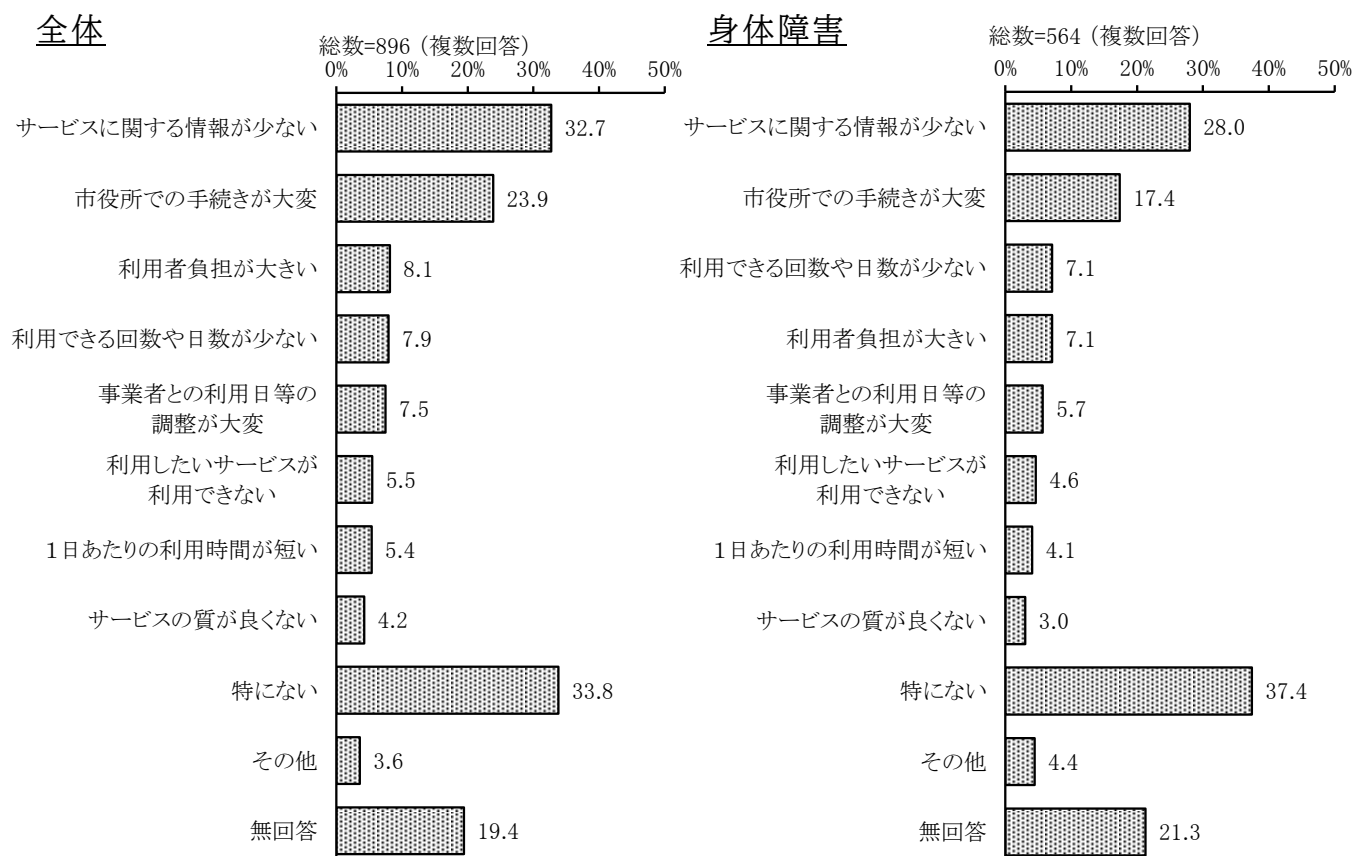
サービス名	サービスの内容
①自立支援医療	心身の障害を軽減するための医療について、医療費の一部を助成します。(更生医療・育成医療・精神通院医療)
②補装具給付事業	補装具を必要とする障害のあるかたや難病患者等を対象に、職業の能率向上やその他日常生活を容易にするため、必要な補装具の給付や修理を行います。
③地域定着支援	施設や病院に長期入所等していた人が、地域生活に移行後、安心して地域生活を継続できるよう連絡、相談等の支援を行います。

(6) サービス利用で困っていること

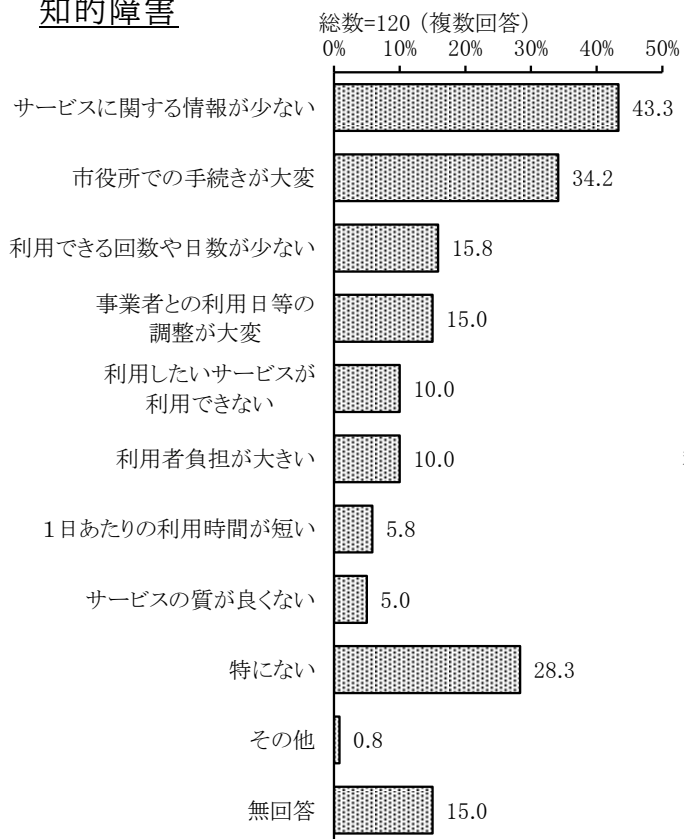
問 38 あなたが、サービスを利用するにあたって、困っていることは何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

全体では、「サービスに関する情報が少ない」が 32.7%と最も多く、次いで「市役所での手続きが大変」が 23.9%、「利用者負担が大きい」が 8.1%、「利用できる回数や日数が少ない」が 7.9%となっています。

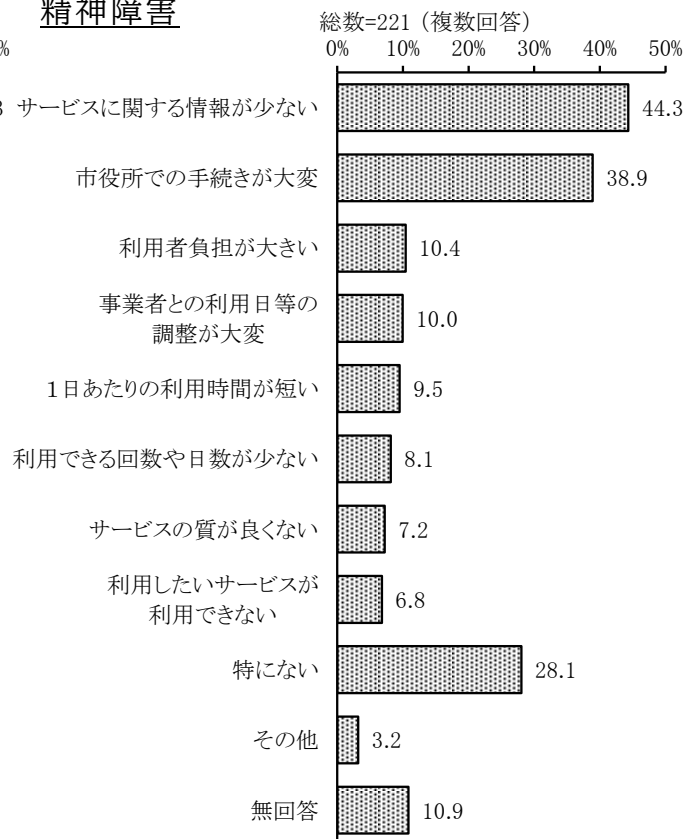
障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



知的障害



精神障害



11. 権利擁護・障害理解について

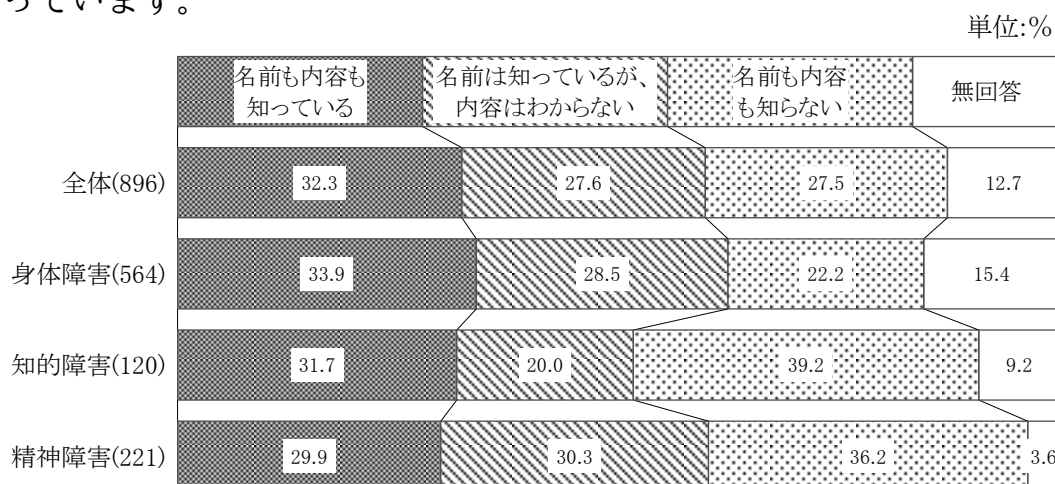
(1) 権利擁護の取組の認知状況

問 39 あなたは、次の権利が守られるための取組について知っていますか。
(それぞれあてはまるもの1つに○)

①成年後見制度

全体では、「名前も内容も知っている」が 32.3%と最も多く、次いで「名前は知っているが、内容はわからない」が 27.6%、「名前も内容も知らない」が 27.5%となっています。

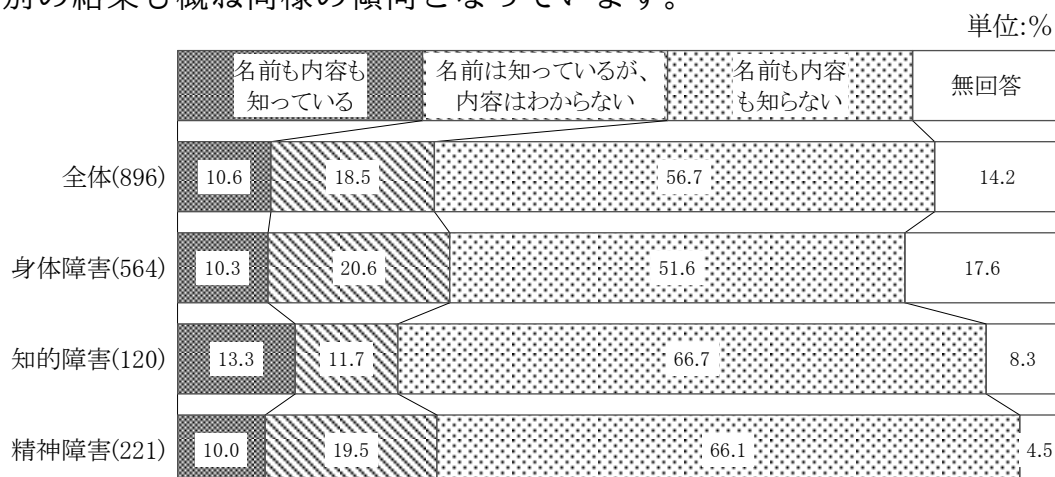
障害別に見ると、身体障害では「名前も内容も知らない」が他の障害と比較して少なくなっています。



②昭島市障害者虐待防止センター

全体では、「名前も内容も知らない」が 56.7%と最も多く、次いで「名前は知っているが、内容はわからない」が 18.5%、「名前も内容も知っている」が 10.6%となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



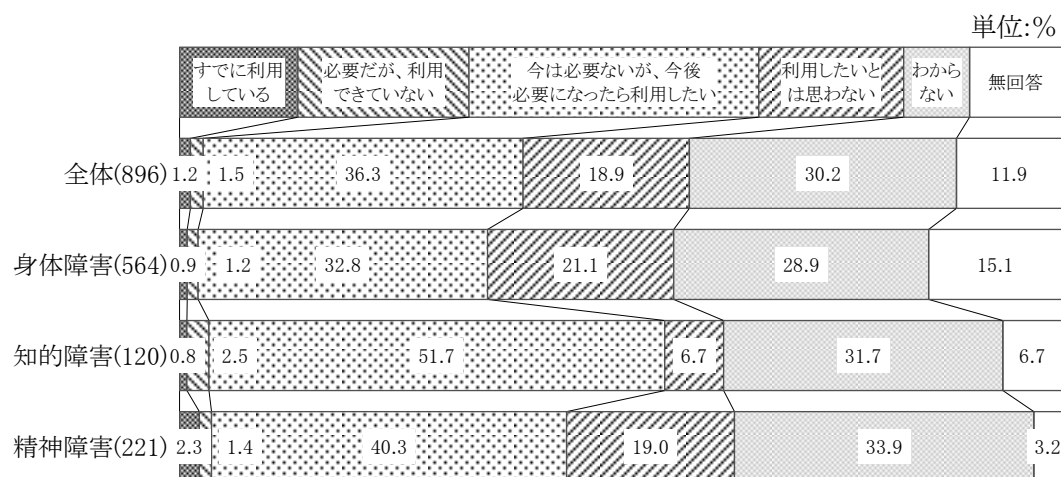
名称と内容
①成年後見制度 認知症、知的障害、精神障害等により、判断能力が十分ではない人の権利を守る制度です。成年後見人等が障害のある方に代わって契約手続きを行ったり、誤って結んだ契約の取消等を行います。
②昭島市障害者虐待防止センター 障害のある方が家族や福祉施設の職員、会社の上司等から、叩かれたり、仲間はずれや無視等の嫌がらせを受けた場合に相談できる窓口です。

(2) 成年後見制度の利用意向

問 40 あなたは、成年後見制度を利用したいと思いますか。(○は1つ)

全体では、「今は必要ないが、今後必要になったら利用したい」が 36.3%と最も多く、次いで「利用したいとは思わない」が 18.9%、「必要だが、利用できていない」が 1.5%、「すでに利用している」が 1.2%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「今は必要ないが、今後必要になったら利用したい」が他の障害と比較して多くなっています。

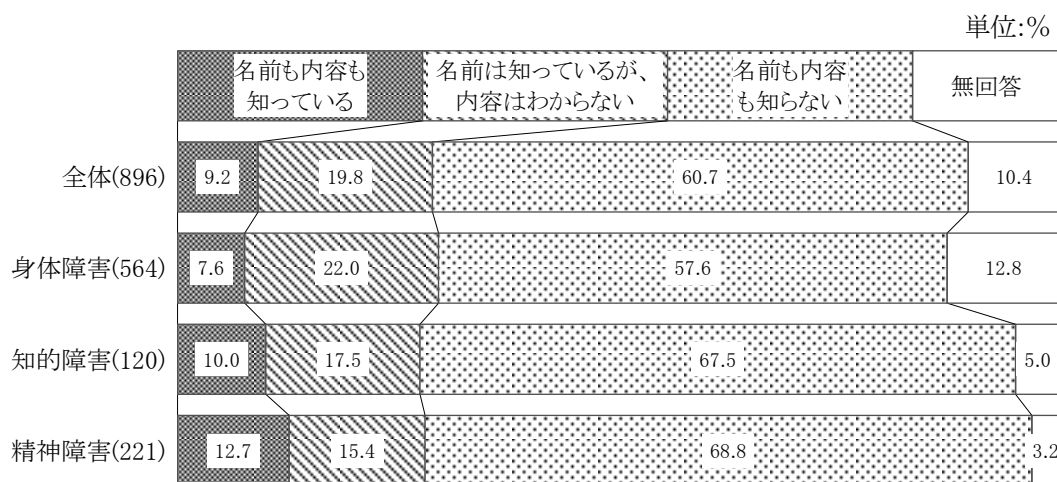


(3) 障害者差別解消法の認知状況

問 41 令和3年5月、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）が改正され、障害を理由とした不当な差別的取扱いの禁止に加え、合理的配慮の提供についても民間事業者の義務とされました。あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。（○は1つ）

全体では、「名前も内容も知らない」が60.7%と最も多く、次いで「名前は知っているが、内容はわからない」が19.8%、「名前も内容も知っている」が9.2%となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



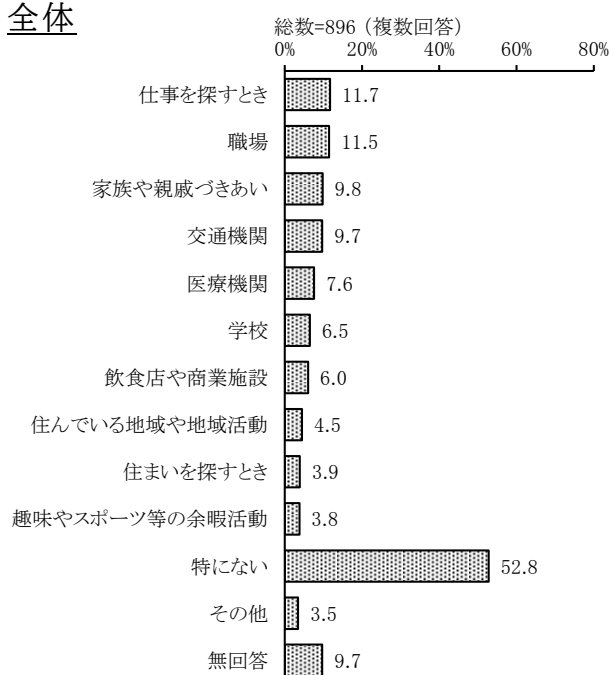
(4) 差別を受けた経験

問 42 あなたは、障害があることによりどのような場面で差別を受けていると感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

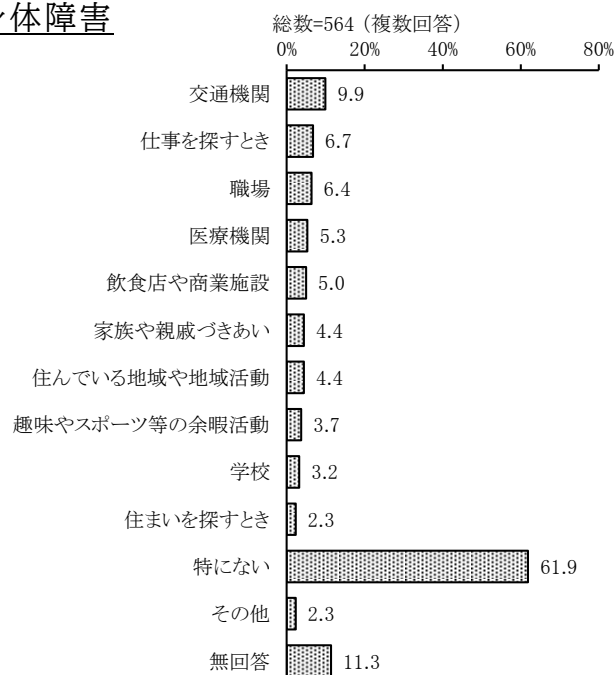
全体では、「仕事を探すとき」が11.7%と最も多く、次いで「職場」が11.5%、「家族や親戚づきあい」が9.8%、「交通機関」が9.7%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「交通機関」が、知的障害では「学校」が最も多くなっています。精神障害では「仕事を探すとき」「家族や親戚づきあい」が他の障害と比較して多くなっています。

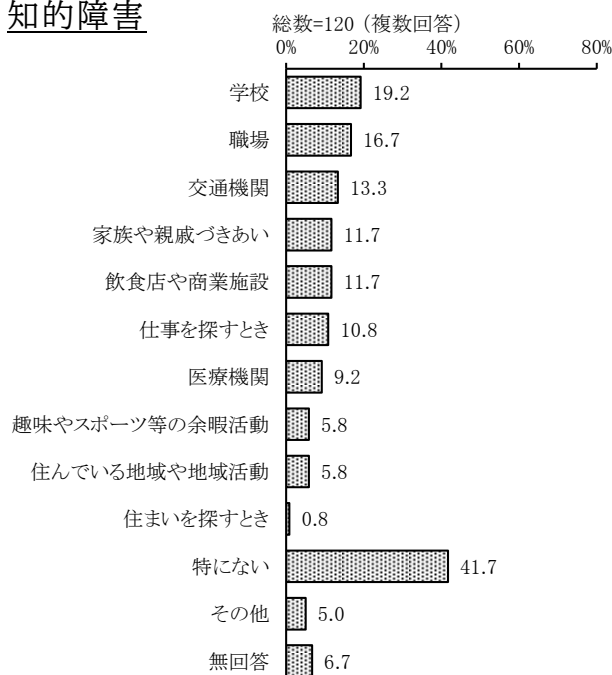
全体



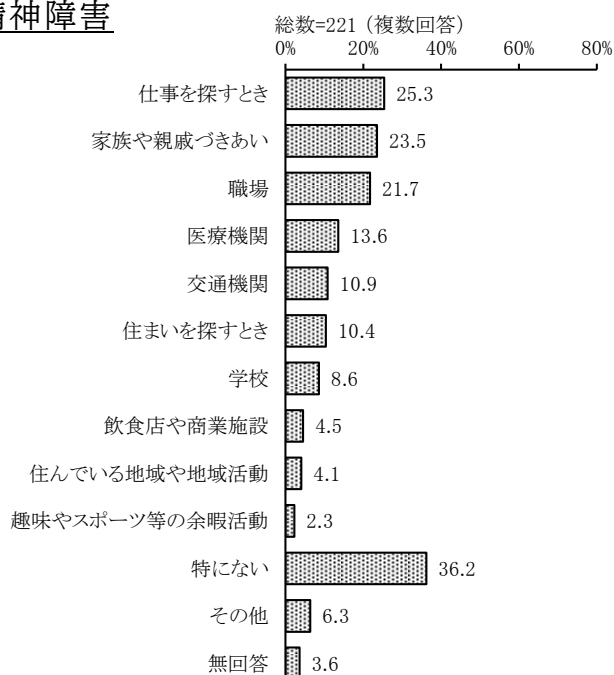
身体障害



知的障害



精神障害



身体障害の種類別に見ると、聴覚・平衡機能障害では「職場」「医療機関」が他の種類と比較して多くなっています。

●差別を受けた経験【身体障害の種類別】

		全体	家族や親戚づきあい	学校	職場	住まいを探すとき	仕事を探すとき	医療機関	交通機関	飲食店や商業施設	趣味やスポーツ等の余暇活動	住んでいる地域や地域活動	特にない	その他	無回答
身体障害の種類別	全体	564 100.0	25 4.4	18 3.2	36 6.4	13 2.3	38 6.7	30 5.3	56 9.9	28 5.0	21 3.7	25 4.4	349 61.9	13 2.3	64 11.3
	視覚障害	41 100.0	2 4.9	—	2 4.9	1 2.4	2 4.9	3 7.3	5 12.2	3 7.3	—	2 4.9	21 51.2	3 7.3	7 17.1
	聴覚・平衡機能障害	47 100.0	8 17.0	5 10.6	10 21.3	2 4.3	3 6.4	10 21.3	8 17.0	7 14.9	2 4.3	6 12.8	18 38.3	1 2.1	8 17.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	20 100.0	3 15.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	4 20.0	6 30.0	3 15.0	1 5.0	1 5.0	12 60.0	—	—
	肢体不自由（上肢・下肢・体幹等）	275 100.0	13 4.7	14 5.1	19 6.9	8 2.9	27 9.8	11 4.0	33 12.0	14 5.1	15 5.5	16 5.8	162 58.9	7 2.5	27 9.8
	内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能、肝臓）	203 100.0	3 1.5	1 0.5	8 3.9	3 1.5	8 3.9	7 3.4	12 5.9	4 2.0	5 2.5	2 1.0	147 72.4	2 1.0	22 10.8

疾患・障害の有無別に見ると、気分障害や発達障がいでは「職場」「仕事を探すとき」が他と比較して多くなっています。

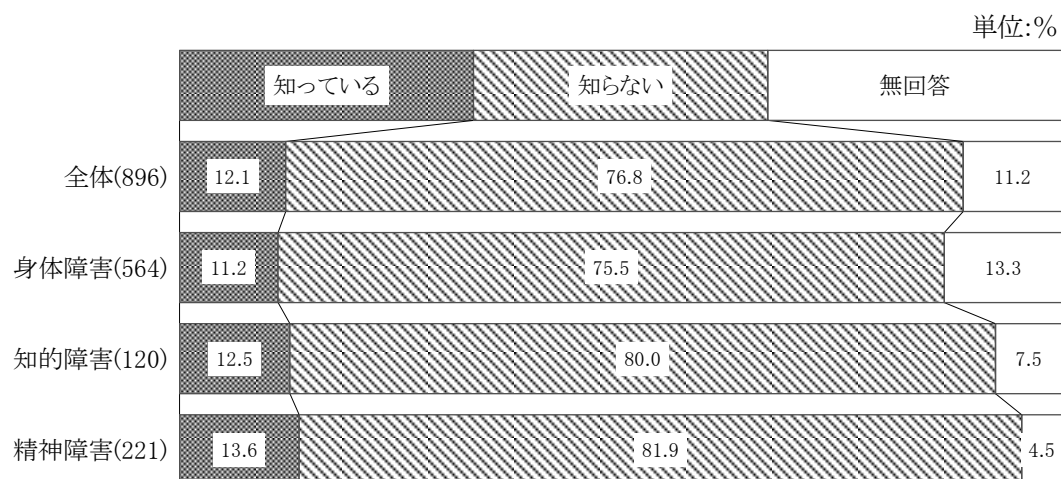
●差別を受けた経験【疾患・障害の有無別】

		全体	家族や親戚づきあい	学校	職場	住まいを探すとき	仕事を探すとき	医療機関	交通機関	飲食店や商業施設	趣味やスポーツ等の余暇活動	住んでいる地域や地域活動	特にない	その他	無回答
疾患・障害の有無	全体	896 100.0	88 9.8	58 6.5	103 11.5	35 3.9	105 11.7	68 7.6	87 9.7	54 6.0	34 3.8	40 4.5	473 52.8	31 3.5	87 9.7
	難病	65 100.0	2 3.1	4 6.2	8 12.3	4 6.2	8 12.3	6 9.2	7 10.8	6 9.2	4 6.2	4 6.2	37 56.9	2 3.1	7 10.8
	慢性疾患（糖尿病・心臓疾患・脳血管疾患等）	193 100.0	9 4.7	3 1.6	11 5.7	7 3.6	11 5.7	10 5.2	20 10.4	10 5.2	10 5.2	10 5.2	120 62.2	2 1.0	21 10.9
	統合失調症	91 100.0	27 29.7	8 8.8	11 12.1	13 14.3	12 13.2	15 16.5	11 12.1	10 11.0	3 3.3	9 9.9	36 39.6	5 5.5	3 3.3
	気分障害（うつ病・躁うつ病）	110 100.0	24 21.8	9 8.2	32 29.1	12 10.9	35 31.8	16 14.5	18 16.4	7 6.4	4 3.6	5 4.5	37 33.6	9 8.2	3 2.7
	神経症	23 100.0	1 4.3	1 4.3	6 26.1	—	6 26.1	4 17.4	3 13.0	—	1 4.3	—	7 30.4	1 4.3	5 21.7
	依存症（アルコール・薬物等）	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	—	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
	知的障害	98 100.0	11 11.2	18 18.4	15 15.3	1 1.0	13 13.3	10 10.2	15 15.3	13 13.3	8 8.2	6 6.1	39 39.8	6 6.1	6 6.1
	発達障害	87 100.0	16 18.4	20 23.0	27 31.0	4 4.6	22 25.3	15 17.2	13 14.9	13 14.9	7 8.0	5 5.7	23 26.4	5 5.7	5 5.7
	高次脳機能障害	24 100.0	5 20.8	1 4.2	1 4.2	—	2 8.3	1 4.2	2 8.3	1 4.2	—	—	13 54.2	1 4.2	3 12.5
	その他	214 100.0	5 2.3	11 5.1	19 8.9	3 1.4	19 8.9	9 4.2	14 6.5	7 3.3	6 2.8	5 2.3	139 65.0	3 1.4	22 10.3
	特にない	86 100.0	10 11.6	5 5.8	6 7.0	3 3.5	8 9.3	9 10.5	11 12.8	4 4.7	2 2.3	6 7.0	39 45.3	6 7.0	12 14.0
	無回答	70 100.0	1 1.4	1 1.4	2 2.9	—	3 4.3	2 2.9	3 4.3	3 4.3	2 2.9	3 4.3	39 55.7	3 4.3	15 21.4

(5) 相談窓口の認知状況

問 43 あなたは、あなたや周りのかたが差別を受けたときの相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

全体では、「知っている」が12.1%、「知らない」が76.8%となっています。
障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



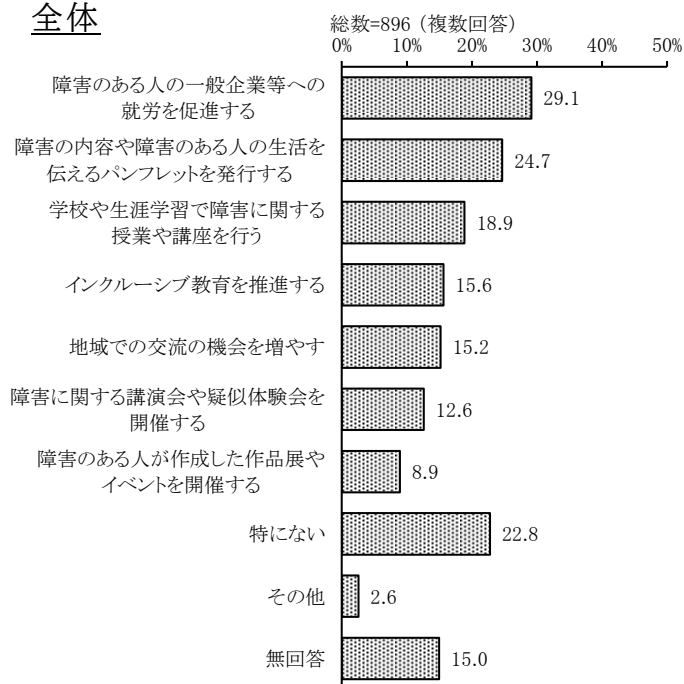
（６）障害理解を進めるために力を入れるべきこと

問 44 あなたは、障害への理解を進めるために昭島市がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（○は3つまで）

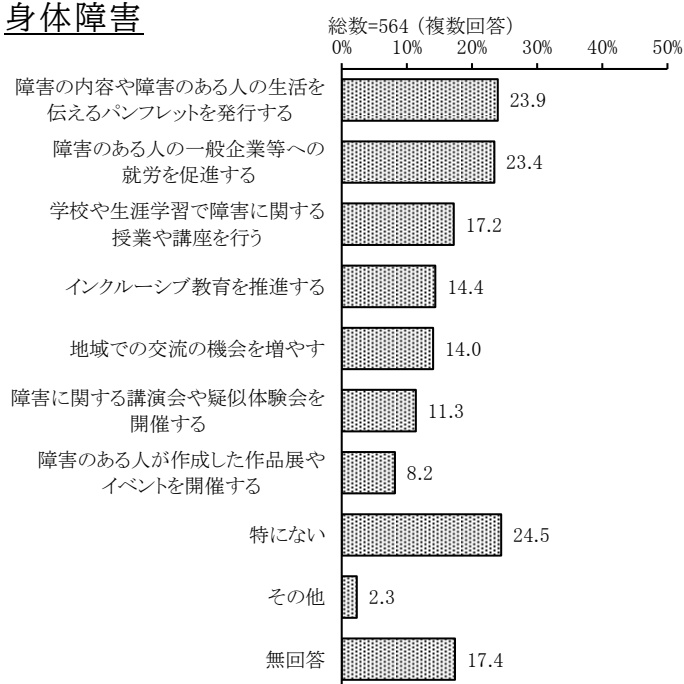
全体では、「障害のある人の一般企業等への就労を促進する」が29.1%と最も多く、次いで「障害の内容や障害のある人の生活を伝えるパンフレットを発行する」が24.7%、「学校や生涯学習で障害に関する授業や講座を行う」が18.9%、「インクルーシブ教育を推進する」が15.6%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「障害の内容や障害のある人の生活を伝えるパンフレットを発行する」が最も多くなっています。精神障害では「障害のある人の一般企業等への就労を促進する」が他の障害と比較して多くなっています。

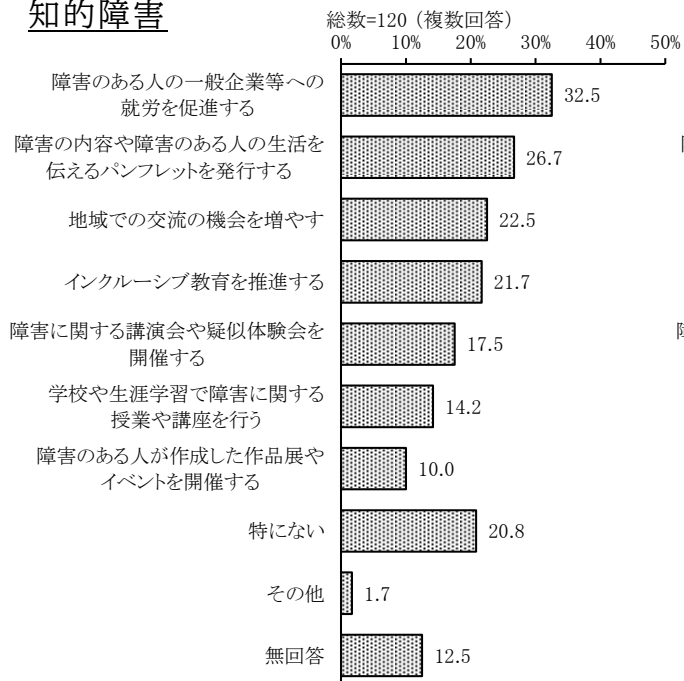
全体



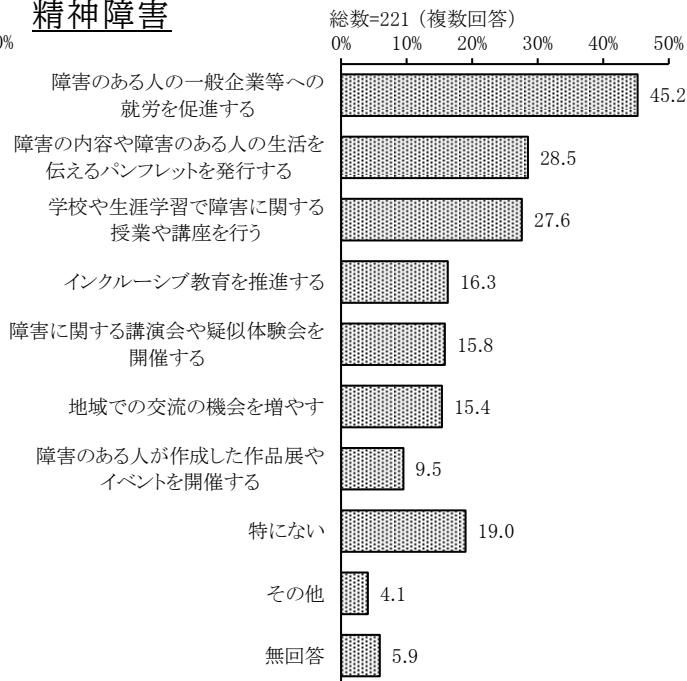
身体障害



知的障害



精神障害



※インクルーシブ教育とは、障害のある子どもが通常学級において、障害のない子どもと共に学ぶ教育のことです。

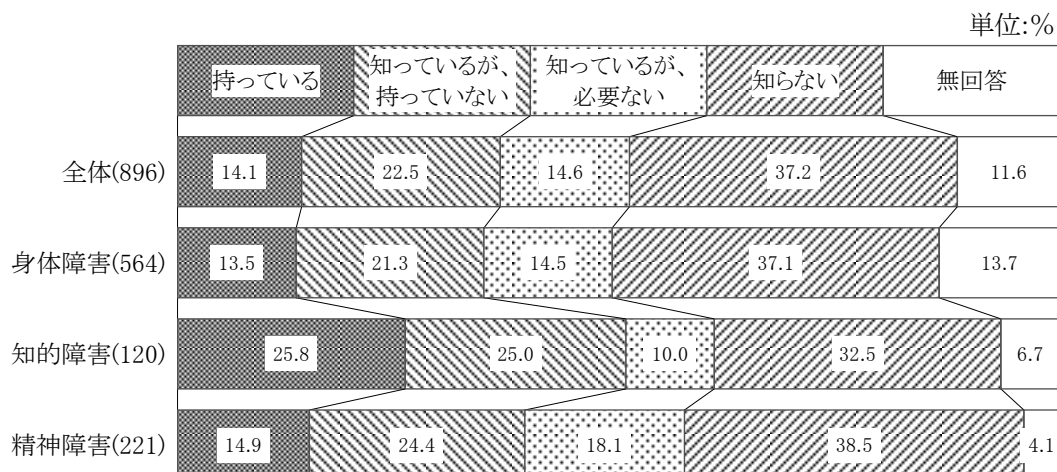
(7) ヘルプカード・ヘルプマークの所持状況

問 45 あなたは、ヘルプカード・ヘルプマークを持っていますか。
(それぞれあてはまるもの1つに○)

①ヘルプカード

全体では、「知らない」が 37.2%と最も多く、次いで「知っているが、持っていない」が 22.5%、「知っているが、必要ない」が 14.6%、「持っている」が 14.1%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「持っている」が他の障害と比較して多くなっています。



年齢別に見ると、身体障害や知的障害では18～39歳で「持っている」が他の年代と比較して多くなっています。

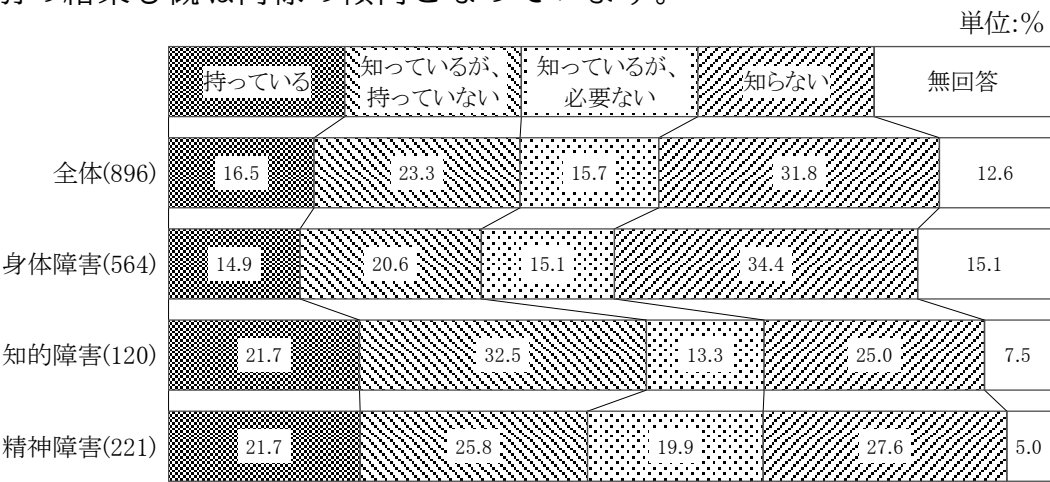
●ヘルプカードの所持状況【年齢別】

		全体	持っている	知っているが、 持っていない	知っているが、 必要ない	知らない	無回答
全体		896 100.0	126 14.1	202 22.5	131 14.6	333 37.2	104 11.6
年齢別	身体障害・18～39歳	20 100.0	8 40.0	3 15.0	4 20.0	4 20.0	1 5.0
	身体障害・40～64歳	79 100.0	20 25.3	16 20.3	9 11.4	31 39.2	3 3.8
	身体障害・65歳以上	465 100.0	48 10.3	101 21.7	69 14.8	174 37.4	73 15.7
	知的障害・18～39歳	74 100.0	24 32.4	22 29.7	7 9.5	18 24.3	3 4.1
	知的障害・40～64歳	40 100.0	7 17.5	7 17.5	5 12.5	16 40.0	5 12.5
	知的障害・65歳以上	6 100.0	—	1 16.7	—	5 83.3	—
	精神障害・18～39歳	53 100.0	8 15.1	12 22.6	10 18.9	22 41.5	1 1.9
	精神障害・40～64歳	142 100.0	22 15.5	38 26.8	26 18.3	52 36.6	4 2.8
	精神障害・65歳以上	26 100.0	3 11.5	4 15.4	4 15.4	11 42.3	4 15.4

②ヘルプマーク

全体では、「知らない」が31.8%と最も多く、次いで「知っているが、持っていない」が23.3%、「持っている」が16.5%、「知っているが、必要ない」が15.7%となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。



(昭島市)



(東京都)

※ヘルプカード・ヘルプマークは、障害のあるかたが緊急時や災害時など困ったときに周囲の配慮や手助けをお願いするものです。市役所等で無料で配布しています。

12. 災害対策について

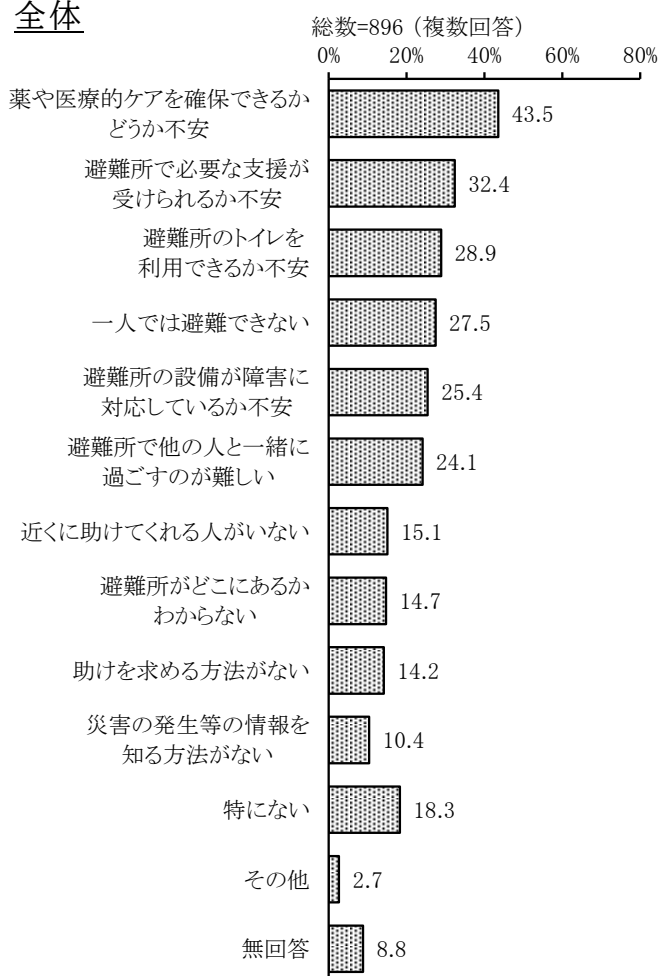
(1) 災害時に困ることや不安なこと

問 46 あなたが、地震等の災害が発生した時に困ることや不安なことは何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

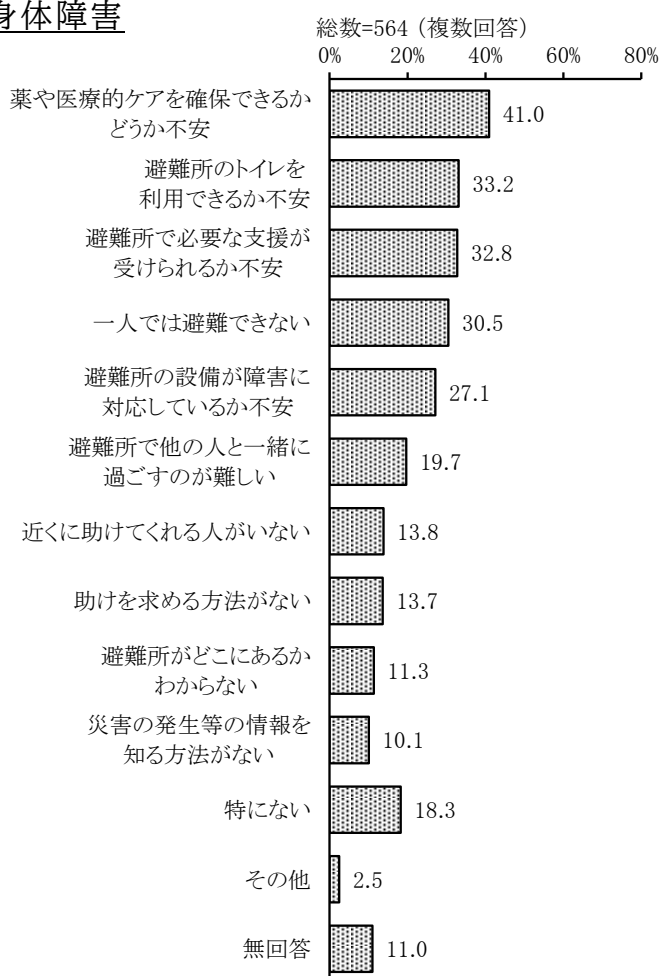
全体では、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が 43.5%と最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が 32.4%、「避難所のトイレを利用できるか不安」が 28.9%、「一人では避難できない」が 27.5%となっています。

障害別に見ると、知的障害では「一人では避難できない」が最も多くなっています。

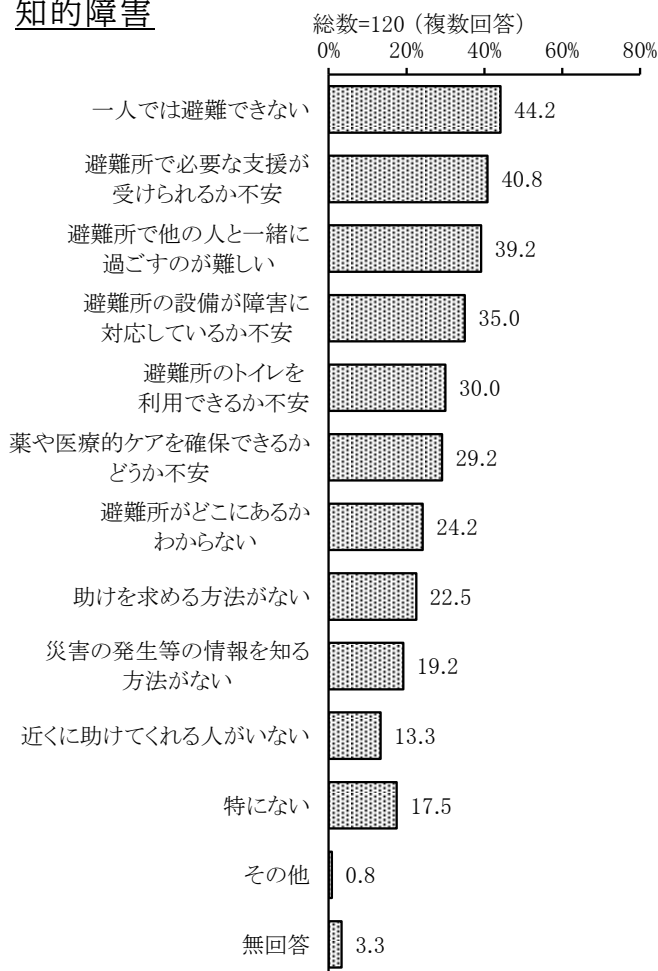
全体



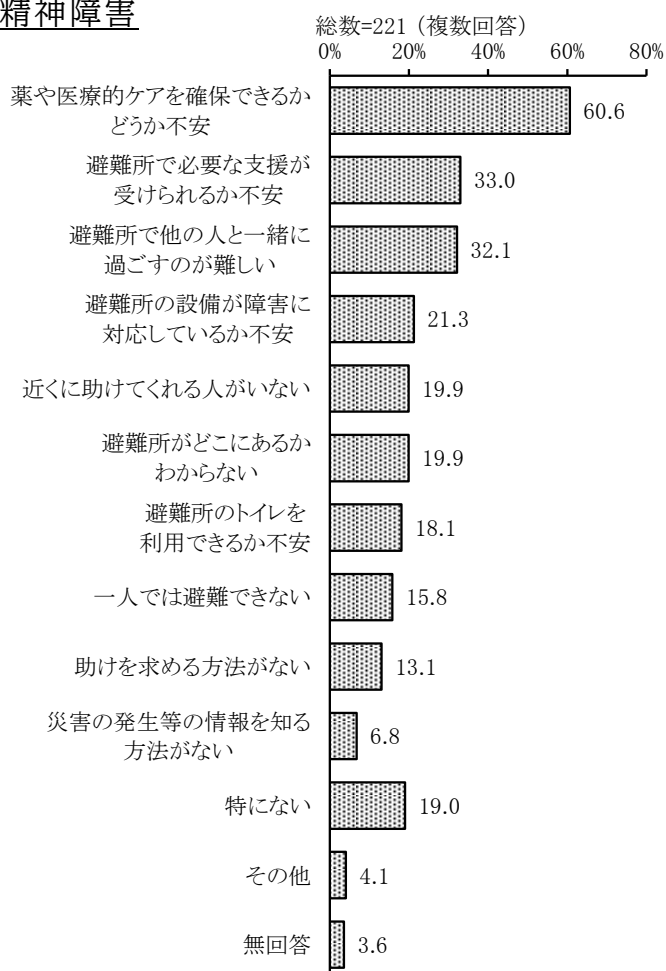
身体障害



知的障害



精神障害



年齢別に見ると、身体障害では18～39歳で「一人では避難できない」「避難所の設備が障害に対応しているか不安」「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が他の年代と比較して多くなっています。

●災害時に困ることや不安なこと【年齢別】

	全体	災害の発生等の情報を知る方法がない	助けを求める方法がない	近くに助けてくれる人がいない	一人では避難できない	避難所がどこにあるかわからない	避難所の設備が障害に対応しているか不安	避難所のトイレを利用できるか不安	避難所で必要な支援が受けられるか不安	避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安	特になし	その他	無回答
全体	896	93	127	135	246	132	228	259	290	216	390	164	24	79
	100.0	10.4	14.2	15.1	27.5	14.7	25.4	28.9	32.4	24.1	43.5	18.3	2.7	8.8
年齢別	身体障害・18～39歳	20	2	3	12	3	12	7	13	10	10	3	-	1
		100.0	10.0	15.0	60.0	15.0	60.0	35.0	65.0	50.0	50.0	15.0	-	5.0
	身体障害・40～64歳	79	13	19	20	24	27	25	28	18	32	12	4	6
		100.0	16.5	24.1	25.3	30.4	34.2	31.6	35.4	22.8	40.5	15.2	5.1	7.6
	身体障害・65歳以上	465	42	55	55	136	51	155	144	83	189	88	10	55
		100.0	9.0	11.8	11.8	29.2	11.0	33.3	31.0	17.8	40.6	18.9	2.2	11.8
	知的障害・18～39歳	74	15	15	6	36	15	27	31	35	25	13	1	2
		100.0	20.3	20.3	8.1	48.6	20.3	36.5	41.9	47.3	33.8	17.6	1.4	2.7
	知的障害・40～64歳	40	7	10	8	15	13	14	17	11	8	6	-	2
		100.0	17.5	25.0	20.0	37.5	32.5	35.0	42.5	27.5	20.0	15.0	-	5.0
年齢別	知的障害・65歳以上	6	1	2	2	2	1	3	1	1	2	2	-	-
		100.0	16.7	33.3	33.3	33.3	16.7	50.0	16.7	16.7	33.3	33.3	-	-
	精神障害・18～39歳	53	1	4	6	9	7	13	23	20	30	10	3	-
		100.0	1.9	7.5	11.3	17.0	13.2	24.5	43.4	37.7	56.6	18.9	5.7	-
	精神障害・40～64歳	142	10	21	32	20	31	29	41	46	92	27	6	4
		100.0	7.0	14.8	22.5	14.1	21.8	20.4	28.9	32.4	64.8	19.0	4.2	2.8
	精神障害・65歳以上	26	4	4	6	6	5	5	9	5	12	5	-	4
		100.0	15.4	15.4	23.1	23.1	19.2	19.2	34.6	19.2	46.2	19.2	-	15.4

身体障害の種類別に見ると、肢体不自由では「避難所の設備が障害に対応しているか不安」「避難所のトイレを利用できるか不安」が、内部障害では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が他の種類と比較して多くなっています。

●災害時に困ることや不安なこと【身体障害の種類別】

		全体	災害の発生等の情報を 知る方法がない	助けを求める方法がない	近くに助け てくれる人 がない	一人では避難 できない	避難所がどこにあるか わからない	避難所の設備が障害に 対応しているか不安	避難所のトイレを 利用できるか不安	避難所で必要な支援が 受けられるか不安	避難所で他の人と一緒に 過ごすのが難しい	薬や医療的ケアを確保 できるかどうか不安	特 に ない	そ の 他	無 回 答
	全体	564 100.0	57 10.1	77 13.7	78 13.8	172 30.5	64 11.3	153 27.1	187 33.2	185 32.8	111 19.7	231 41.0	103 18.3	14 2.5	62 11.0
身体障害 の種類別	視覚障害	41 100.0	6 14.6	5 12.2	2 4.9	20 48.8	5 12.2	11 26.8	12 29.3	15 36.6	9 22.0	15 36.6	3 7.3	-	8 19.5
	聴覚・平衡機能障害	47 100.0	10 21.3	4 8.5	7 14.9	16 34.0	4 8.5	11 23.4	13 27.7	17 36.2	7 14.9	13 27.7	4 8.5	-	9 19.1
	音声・言語・そしゃく 機能障害	20 100.0	2 10.0	4 20.0	1 5.0	9 45.0	1 5.0	6 30.0	7 35.0	6 30.0	8 40.0	9 45.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0
	肢体不自由 (上肢・下肢・体幹等)	275 100.0	28 10.2	47 17.1	49 17.8	105 38.2	38 13.8	103 37.5	119 43.3	94 34.2	66 24.0	103 37.5	56 20.4	11 4.0	24 8.7
	内部障害(心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、 直腸、小腸、免疫機能、肝臓)	203 100.0	14 6.9	21 10.3	20 9.9	39 19.2	20 9.9	32 15.8	54 26.6	62 30.5	29 14.3	105 51.7	38 18.7	4 2.0	17 8.4

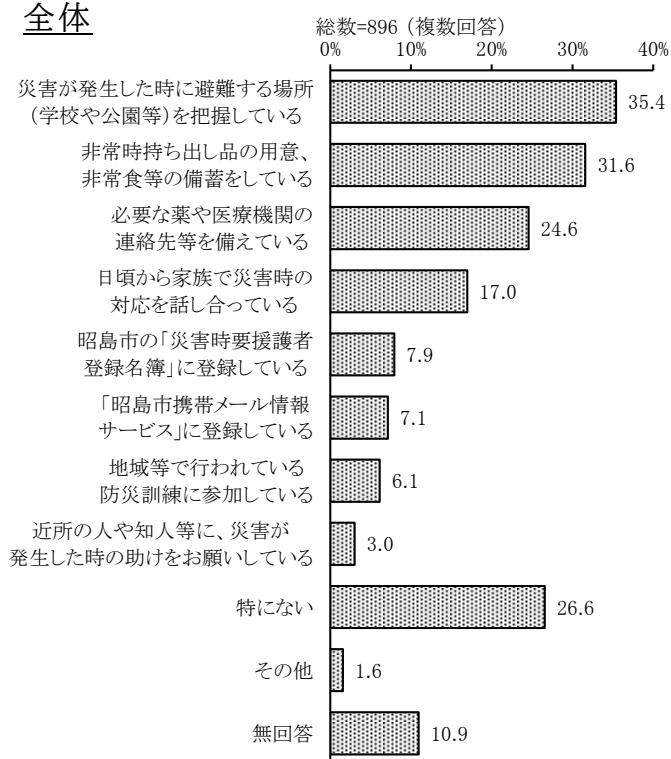
(2) 災害に対する備え

問 47 あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。
(あてはまるもの全てに○)

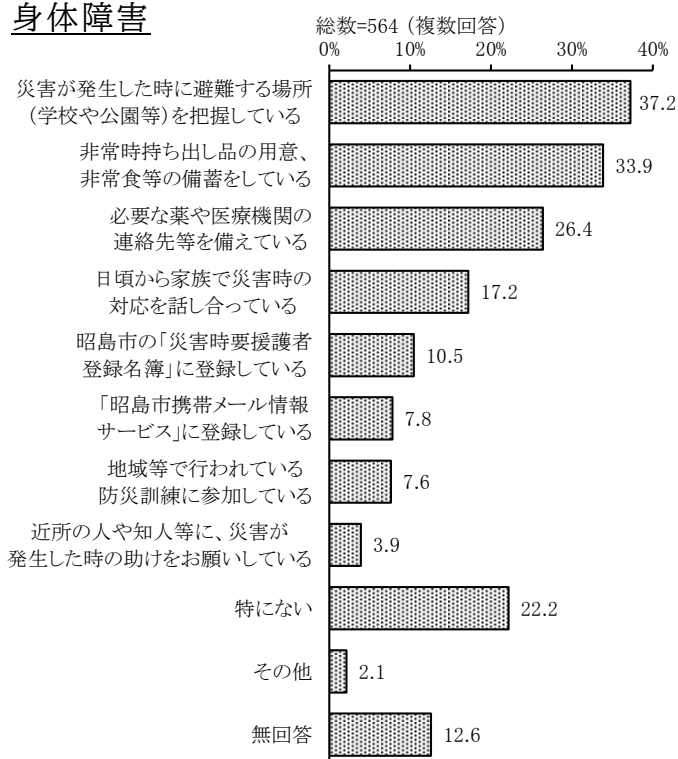
全体では、「災害が発生した時に避難する場所（学校や公園等）を把握している」が35.4%と最も多く、次いで「非常時持ち出し品の用意、非常食等の備蓄をしている」が31.6%、「必要な薬や医療機関の連絡先等を備えている」が24.6%、「日頃から家族で災害時の対応を話し合っている」が17.0%となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向となっています。

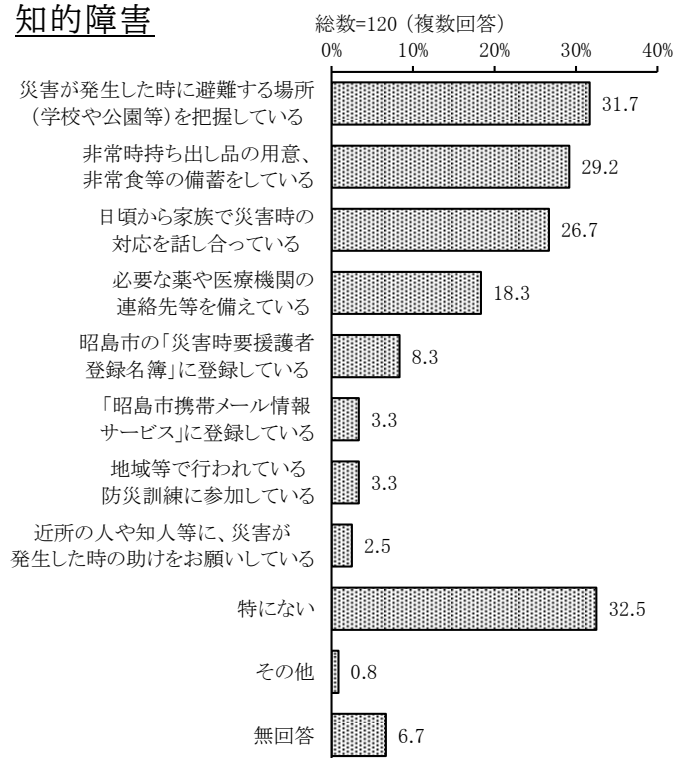
全体



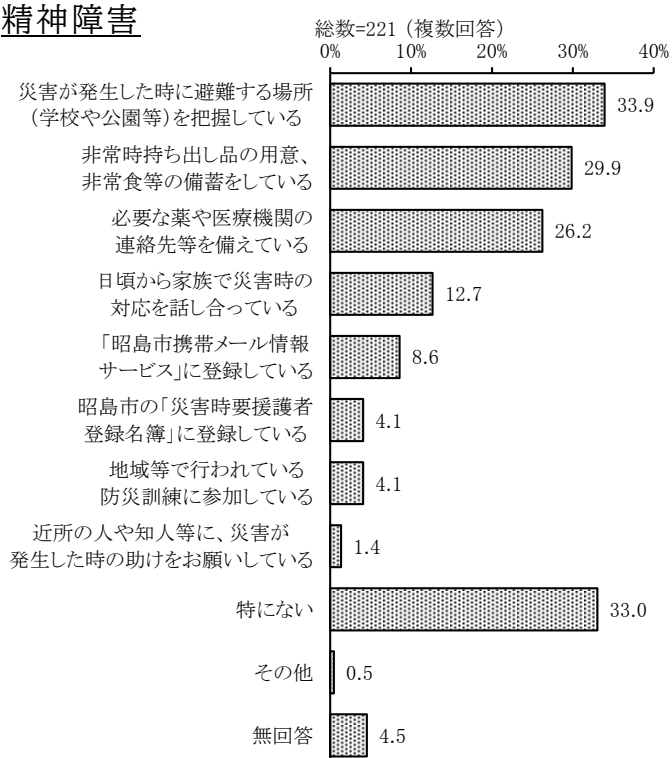
身体障害



知的障害



精神障害



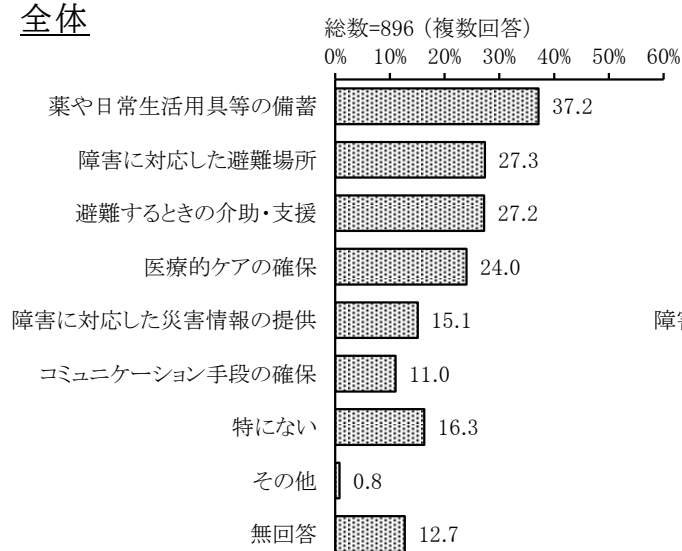
(3) 災害時に必要な支援

問 48 あなたは、災害が発生した時にどのような支援が必要ですか。
(○は3つまで)

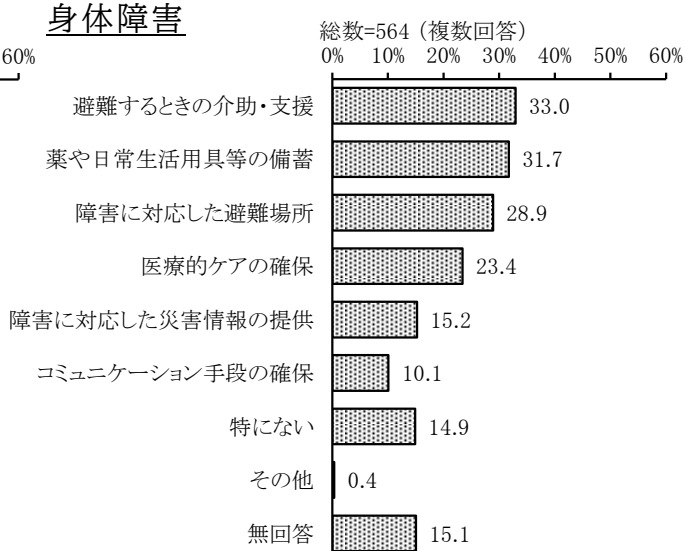
全体では、「薬や日常生活用具等の備蓄」が 37.2%と最も多く、次いで「障害に対応した避難場所」が 27.3%、「避難するときの介助・支援」が 27.2%、「医療的ケアの確保」が 24.0%となっています。

障害別に見ると、身体障害では「避難するときの介助・支援」が、知的障害では「障害に対応した避難場所」が最も多くなっています。精神障害では「薬や日常生活用具等の備蓄」が他の障害と比較して多くなっています。

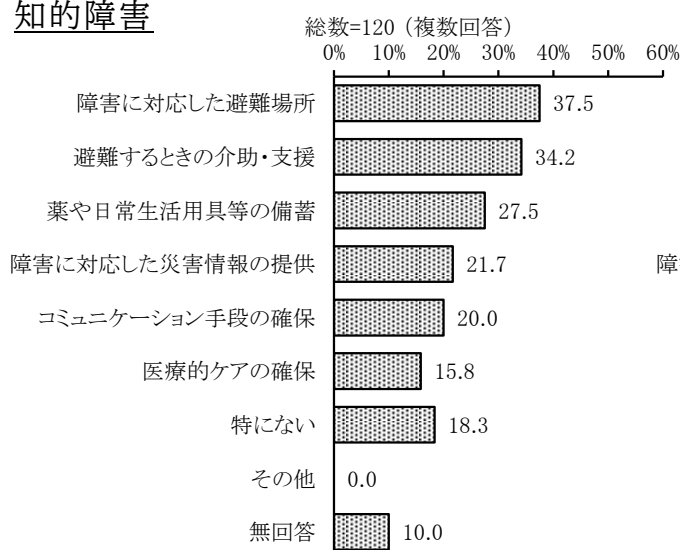
全体



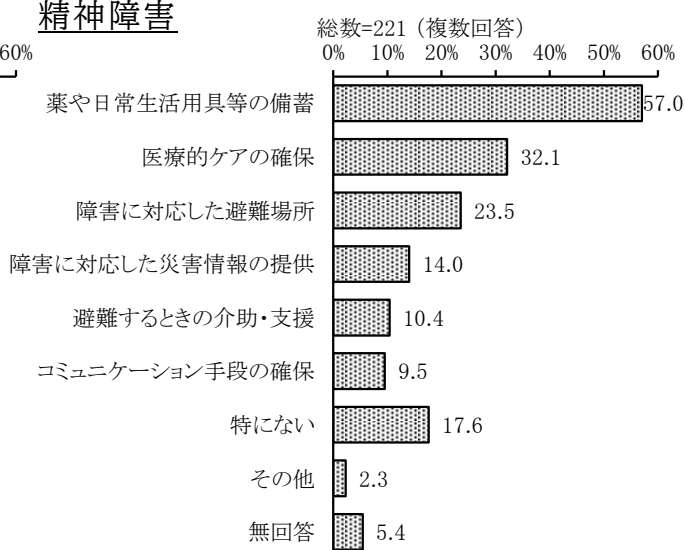
身体障害



知的障害



精神障害



身体障害の種類別に見ると、視覚障害、肢体不自由では「避難するときの介助・支援」「障害に対応した避難場所」が、聴覚・平衡機能障害では「障害に対応した災害情報の提供」「コミュニケーション手段の確保」が他の種類と比較して多くなっています。

●災害時に必要な支援【身体障害の種類別】

		全体	避難するときの 介助・支援	障害に対応した 避難場所	薬や日常生活用具等の 備蓄	医療的ケアの確保	障害に対応した 災害情報の提供	コミュニケーション 手段の確保	特 に な い	その他	無 回 答
	全体	564 100.0	186 33.0	163 28.9	179 31.7	132 23.4	86 15.2	57 10.1	84 14.9	2 0.4	85 15.1
身体障害の種類別	視覚障害	41 100.0	22 53.7	16 39.0	7 17.1	6 14.6	7 17.1	2 4.9	3 7.3	-	8 19.5
	聴覚・平衡機能障害	47 100.0	13 27.7	14 29.8	9 19.1	7 14.9	18 38.3	16 34.0	3 6.4	-	8 17.0
	音声・言語・そしゃく 機能障害	20 100.0	5 25.0	5 25.0	9 45.0	4 20.0	2 10.0	4 20.0	3 15.0	-	1 5.0
	肢体不自由 (上肢・下肢・体幹等)	275 100.0	110 40.0	97 35.3	78 28.4	51 18.5	40 14.5	24 8.7	44 16.0	1 0.4	40 14.5
	内部障害（心臓、呼吸器、腎臓、ぼうこう、 直腸、小腸、免疫機能、肝臓）	203 100.0	47 23.2	40 19.7	87 42.9	72 35.5	29 14.3	16 7.9	28 13.8	1 0.5	25 12.3

13. 昭島市の障害者施策について

(1) 重点的に行うべき施策

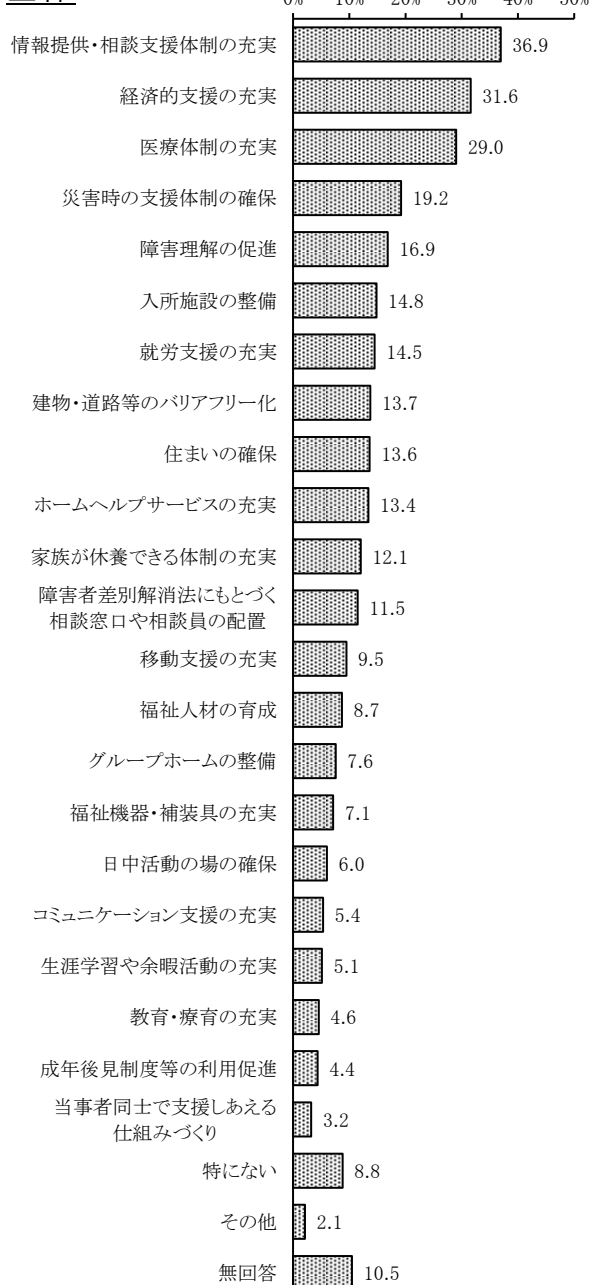
問 49 あなたは障害のあるかたが地域で安心して暮らしていくために、昭島市がどのような施策を重点的に行うべきだと思いますか。(〇は5つまで)

全体では、「情報提供・相談支援体制の充実」が36.9%と最も多く、次いで「経済的支援の充実」が31.6%、「医療体制の充実」が29.0%、「災害時の支援体制の確保」が19.2%となっています。

障害別に見ると、精神障害では「経済的支援の充実」が最も多くなっています。知的障害では「グループホームの整備」が他の障害と比較して多くなっています。

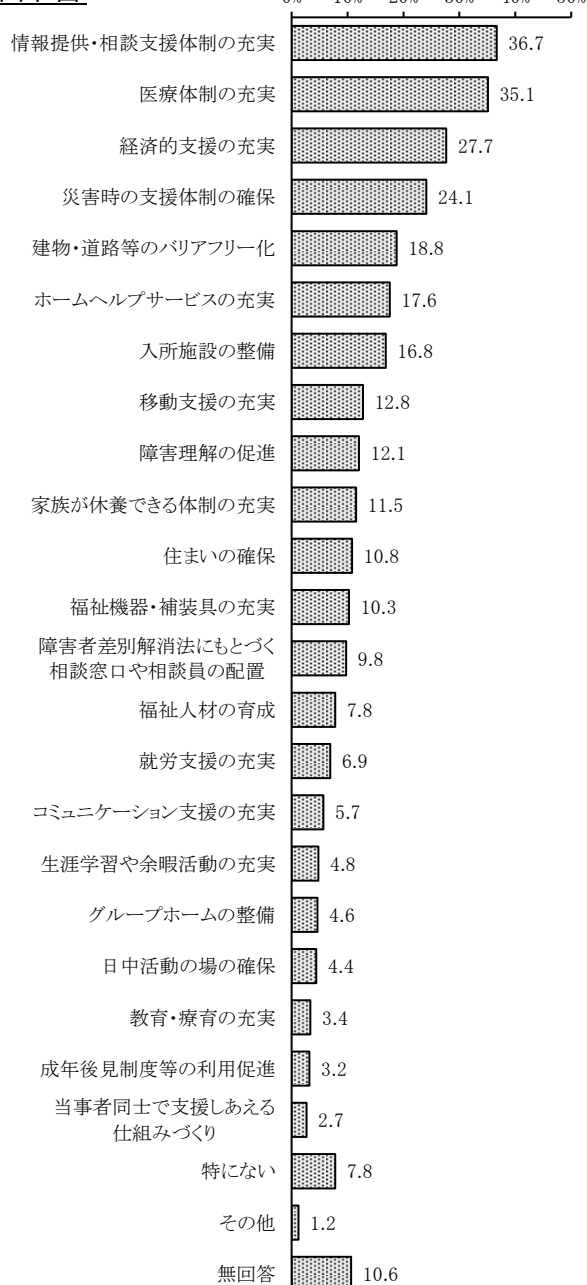
全体

総数=896 (複数回答)
0% 10% 20% 30% 40% 50%

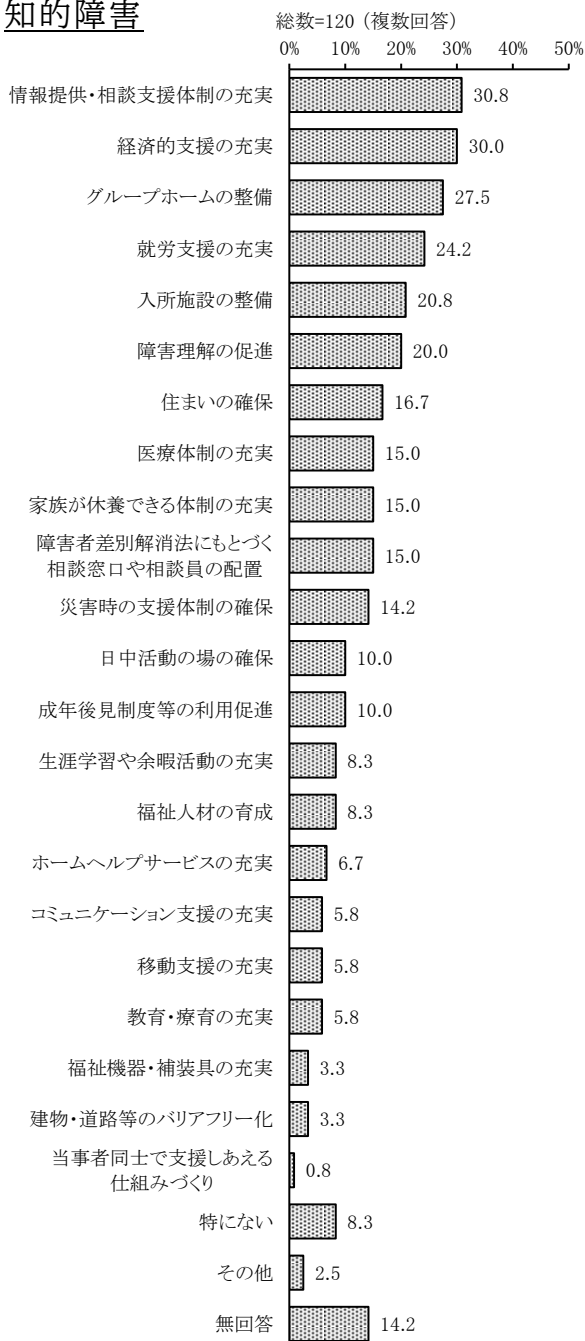


身体障害

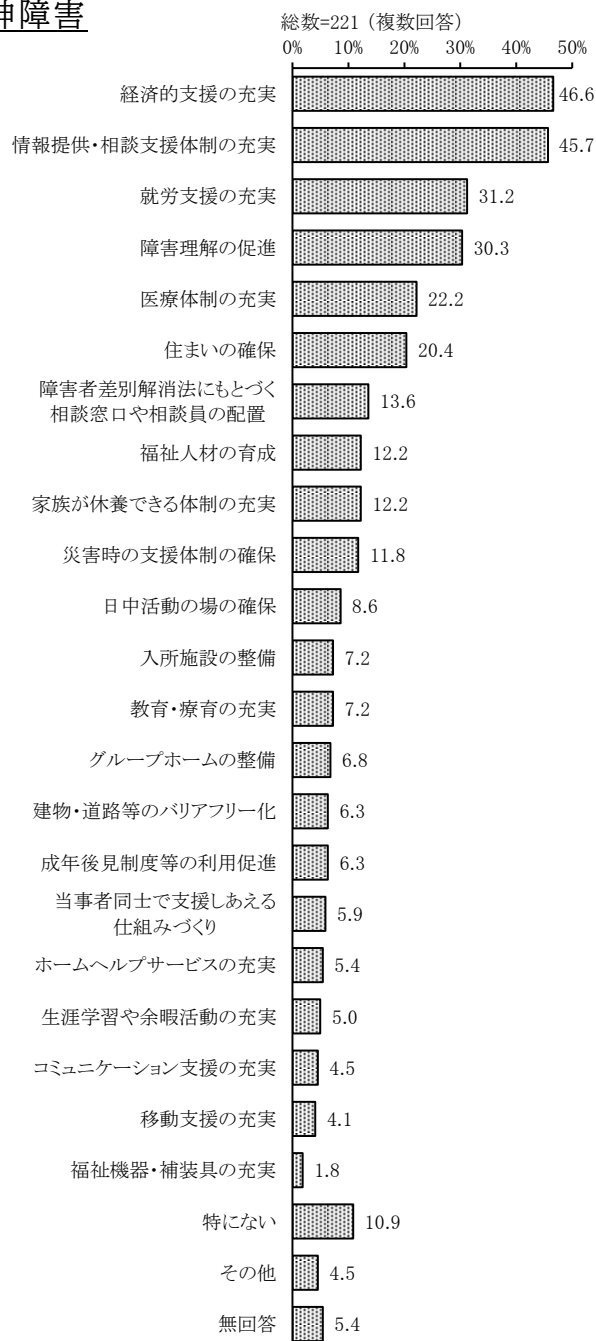
総数=564 (複数回答)
0% 10% 20% 30% 40% 50%



知的障害



精神障害



(2) 自由意見

問 50 昭島市の障害者施策に関して、ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

「行政への意見・要望」が 99 件と最も多く、次いで「福祉サービス」が 64 件、「障害理解」が 37 件、「生活環境」が 27 件となっています。

回答の内容		件数	回答の内容		件数
1	行政への意見・要望	99	6	医療・健康	23
2	福祉サービス	64	7	雇用・就労	12
3	障害理解	37	8	将来の不安	11
4	生活環境	27		その他	90
5	経済的支援	25	総件数		221

※複数の内容を含む回答があるため、各分野の件数の合計は総件数を超えています。

●主な意見

※ここで掲載した回答は、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

①行政への意見・要望

意 見	障害の種類	性別・年齢
手続きがたくさんあって大変なのですが、どれが必要なのかわかりやすいようにしてほしいので、あとどの手続きが必要でどれをするとオススメか選択しやすいようにチェックリストになっているような一覧の紙等が手元にあるとわかりやすいです。少しずつ手続きをしていくにつれ、色々必要そうだなと思う手続きが後に数件出てきました。	精神障害	女性 30 代
昭島市がどのような取り組みをしているのか良く知らない。自立支援医療や障害者手帳の手続きが、WEBで出来るようになると嬉しい。手続きの為に仕事を休まなくてはならないので、賃金が減ってつらい。	精神障害	女性 50 代
日ごろから広報的なもので特集を組んだり、別紙で紹介したり、医療機関に配布するとよいと思う。市内の施設や施策、枠組みなどをほとんど知りませんでした。もっと目にする機会を増やしてください。	精神障害	女性 50 代
他自治体のすぐれた部分は積極的に取り入れてほしいです。	聴覚障害	女性 80 代

難聴者のための配慮として広報の申し込み先に電話だけでなくFAXやメールも併記してほしい。講演会等でノートテイク、要約筆記が有とか希望すれば付けられるとか、個人での要望や確認をしなくても誰でも参加申し込み可能になるようにしてもらえたらうれしいです。	聴覚障害	女性 60代
---	------	-----------

②福祉サービス

意 見	障害の種類	性別・年齢
学生生活は12年間ですが、高校卒業後は12年間よりはるかに長い期間を過ごします。卒業後の入所、グループホームの充実を考えていただきたいです。	肢体不自由 知的障害	男性 20代
移動支援のヘルパーさんの不足を感じます。親と一緒にいけない年齢になってくるので、手厚くしてほしい項目です。	知的障害	男性 20代
障害者のグループホームや入所施設が少ない。また、自立して暮らせるためのシステムが不十分であると感じます。親がいなくても生活していけるような制度、施設の充実を望みます。	精神障害	男性 30代
現在は訪問看護と親が半々でトイレ介助をしているが、入浴介助はすべて高齢の親がしている。親亡き後は全面的に訪問看護が必要となってくるので金銭的に大変になってくる。質の高い人材育成と障害者の負担軽減を望みます。	肢体不自由	男性 40代
ホームヘルパーは事業所により異なると思うが、より高いヘルパーへの指導が必要かと思います。ヘルパーのレベルの差を感じる。	肢体不自由	女性 60代

③障害理解

意 見	障害の種類	性別・年齢
うちの子供たちは見た目が普通なので、障害を理解してくれない人たちがたくさんいます。私たちがいなくなった時はこの子たちはどうしたらいいかわかりません。どこに相談したらいいかわからないです。	知的障害	男性 20代
昭島には特にはないのですが、現在進行形で職場からの扱いがひどいので、そういうのを相談できる窓口が欲しい。するのなら教えてほしい。ただ、平日は利用が仕事で厳しいので、休日等で利用できると助かります。	精神障害	男性 40代

発達障害は見えない障害だと理解してほしいです。そして、感覚過敏も一緒に知ってもらえると理解しやすいと思います。みんなが出来ることが出来ないのはとても悲しいし、それを理解してくれる地域があったらと思います。なので困っていることが何か知ってもらい、みんなで解決を考えてもらえたら、自然に理解できると思います。	精神障害	女性 40代
障害理解の促進に力を入れてほしい。職場での理解が全くないので、普通に働くことがどんなにつらいか説明しにいてほしい。助けてほしい。	肢体不自由 精神障害	女性 50代
道行く方々もみんなよく気配りをしてくださいます。公的支援は言うまでもないことですが、そうした周りの方々（見知らぬ人も含め）の、ちょっとした気遣いが私たちの大きな支えになると感じています。	身体障害 (種類無回答)	女性 70代

④生活環境

意 見	障害の種類	性別・年齢
駅、スーパー、病院周辺の信号機に音声をつけていただきたい。赤信号を無視する人が多く、轢かれそうになったことがある為。	視覚障害	女性 30代
狭い道路を歩いている時に、車が通ると恐怖を感じます。また、そういった時に正面から人が歩いてくると人と車の両方を避けながら歩くのが大変だし、更に恐ろしいです（体の動きが不自由で遅いため）。簡単には決まらないとは思いますが、ガードレールの設置等考えて頂ければありがたいです。	肢体不自由	男性 40代
まずは道路整備が必要。重度障害者が外出困難な理由の一つとして、歩道が狭く、段差が多い為、一人では外出できない。町の商店では買い物が不可能なので大型ショッピング施設に行くとすれば、ドライバーと介助者が必要となる。	肢体不自由	男性 40代
院内や交通機関に対して、パネルなどでの表示を依頼してほしい。特に交通機関は急なトラブルで停まってしまった時、車内アナウンスが聞き取りづらい。設置してる画面に状況を表示させてもらいたい。音声文字変換機能をパネルに反映とか。	聴覚障害	その他 50代

⑤経済的支援

意 見	障害の種類	性別・年齢
経済的支援金の給付金が必要。	精神障害	男性 30 代
妻と自身の年金のみで生活せざるを得ず、経済的にかなり厳しい状態、働きたくとも身体が動かず。障害年金の対象となっていない。ぜひ何とかお考えいただきたい。	肢体不自由	男性 70 代
障害者の税金をもっと優遇してほしい。優遇というより、医療保険関係に支払う金額をもっと減らしてほしい。	視覚障害	男性 80 代

⑥医療・健康

意 見	障害の種類	性別・年齢
専門的な病院や医療体制が不足していると感じる。医療スタッフ（医師、看護師含め）の質も不足していると感じるため、向上をしてもらいたい。設備の充実化、施設をもっと増やしていつてもらいたい。	肢体不自由	男性 30 代
精神科だけではなく、他科の病気で入院する際、精神科の主治医が個室でなければならないと判断したら、個室のベッド代のいくらかを補助してほしい。以前入院したときに金額面から仕方なく大部屋にしたら、ひどいパニック発作を起こし、退院してからも 1 年以上発作が続いたことがある。同じような人は他にいないのではないかと思います。	精神障害	女性 30 代
医療機関、就労継続支援事業所、相談支援事業所が一体となり、横の関係が出来るようになれば良い。1 つ 1 つバラバラだと知らない情報があり、いちいち説明しないとわかってもらえず辛い。1 人に対して色々なアドバイスをしてここではこういうのがあり、こういう会話をしたからこのような考えはどうですかなど個人に対して様々な意見を聞きたい。	精神障害	女性 40 代

⑦雇用・就労

意 見	障害の種類	性別・年齢
妻も子供もいる家庭を持っている障害者への支援をお願いします。例えば、昭島市職員の求人の年齢制限を 40 代まで広げたり、昭島市の民間会社の就労促進。こちらも 40 代にチャンスをしていただきたいです。	精神障害	男性 40 代
福祉作業所の工賃が安すぎるので、もう少し賃金を上げてほしいと思う。	精神障害	女性 50 代

私は今、高齢者施設で働いています。左足に障害がありますが、あえて現場で立って（本来は寝たきりですが）皿洗いをしています。本来であれば座っていなければなりません、あえて自分と戦っています。	肢体不自由	男性 50代
---	-------	-----------

⑧将来の不安

意 見	障害の種類	性別・年齢
本人と私（父）の2人暮らしです。将来、私がいなくなった後、娘本人が一人で生きて行けるかとても不安です。自立できるような支援があるとありがたいです。	内部障害	女性 20代
親亡き後の障害を持った子供の生活がすごく気になる年になりました。今は作業所に行っておりますが、コロナになってから休みがちになっています。グループホームの整備、日中活動の場の確保を強く願います。	知的障害	男性 30代
全てを親に依存しています。親はいつまでもいると思っています。親亡き後がとても心配です。地元の学校を出ていませんので、近所でもあまり知られてないと思います。災害時でも、親が出来る限りの対策はしているつもりですが、パニックにならねば良いと思っています。	知的障害	男性 30代

⑨その他

意 見	障害の種類	性別・年齢
昭島市は待機児童が少なく、手帳で子供2人保育園に通わせることが出来ていてありがたいです。ただ、障害に対してオープンな雰囲気ではないので、ママ友、クラスの保護者には特に話しておらず就労していると思われています。障害の種類は違っても同じ思いで通園させている方々と交流できる場が欲しいと以前から思っています。	精神障害	女性 30代
障害者をターゲットにした詐欺の対策、防止に努めてほしい。障害者でも結婚できる権利を。就労へのハードルが下がるように検討していただきたい。	精神障害	男性 40代
災害時の不安、薬の不安、災害時の生活。	精神障害	女性 50代
障害者だけでなく、一人暮らしの老人が月に1回くらい集まってみんなで過ごせるような場所が地域にあったらと思います。知るすべもないので回覧板を自治会に回してもらうなど。前はありましたがコロナで中止に、また、そういう場所が出来たら、励みになります。	肢体不自由	女性 70代